イセキ田植機

取扱説明書

井関農機株式会社

田植機重要安全ポイント

1. ほ場まで移動するときは、
   トラック等に載せて運搬します。

2. 燃料を補給するときは、
   火気厳禁とします。
   エンジンを停止し冷機状態で行います。

3. エンジンを始動するときは、
   ブレーキペダルを踏み込んで行います。
   周囲の安全を確認してから行います。

4. トラックへ積み降ろしするときは、
   強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用します。
   スピードを落としアユミ板の中央を上り、下りします。
   上り、下りの途中では、ブレーキペダルや主変速レバーを操作しません。
   アユミ板の上でステアリングを大きく操作しません。

5. ほ場へ出入りするときは、
   スピードを落としあぜに直角に走行します。
   上り、下りの途中では、ブレーキペダルや主変速レバーを操作しません。

6. 田植機や作業機を点検整備するときは、
   必ず安全な場所で、エンジンを止め、植付部の油圧を固定します。

7. 補助者と共同作業を行なうときは、
   合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとりあげております。
よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

は じ め に

●この度は、ヰセキ田植機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

●この説明書は、田植機を使用する際に是非、守っていただき安全作業に関する基礎的事項、田植機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●田植機を初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、十分理解され安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。

●田植機を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた先にご注文ください。

●なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本田植機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げいただいた先にご相談ください。

●取扱説明書の中の⚠ 重要 表示は、下記の様に安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
重要	製品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

●この取扱説明書では、同じシリーズの型式、区分の田植機について併記してあります。
お買い上げいただいた田植機の型式、区分名を、機体に貼付してある銘板で確認され、
該当する部分をお読みください。

型式記号	装備内容
U	パワーステアリング
B	大株仕様

目次

安全のポイント

非特殊自動車としての取扱い……………1
安全な作業をするために………………1
運転者の条件………………………………1
人に機械を貸すときに……………………2
作業を開始する前に………………………2
エンジンの始動と発進……………………3
走行するときは……………………………4
トラックへの積み・降ろし………………6
作業中は……………………………………7
夜間作業の禁止について…………………7
点検・整備…………………………………8
格納・保管時は……………………………9
電装関係を扱うときは……………………10
電気配線点検時の注意事項………………10
バッテリ取扱い時の注意事項……………10
ブースタケーブル使用時の注意事項……11
バッテリ液の注意事項……………………11
安全表示ラベルについて…………………12

保証とサービスについて……………………………………14

各部の名称とはたらき

各部の名称…………………………………15
計器およびスイッチのはたらき……17
スイッチのはたらき………………………17
計器のはたらき……………………………18
レバー、ペダル、シート関係の取扱い…20
アクセルレバーとアクセルペダル………20
チョークノブ………………………………20
ブレーキペダル……………………………21
主変速レバー………………………………22
ＰＴＯ切替レバー…………………………22
副変速レバー………………………………23
前輪デフロックペダル……………………23
ＳＳレバー…………………………………24
4輪ブレーキ解除レバー…………………25
株数切替レバー……………………………25
疎植レバー…………………………………25
植付クラッチレバー………………………25
油圧感度調節レバー………………………26
植込杆停止レバー…………………………26
バックリフト切替レバー…………………26
苗取量調節レバー…………………………27
植付深さ調節レバー………………………27
横送り切替レバー…………………………27
ナエオサエ…………………………………27
苗ストッパー………………………………28
座席の調節…………………………………28
回転式補助苗枠（PQ4）…………………29

作業前の点検

給油、注油箇所の点検と補給……30
燃料（無鉛ガソリン）……………………31
エンジンオイル……………………………31
チェンジミッションオイル………………32
植込杆………………………………………32
グリース注入箇所…………………………33
グリース塗布箇所…………………………33
オイル注油箇所……………………………33

運転のしかた

エンジンの始動と停止のしかた……33
エンジンの始動……35
エンジンの停止……36
発進、停止、駐車のしかた……37
発進のしかた……37
停車のしかた……37
駐車のしかた……38
移動、運搬のしかた……38
走行のしかた……38
トラックへの積み・降ろしのしかた……40
運搬中の固定方法……41
ほ場への出入のしかた……42
ほ場への出入りかた……42
ほ場からの出かた……42

植付のしかた

ほ場の準備……43
ほ場の準備……43
植付作業前の準備……44
植付株数（株間）の決めかた……44
疎植レバーと株数切替レバーの切替えかた…45
植付深さの調節のしかた……46
横送り量の切替えかた……47
苗取り量の調節のしかた……48
油圧感度調節のしかた……49
抵抗棒の調節のしかた……50
植付作業の手順……51
枕地のとりかた……53
旋回のしかた……53
オートマーカの使いかた……54
マーカ両出しのしかた……54
バックリフトの使いかた……55
苗の補給のしかた……56
植えじまいのしかた……57
残り苗の取り出し……59
安全クラッチが作動したとき……59

点検整備

定期的な点検整備……60
点検・給油・調整一覧表……60
エンジンオイルの交換……62
エアクリーナエレメント洗浄……63
点火プラグの清掃……63
燃料ファイルの清掃……64
油圧サクションファイルの清掃……64
リヤミッションオイルの給油……65
植付クラッチケースの給油……65
ブレーキペダルの点検……66
主変速レバーの点検……66
バッテリの点検と取扱……67
ヒューズの交換……68
スローブローヒューズの交換……69
ランプの交換……68
フィンガ（13／G）（14／G）の点検交換…70
作業後の手入……71
作業後の手入……71
長期格納……72

不調時の処置

不調時の処置……73

電動ベルコンの応急処置……77

農作業を安全に行うために

農作業を安全に行うために……78

サービス資料

推奨潤滑油一覧表……81

主要諸元……82

機能装備一覧表……83

標準付属品……84

主な消耗部品一覧表……86

注文部品一覧表……89

安全のポイント

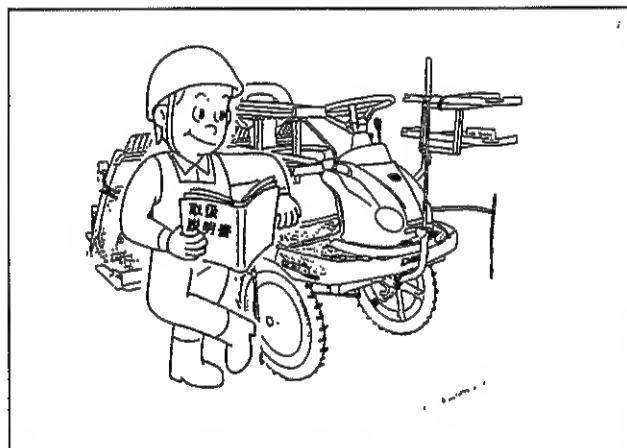
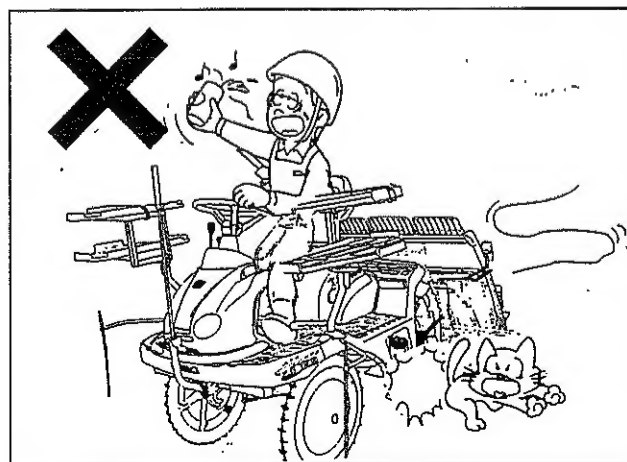
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

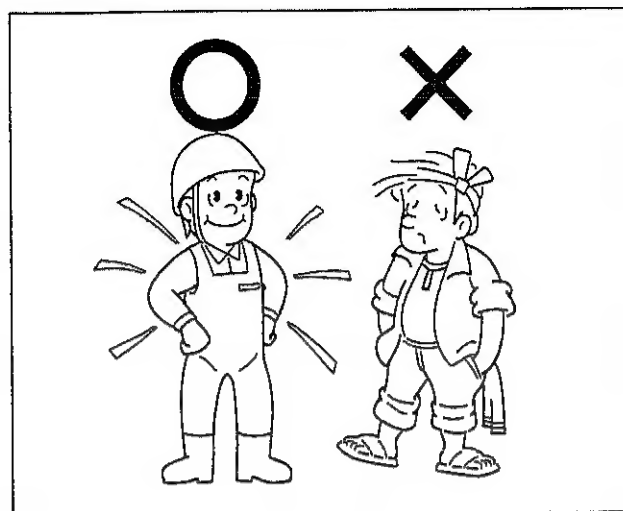
非特殊自動車としての取扱い

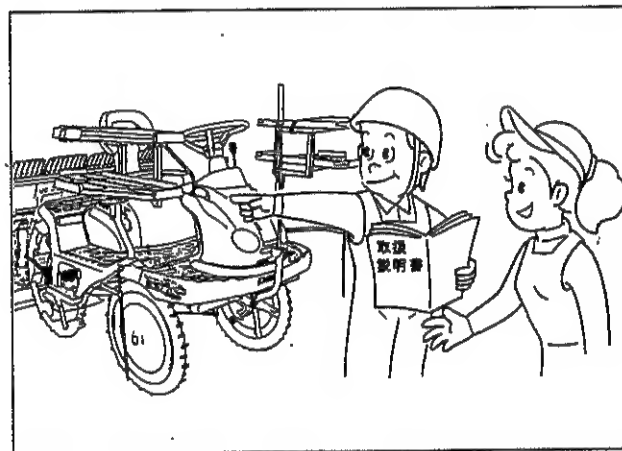
この田植機は、小型特殊自動車（農耕作業用自動車）として、道路走行車両の型式認定を受けておりません。従って、一般道路を走行することは、違法行為になります。移動する場合は、トラックなどに載せて運搬してください。

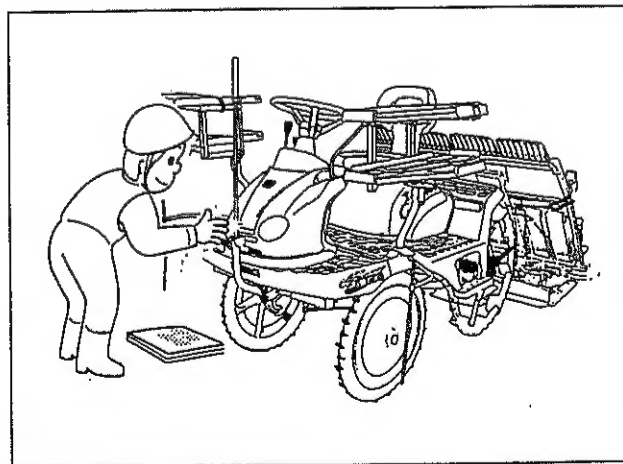
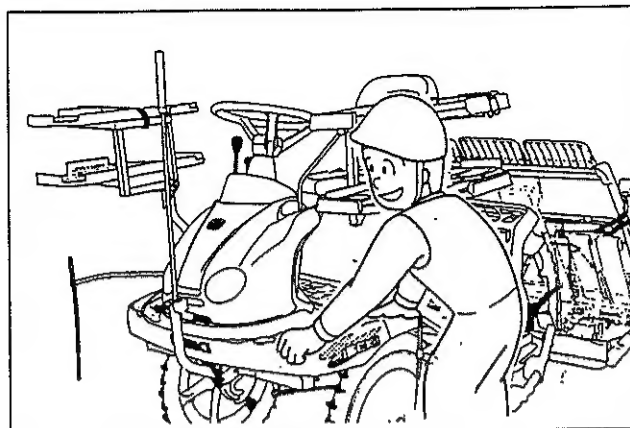
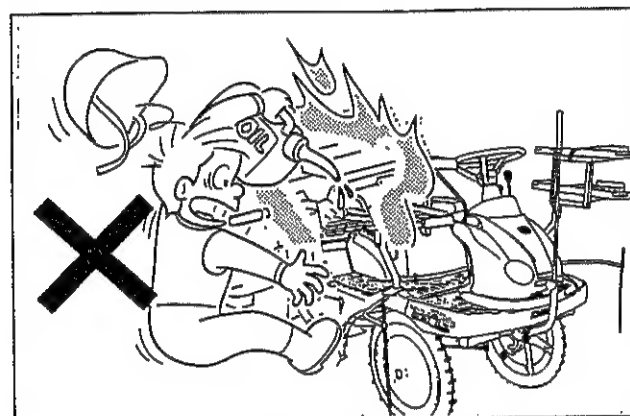
安全な作業をするために

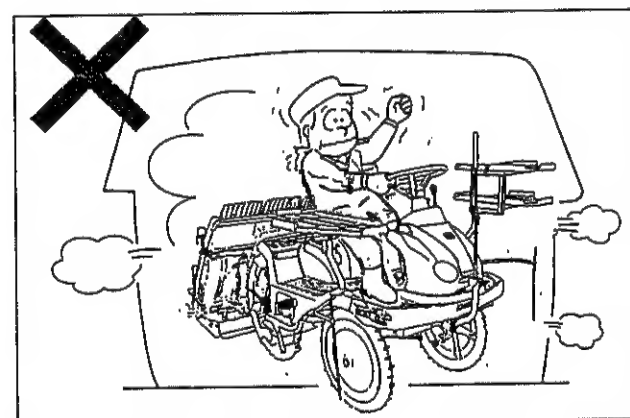
■運転者の条件

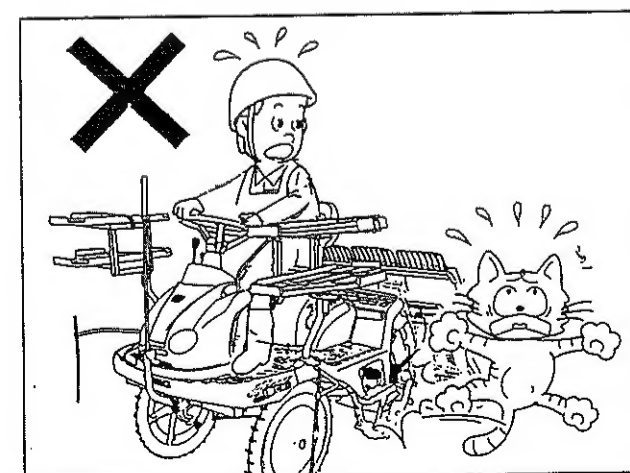
(1) この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。

(2) 飲酒時や過労ぎみの時、作業をしてはいけません。このようなとき作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業するときは、必ず心身とも健康な状態で行なってください。

(3) 服装は作業に適したものを着てください。服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。ヘルメットや適正な保護具も着用してください。

(4) 妊娠している人、18才未満の人は運転をしないでください。

■人に機械を貸すときは

機械を貸すときは、取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

■作業を開始する前に

(1) 無理のないゆとりある作業計画をたてましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。
(2) 作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行なってください。特に、ブレーキ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

(3) 安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外れたままエンジンをかけたり、作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。

(4) 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。

■エンジンの始動と発進

(1) 室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

(2) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、ブレーキペダル・主変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行なってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。

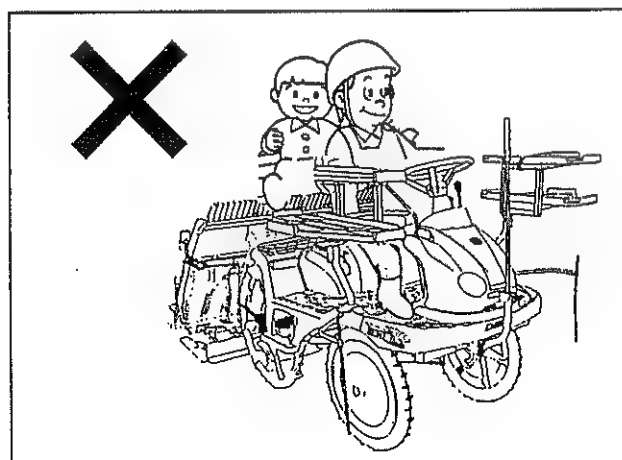
(3) 発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
特に子供に注意してください。

■走行するときは

(1) この田植機は、自動車としての認定を受けていません。従って、一般道路を乗用走行することは違法行為になります。ほ場等への移動は、必ずトラック等に載せて移動してください。

(2) ステアリングやブレーキは、正しく操作し、わき見運転や片手運転をしてはいけません。接触事故や、転倒事故につながり大変危険です。

(3) 停止するときは、まずアクセルレバーを前方に押して、エンジン回転を低速にしてから、ブレーキペダルを踏み込んでください。主変速レバーでも停止することが出来ますが、緊急操作時は使用しないでください。ブレーキペダルを踏み込むとクラッチが切れ、同時に4輪ブレーキが作動しますので、高速走行中にブレーキペダルを急激に踏み込むと急ブレーキがかかり反動で機械から振り落とされるおそれがあります。緊急時、やむを得ず急ブレーキをかける時は、必ずハンドルを両手でしっかり握ってください。

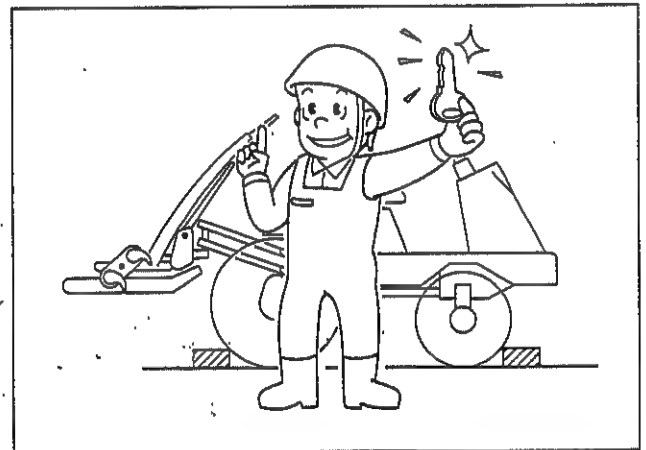
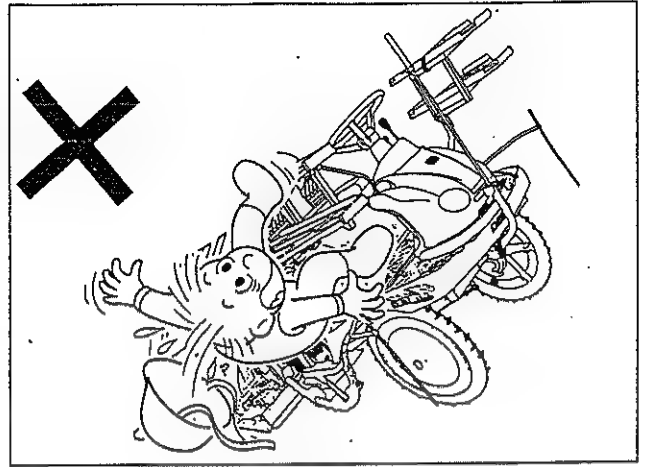
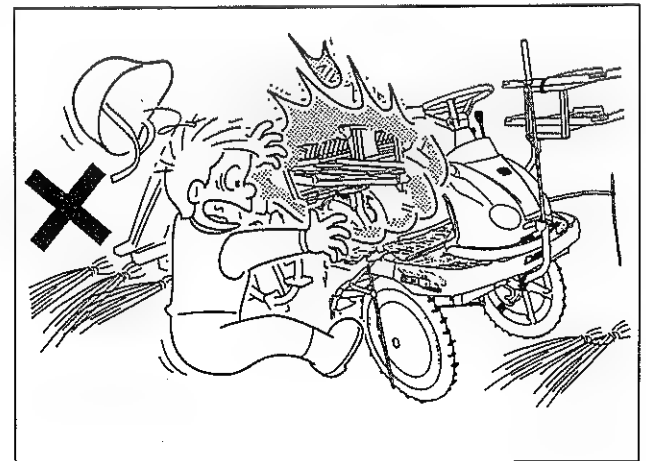
(4) 田植作業以外の時は、必ずデフロックペダルを解除してあるか確認してください。解除してないと転落事故を引き起こす恐れがあります。

(5) 田植機の上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。人が転落したりして大変危険です。

(7) 高速で急旋回しないでください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。

(8) 凹凸の激しい場所、地面の軟弱な場所、傾斜地等での高速運転は、しないでください。地面状況に応じた安全な速度で走行してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

(9) 坂道では、急な旋回をしてはいけません。急旋回すると、転倒事故の原因になり大変危険です。また坂道を上り下りするときは、低速で走行してください。特に、下りるときは、副変速レバーを「超低速」にしてエンジンブレーキをかけ、ブレーキペダルは使用しないでください。ブレーキペダルを踏み込むとクラッチが切れスリップや転倒の原因となり大変危険です。停止するときとエンジン始動時以外はブレーキペダルを踏み込まないようにしてください。

(10) 側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。路肩が崩れて、転倒したりして大変危険です。

(11) 田植機から離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチを抜き取り、主変速レバーを「駐車」の位置にし、駐車ブレーキを掛けて、車止めをしてください。
また、止めるところは、広い地面の硬い場所を選んでください。田植機が、自然に動き出したりして大変危険です。

(12) 田植機を草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因になる恐れがあります。

■トラックへの積み・降ろし

(1) 積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速レバーを「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。これを怠ると、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

(2) 誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行なってください。また、機械の直前や直後には、絶対に立たないでください。傷害事故の原因になり大変危険です。

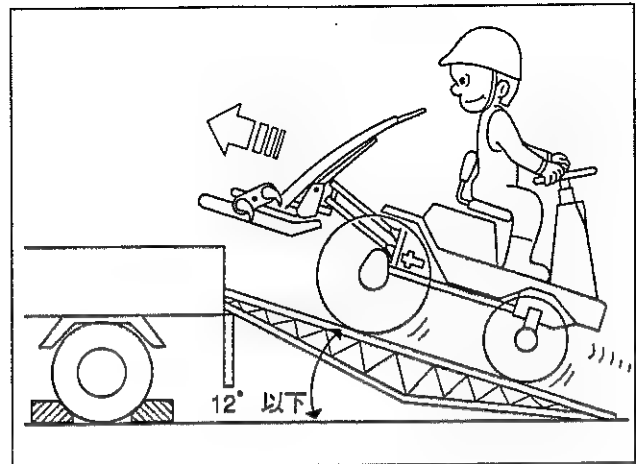
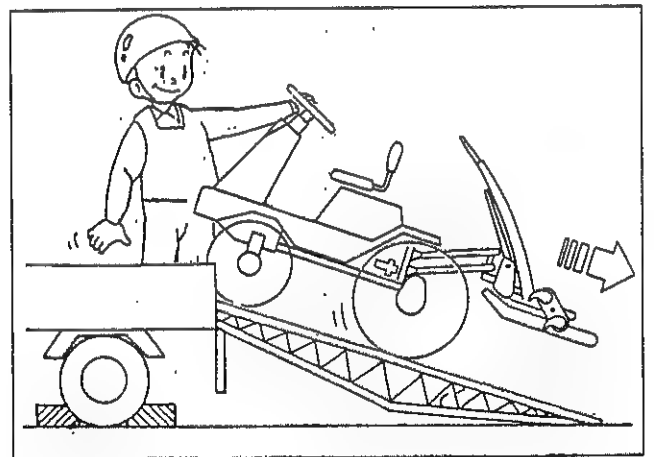
(3) 積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、副変速レバーを「超低速」にし、積み込みは「後進」、降ろす時は「前進の1段目」で、ゆっくり行なってください。これを怠ると、転落事故の原因になり大変危険です。

〈アユミ板の条件〉
- ●長さ……車の荷台高さの4.8倍以上
- ●幅………30cm 以上
- ●数量……2枚
- ●強度……1枚の強度が500kg以上
- ●すべり止めのあるもの

(4) 積み・降ろしの途中は、ブレーキペダルや、主変速レバーを操作しないでください。また、ステアリングを大きく操作しないでください。機体が横ブレして、転落事故の原因になり大変危険です。

(5) 万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキペダルをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

(6) トラック等で運搬するときは、必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ブレーキをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。

(7) 降りて機械を動かすときは補助苗枠を収納し、機械の右側の位置で操作してください。機械の正面に立って操作しないでください。

■作業中は

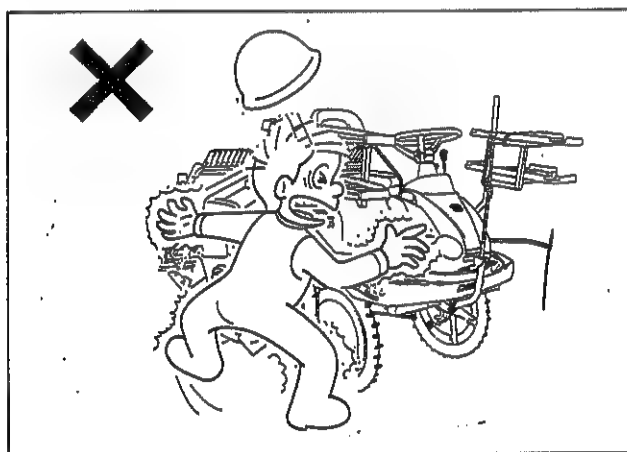
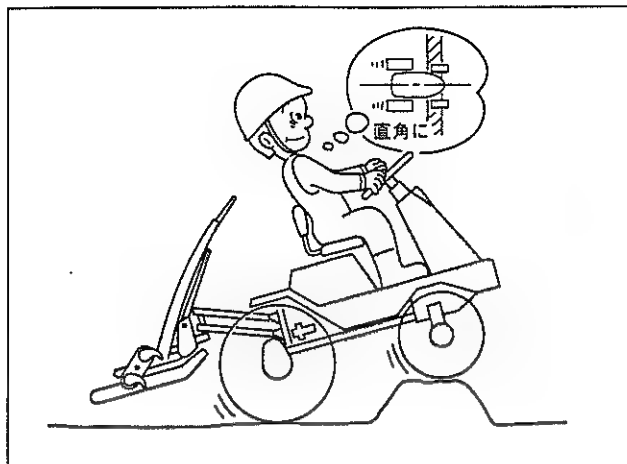
気象条件などに注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

(1) 作業中は、作業者以外の人を機械に近づけてはいけません（特に子供）。機械自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(2) 作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行なってください。怠ると、傷害事故の原因になり大変危険です。

(3) あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。斜めになると、スリップや転倒の原因になり大変危険です。

(4) あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒することがあり大変危険です。

(5) 運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリ端子などの通電部など危険な箇所には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

■夜間作業の禁止について

この田植機は、ライトを装着していますが、夜間作業は危険なので作業は早めに切り上げてください。暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

■点検・整備

(1) 取扱説明書に従って定期点検を実施してください。これは、機械を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業が行える第一歩です。

(2) 点検・整備するときは、明るく平たんな広い場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

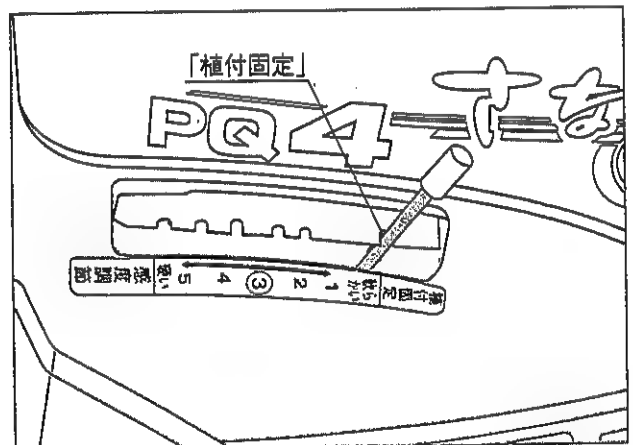
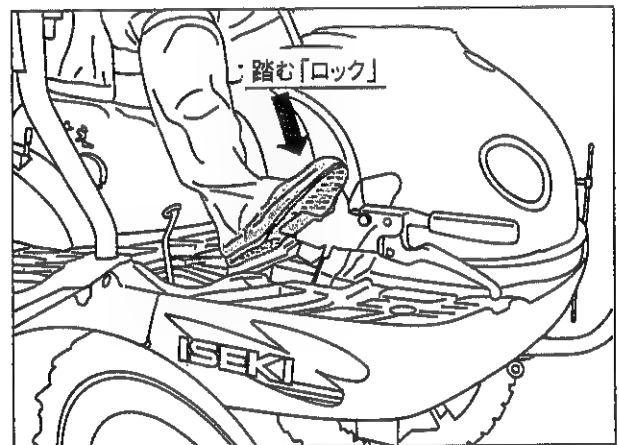
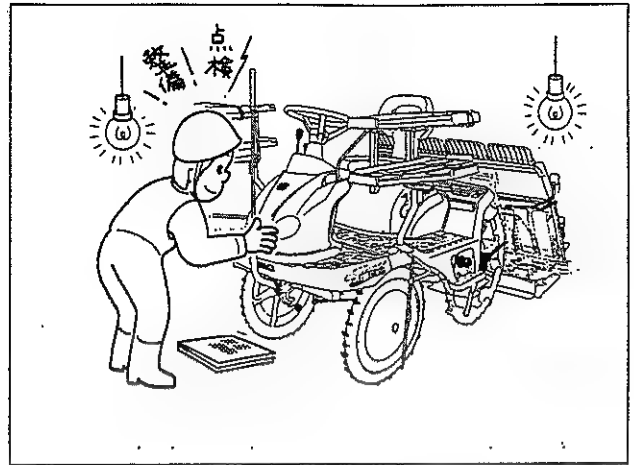
(3) 点検や整備をするときは、十分な明るさを確保して行ってください。暗い所で行っていると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

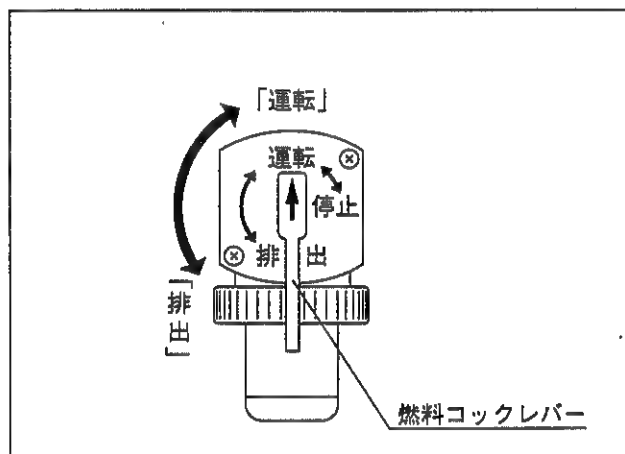
(4) 点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、ブレーキペダルをロックし駐車ブレーキを掛けて、植付部を降ろすか植付部の油圧を油圧感度調節レバー「植付固定」位置で固定してから行なってください。怠ると手や衣服が巻き込まれたり、はさまったりして大変危険です。

(5) 点検・整備を行なうときは、適正な工具を正しく使用して行なってください。間に合わせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良により思わぬ事故を引き起こし大変危険です。

(6) エンジンを切ってすぐに、点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が完全に冷えてから行なってください。怠ると、やけどなどの原因になります。

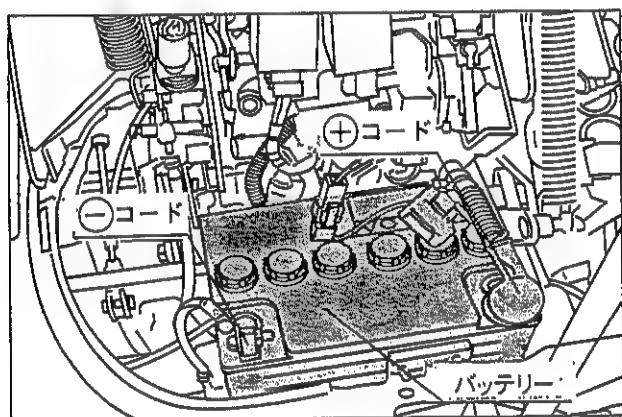
(7) 点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こす恐れがあります。

(8) 指定以外のアタッチメントの取付けや、改造は、絶対にしてはいけません。故障や、事故の原因になり大変危険です。

(9) 点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因になり大変危険です。
(10) 傷害や火災の恐れがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。

■格納・保管時は
(1) 燃料は必ず抜き取ってください。怠ると、燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因になり大変危険です。
燃料コックレバーを「排出」位置にして抜き取り、抜き取り後「運転」の位置にしてください。
(2) 作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。
(3) 長期格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因になり大変危険です。
(4) 機械の格納場所は、十分な明るさを確保してください。点検や移動などのとき、暗い所で行っていると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

電装関係を取扱うときは

■電気配線点検時の注意事項

(1) 電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行なってください。エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして大変危険です。

(2) 接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリの⊖コードを外して行なってください。これを怠ると、火花がとんだり、感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

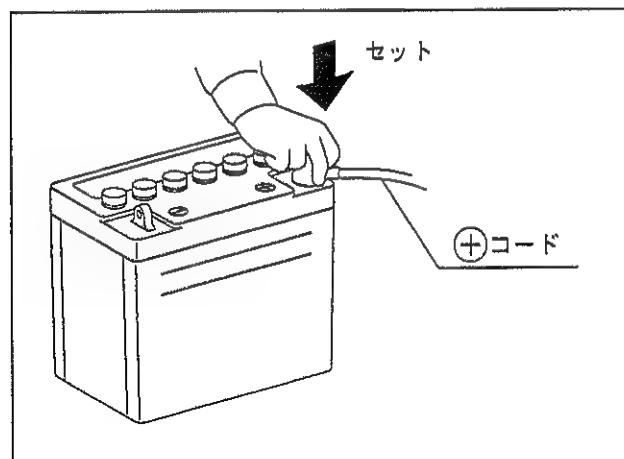
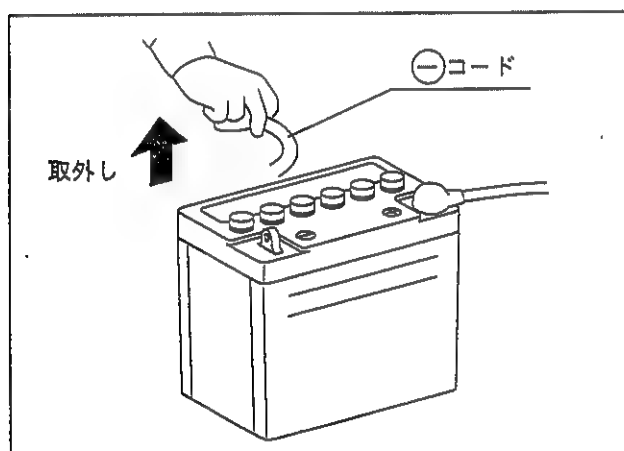
(4) バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどは、取り除いてください。これを怠ると火災の原因となります。

■バッテリ取扱い時の注意事項

(1) ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

(2) バッテリ液（電解液）は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(4) バッテリコード（端子）を取外すときは、⊖のコードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりして危険です。

■ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

(1)バッテリの補水キャップを取外してから接続してください。補水キャップが取外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。

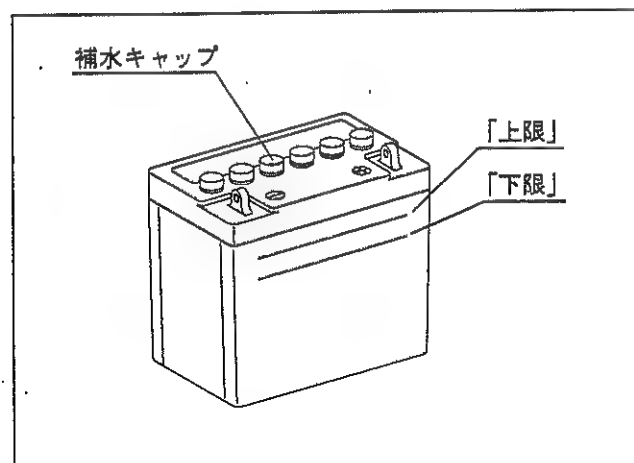
(2) ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

■バッテリ液の注意事項

バッテリ液量の点検は作業前に必ず実施してください。

(1)バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電すると、バッテリの破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。

(2)バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。

安全表示ラベルについて

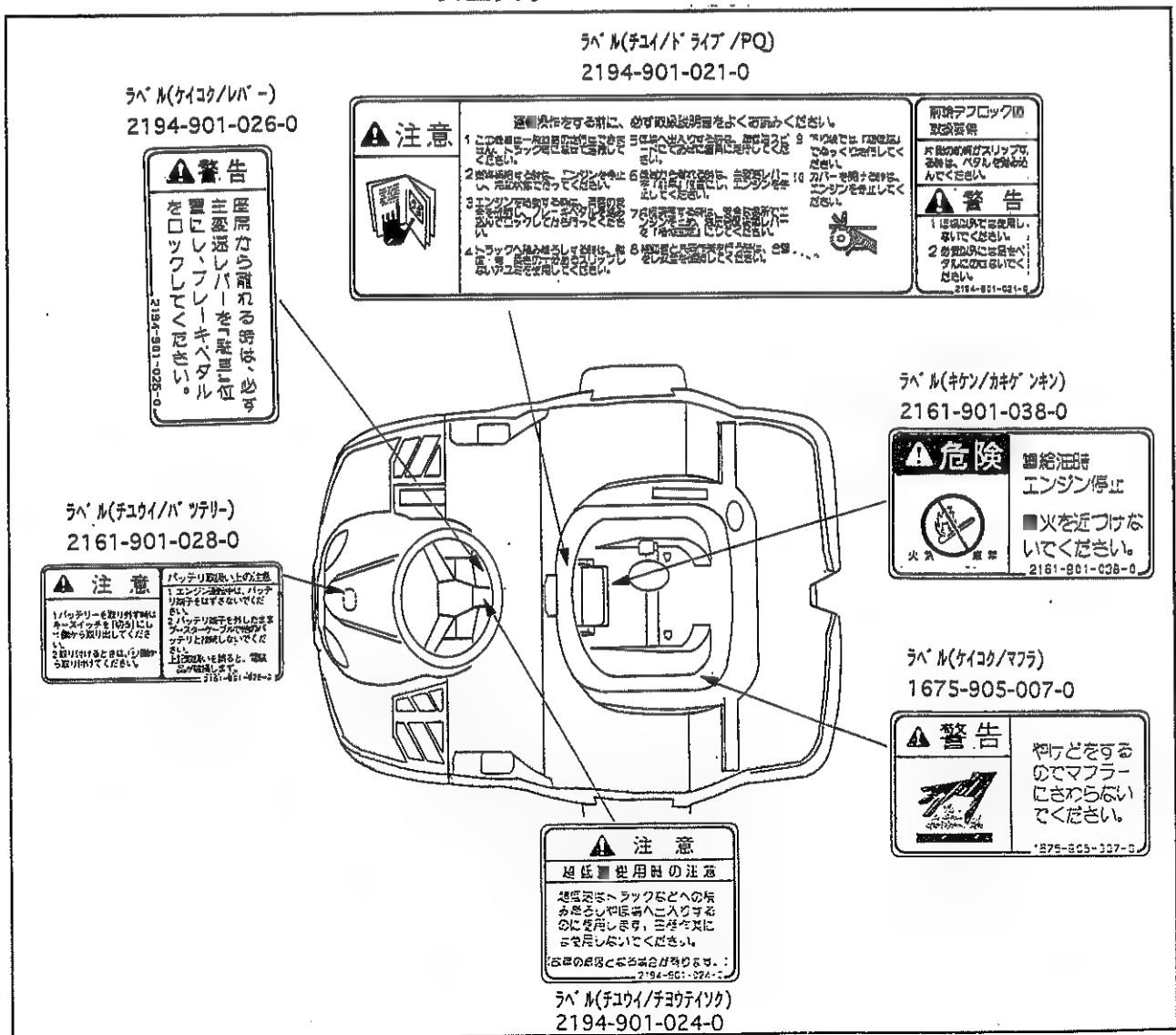
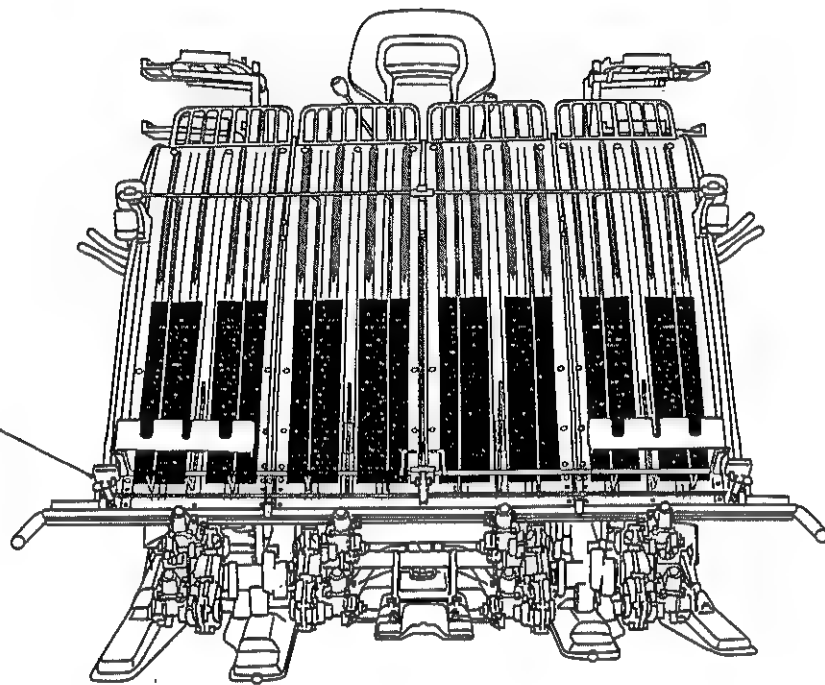
■本機には、安全に作業をしていただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。
必ずよく読み、これらの注意に従ってください。

■安全表示ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。安全表示ラベルは、お買い上げいただいた先へご注文ください。

■汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。

■安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルをお買い上げいただいた先へご注文ください。

■ラベルには、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

安全表示ラベル貼付位置

安全表示ラベル貼付位置

保証とサービスについて

●商品の保証

この商品には、井セキ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

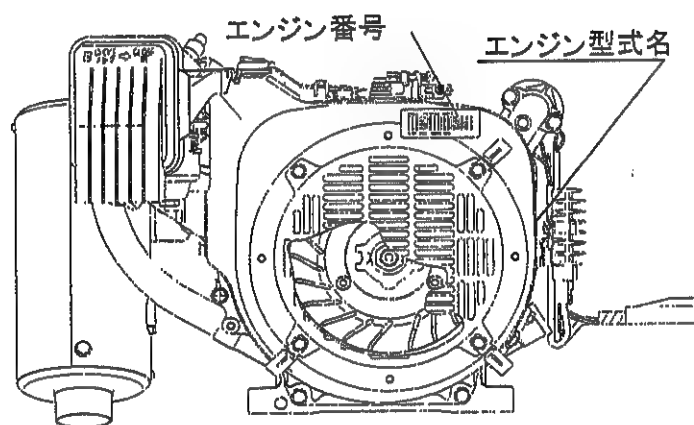
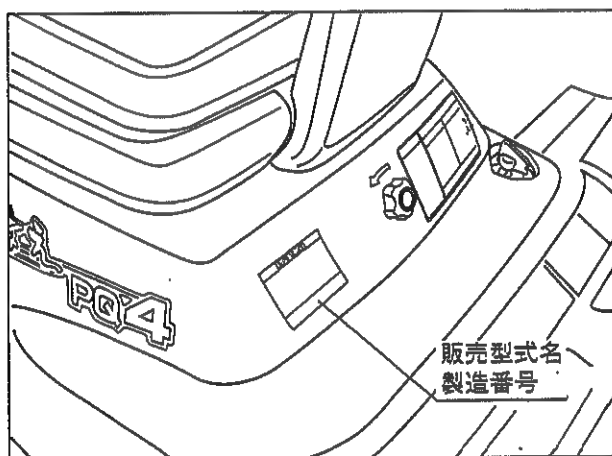
●サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた先へお気軽にご相談ください。

その際、

(1) 販売型式名と製造番号

(2) エンジン型式名とエンジン番号

をあわせてご連絡ください。

●補修用部品供給年限について

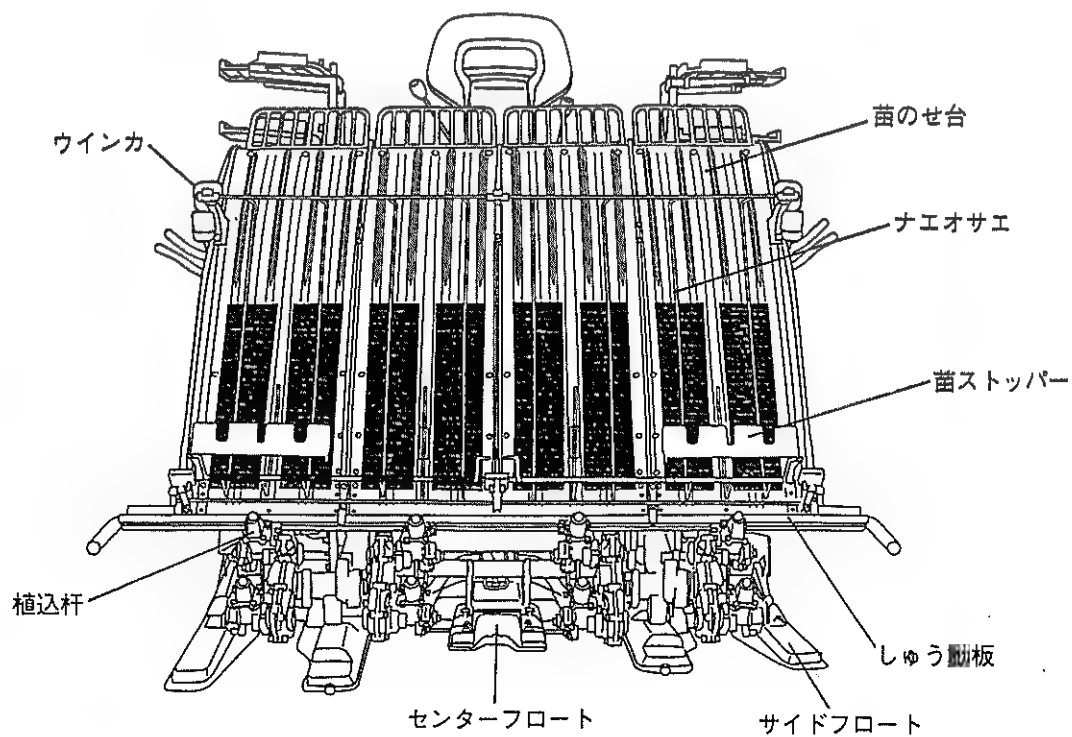
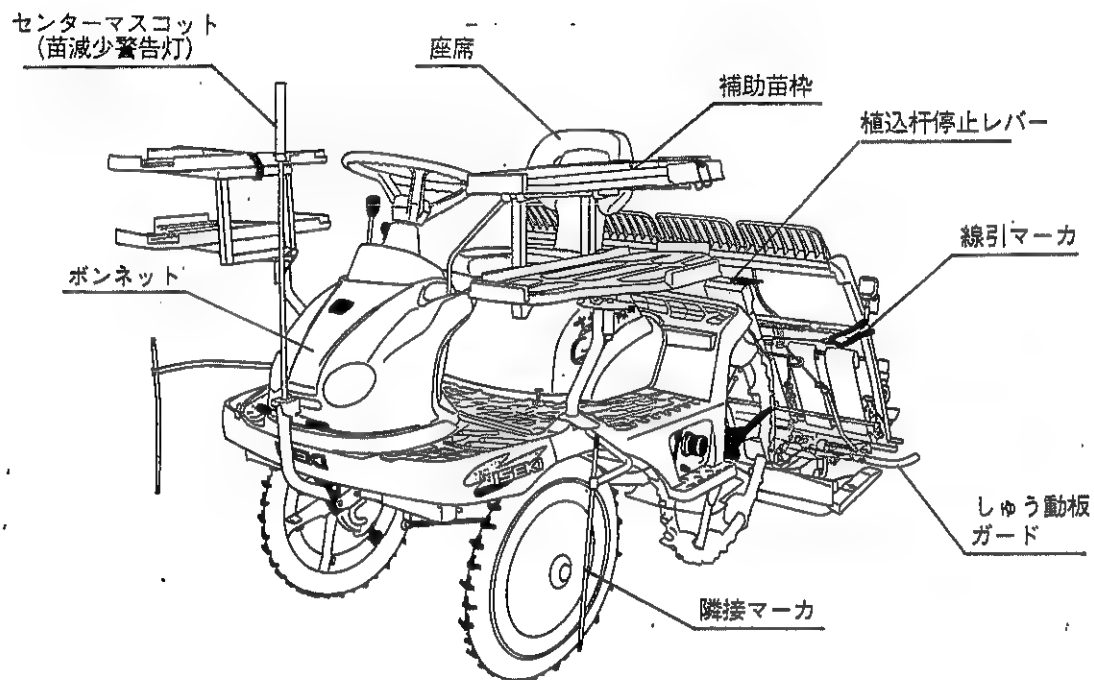
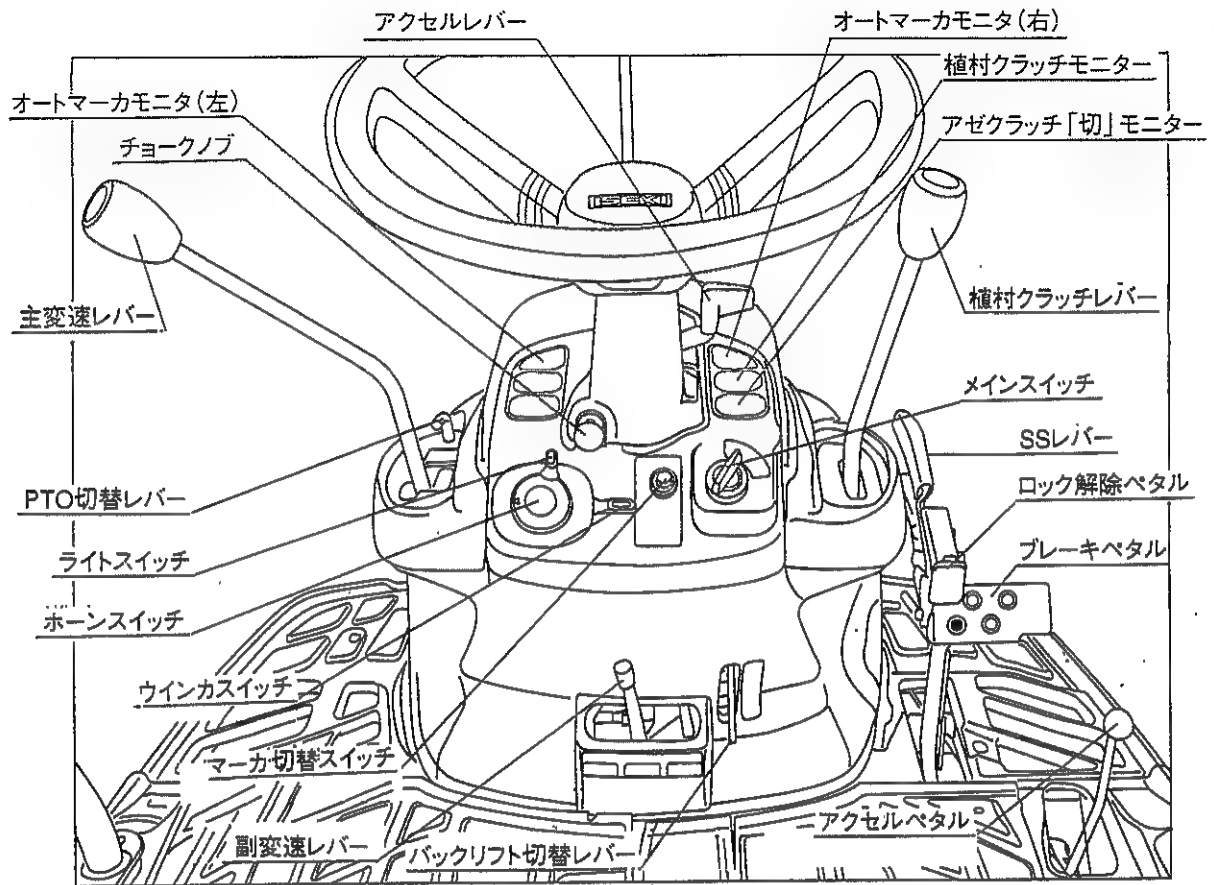
この商品の補修用部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

各部の名称

センターマスコット
(苗減少警告灯)
座席
補助苗枠
植込杆停止レバー
線引マーカ
ボンネット
しゅう動板
ガード
隣接マーカ

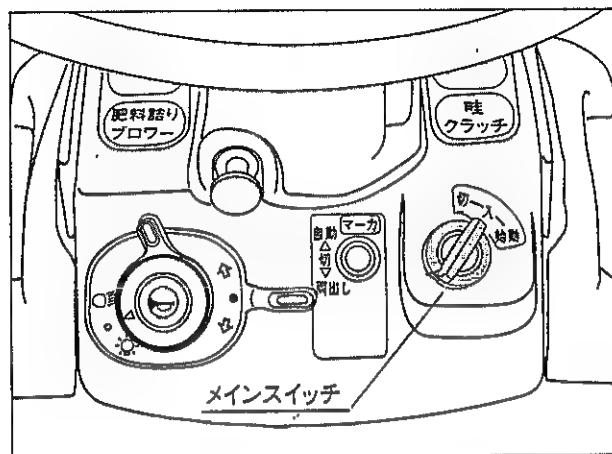
アクセルレバー
オートマーカモニタ(右)
植村クラッチモニター
オートマーカモニタ(左)
アゼクラッチ「切」モニター
チョークノブ
主変速レバー
植村クラッチレバー
メインスイッチ
SSレバー
PTO切替レバー
ロック解除ペタル
ライトスイッチ
ブレーキペタル
ホーンスイッチ
ウインカスイッチ
マーカ切替スイッチ
アクセルペタル
副変速レバー
バックリフト切替レバー

計器およびスイッチのはたらき

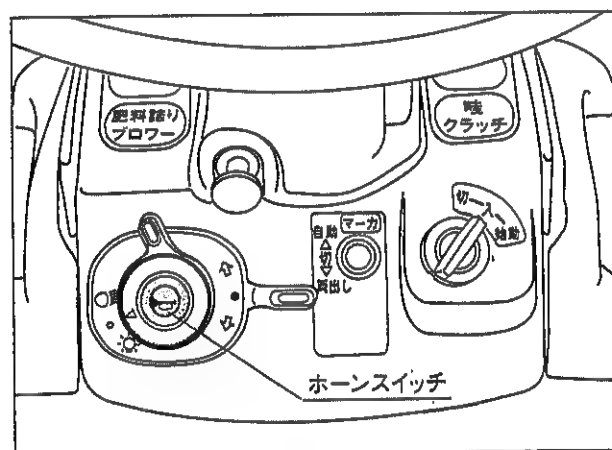
■スイッチのはたらき

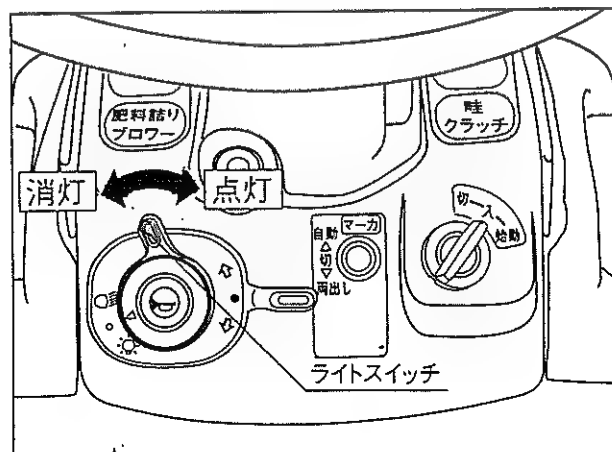
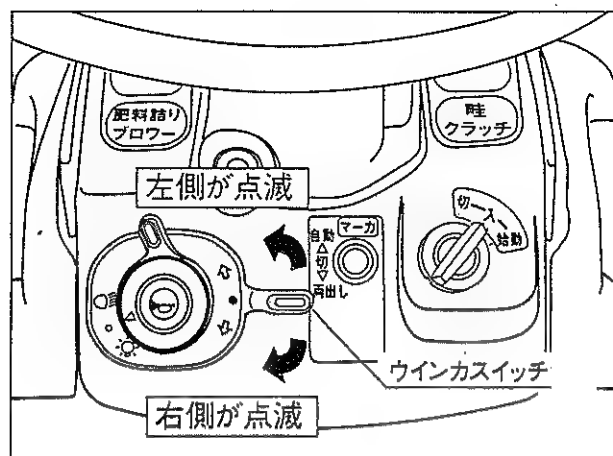
●メインスイッチ

- 切……エンジンが停止します。
- 入……エンジンが回転中の位置です。
- 始動…ブレーキペダルをいっぱい踏みこんで
  エンジン始動。
  手をはなせば「入」にもどります。

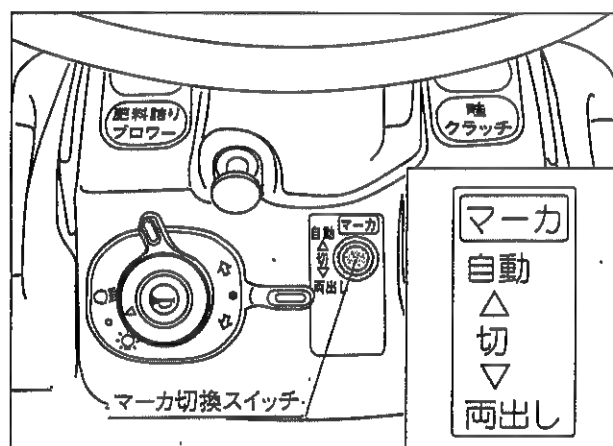
重要

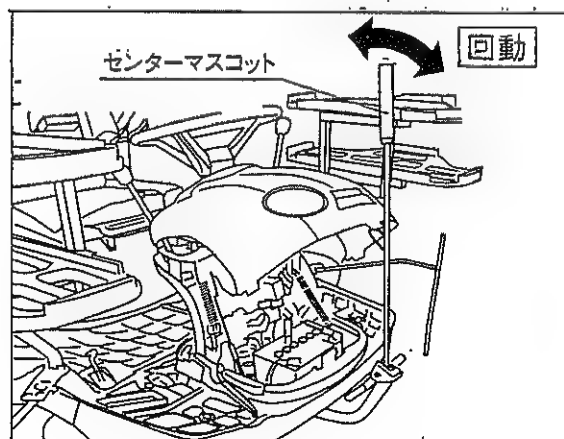
- **エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置にしないでください。**
- **スタータの作動は1回10秒程度とし、始動しないときは30秒程度停止してから、再び操作をくり返してください。**

●ホーンスイッチ

- メインスイッチが「入」位置のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

●ライトスイッチ

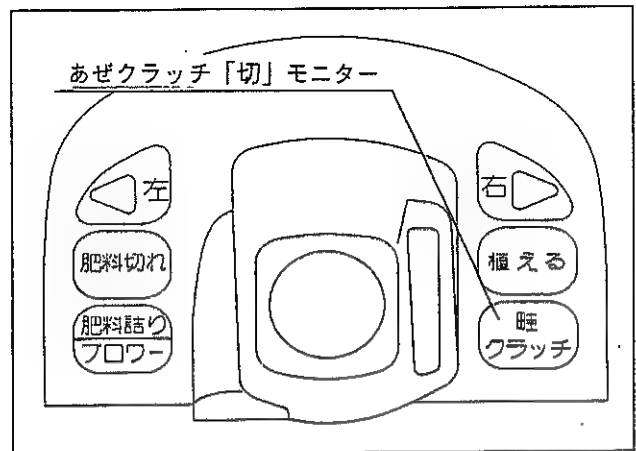
- メインスイッチが「入」位置のとき、ライトスイッチを右方向に回すとライトが点灯します。

●ウインカスイッチ
・メインスイッチが「入」位置のとき、旋回する側の矢印方向にウインカスイッチを回すと、ウインカとウインカパイロットランプが点滅し、旋回方向を知らせます。

●マーカ切替スイッチ
(自動)
・線引マーカが交互に出るようになります。
このとき、オートマーカモニターランプが点灯している側のマーカが出ます。

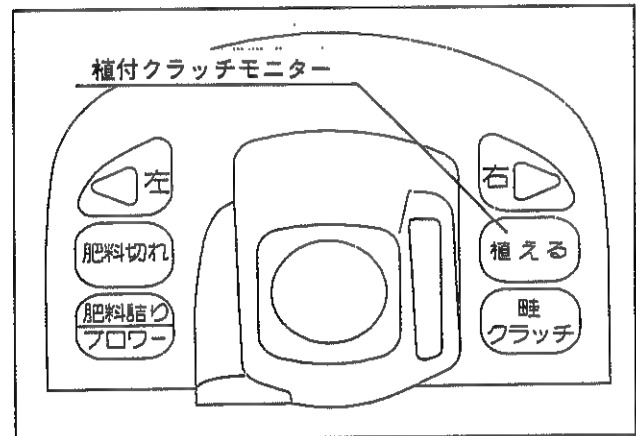
(切)
・線引マーカは出ません。

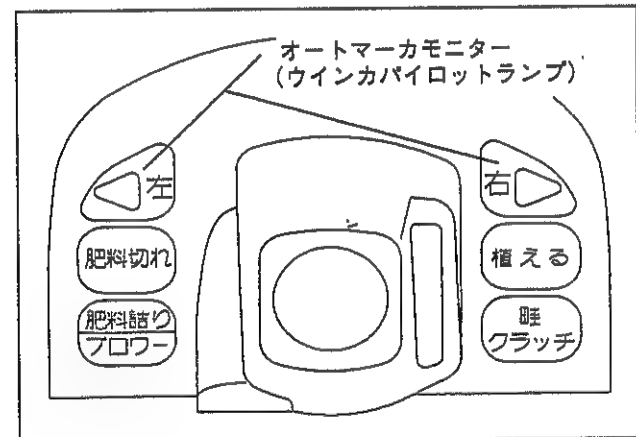
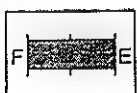
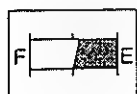
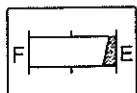
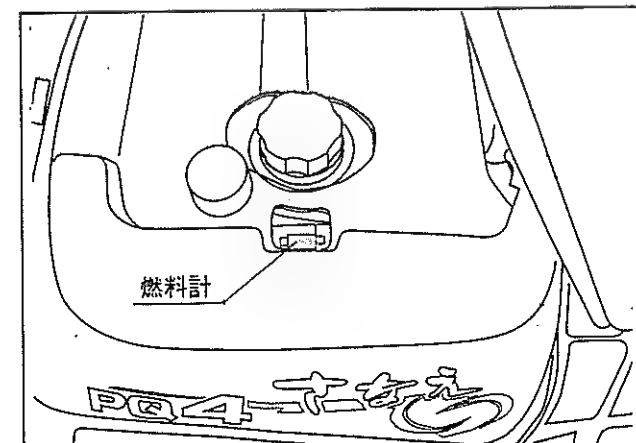
(両出し)
・左右の線引きマーカが同時に出るようになります。このとき、オートマーカモニターランプは左右とも点灯します。

●センターマスコット
・苗のせ台の苗が一定量までなくなると点滅します。
・植付クラッチ「止まる」時は点滅しません。
・線引マーカの引いた跡に合わせて植付けると、適正な隣接条間が保て、直進の目安になり楽に直進できます。

※ センターマスコットは、前後に回動しますので、見やすい位置にセットしてください。
※ ボンネット内の点検をするときに、ボンネットをセンターマスコットのフックにかけると便利です。

■計器のはたらき

●あぜクラッチ「切」モニター

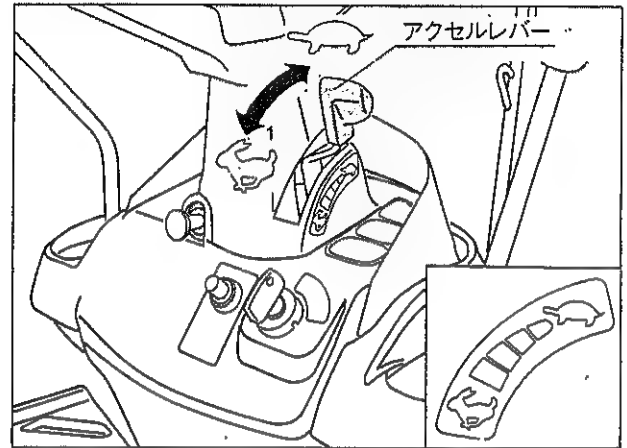
・植込杆停止レバーが「切」位置のときに点灯します。

●植付クラッチモニター

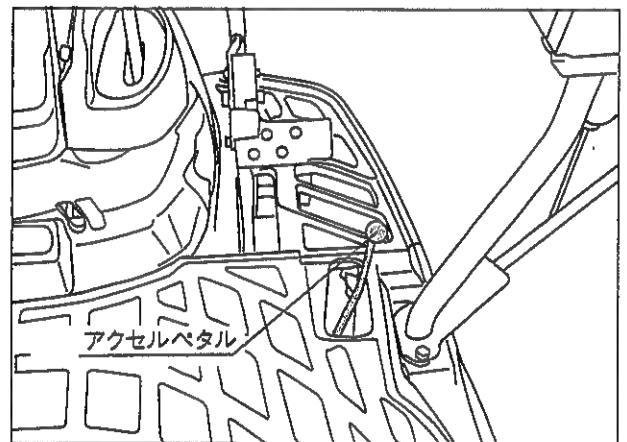
・植付クラッチレバーが、「植える」位置のときに点灯します。

●オートマーカモニター(ウインカパイロットランプ)

・モニターランプが点灯している側の線引きマーカが出ます。
(ウインカ点滅と同時に点滅します。)

●燃料計

燃料満量

燃料1/2残量

燃料空
(早めに補給してください。)

レバー、ペダル、シート関係の取扱い

■アクセルレバーとアクセルペダル

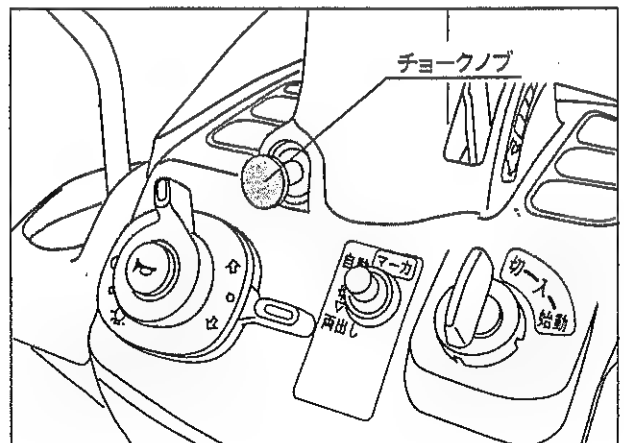
●アクセルレバー

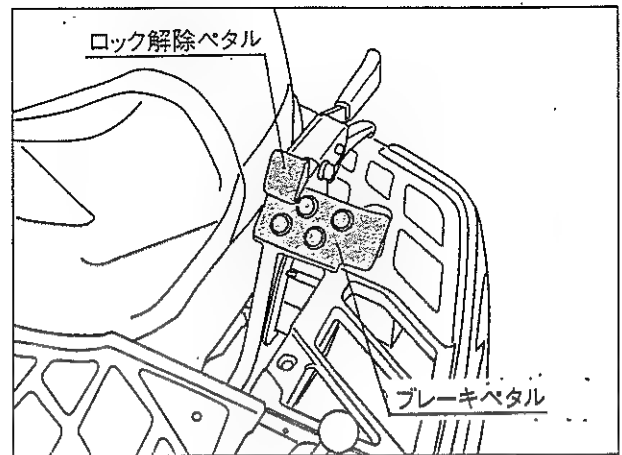
・レバーを手前に引くとエンジン回転が上がり、前方に押すと下がります。

●アクセルペダル

・踏み込むとエンジン回転が上がります。

■チョークノブ

・エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。

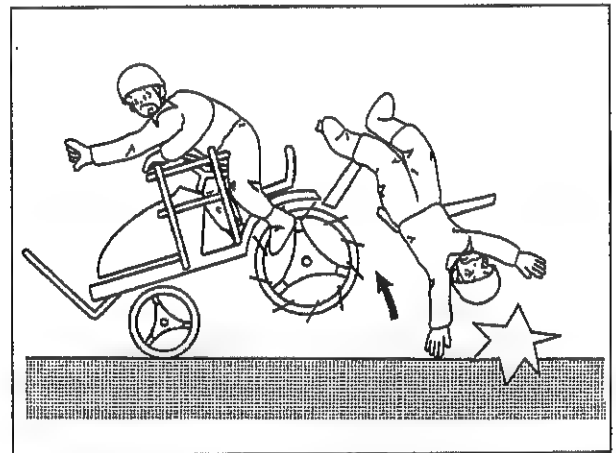
重要

●始動時以外は、使用しないでください。

■ブレーキペダル

・ロック解除ペダルを踏まずにブレーキペダルのみをいっぱいに踏み込むと、クラッチが切れ、同時に4輪ブレーキが作動した状態でロックされます。
ブレーキペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、足を離すと4輪ブレーキが解除され、クラッチがつながります。
・駐車ブレーキをするときは、ブレーキペダルをロックします。

重要

- ブレーキペダルは、切るときは早く、つなぐときはゆっくりと操作してください。
- エンジン始動時は踏み込まないとエンジンが始動しません。
- 4輪ブレーキの調整はお買い上げいただいた先にて行なって下さい。

⚠ 警告

(1) 座席から離れて作業する場合や駐車時は、必ずブレーキペダルをいっぱいに踏み込みロックしてください。
これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。
(2) 高速走行中にブレーキペダルを急激に踏み込むと急ブレーキがかかり反動で田植機から振り落とされる恐れがあります。緊急時、やむを得ずブレーキをかけるときは、必ずハンドルを両手でしっかり握ってください。

■主変速レバー

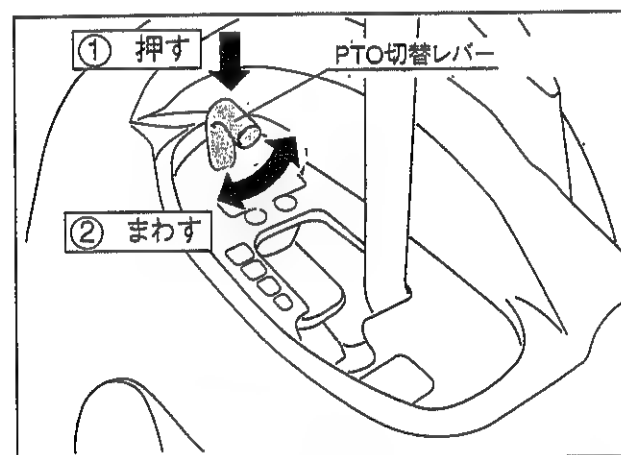
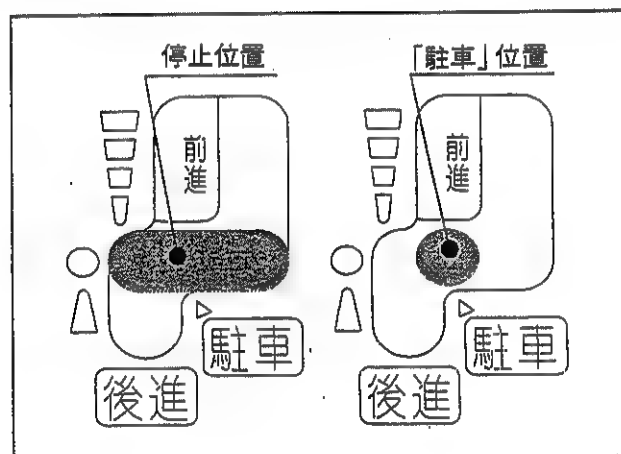
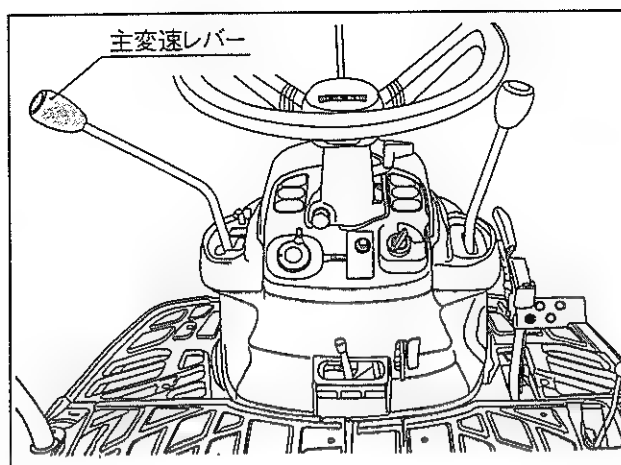
- 前進、PTO、後進の切替え、車速の変更、停止をするときに操作するレバーです。
- 後進位置にすると植付部が上昇します。

※ バックリフト切替レバー「切」のときには上昇しません。

重要

- **主変速レバーを停止位置にするとクラッチが切れ、同時に4輪ブレーキが作動します。**
  停止位置は右図を参照してください。
- **主変速レバーの前後への操作は誤操作防止のためエンジンを始動しないと動かない構造となっています。**
  エンジン停止状態では、主変速レバーの前後への操作は行なわないでください。無理に操作すると機械を破損する恐れがあります。

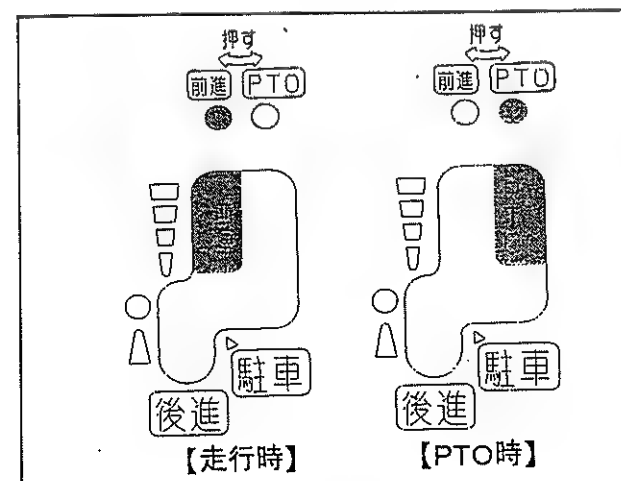
 警告

座席から離れて作業する場合や駐車時は、必ず主変速レバーを「駐車」にしてください。これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。

■PTO切替レバー

- 主変速レバーのガイドを「前進」または「PTO」に切替えるレバーです。
- PTO切替レバーを押してから回してください。
  切替え後レバーがロックされていることを確認してください。

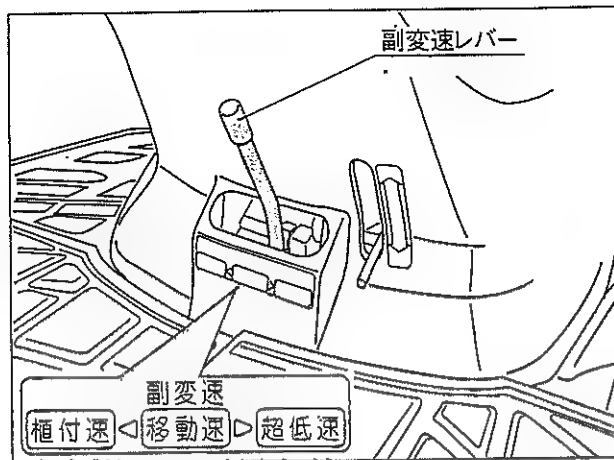
※ PTO切替レバーを操作するときは、主変速レバーを停止位置にしてください。

重要

- **PTO切替レバーを「PTO」にすると4輪ブレーキが作動した状態で固定されます。走行（後進）するとき必ずPTO切替レバーを「前進」にもどしてください。**

■副変速レバー

・ 変速を行うレバーです。

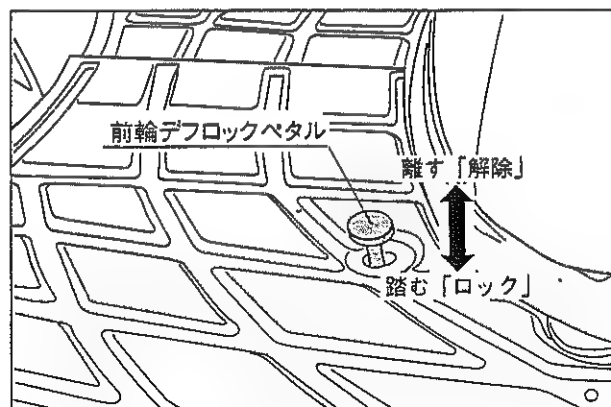
● 副変速レバーは、田植機が完全に停止してから操作してください。走行中に切替えるとミッションの損傷につながります。

「超低速」はトラックなどへの積み降ろしやほ場へ出入りするときなどに使用し、田植作業には使用しないでください。

⚠ 警告

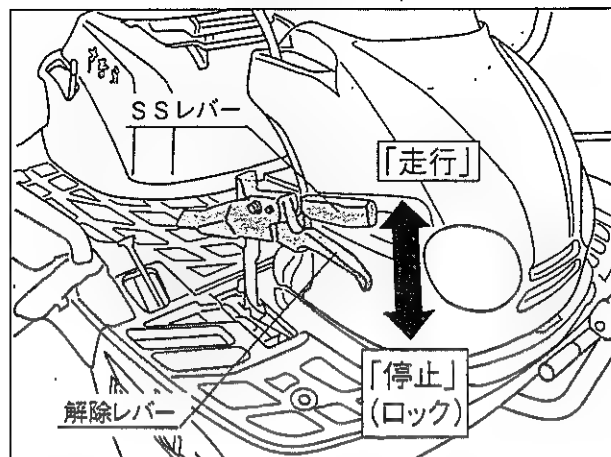
傾斜地で副変速レバーの切替えをするときは、切替え後確実にギヤが噛み合っていることを確認してください。確実にギヤが噛み合っていない状態で4輪ブレーキが解除されると、田植機が下へ走り出し、非常に危険です。

■前輪デフロックペダル

・ ペダルを踏み込むと左右前輪の回転が同じになります。
・ 畦越え時や旋回時に前輪がスリップする場合に使用します。

田植作業以外のときは、必ずデフロックペダルを解除してあるか確認してください。これを怠ると激突・転落事故を引起こす恐れがあります。

■SSレバー（クラッチ連動4輪ブレーキレバー）

・SSレバーはエンジンの動力を断続すると共に4輪ブレーキを効かせるレバーです。トラックなどへの積み降ろしやほ場へ出入りするときなど、降りて機械を操作する場合に使用するレバーです。

・「停止」を解除するときは、SSレバーを「停止」方向に押さえながら、解除レバーを握ってください。

 警告

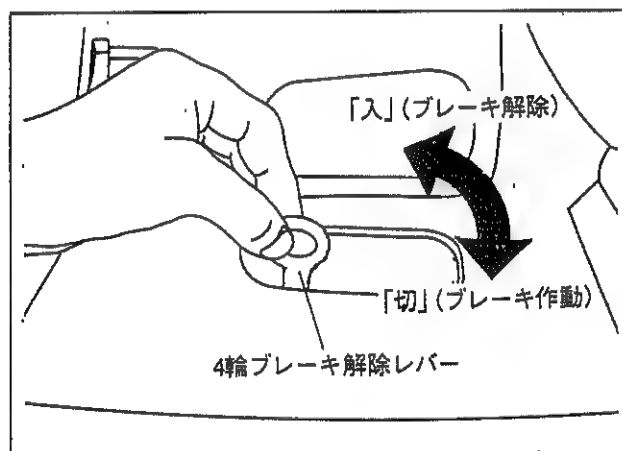
降りて機械を動かすときは、最低速にしてください。
・主変速レバー：「前進の１段目」または「後進」
・副変速レバー：「超低速」
・アクセルレバー：アイドリング（最低速）

他の速度では速すぎるため、機械に巻き込まれるなど、ケガをする恐れがあります。

■4輪ブレーキ解除レバー

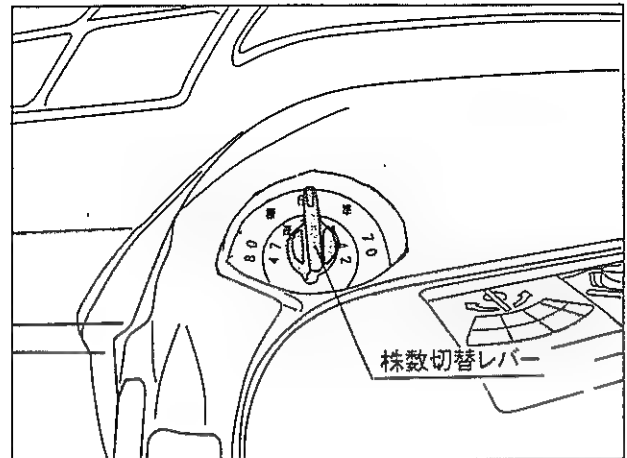
・4輪ブレーキを解除するレバーです。

・「入」にすると4輪ブレーキが解除されます。

※主変速レバーを停止位置またはSSレバーを「停止」位置にしないと4輪ブレーキ解除レバーは「入」になりません。また、SSレバーを「走行」にし、主変速レバーを「前進」または「後進」に入れると4輪ブレーキ解除レバーは自動的に「切」に切替わります。

 警告

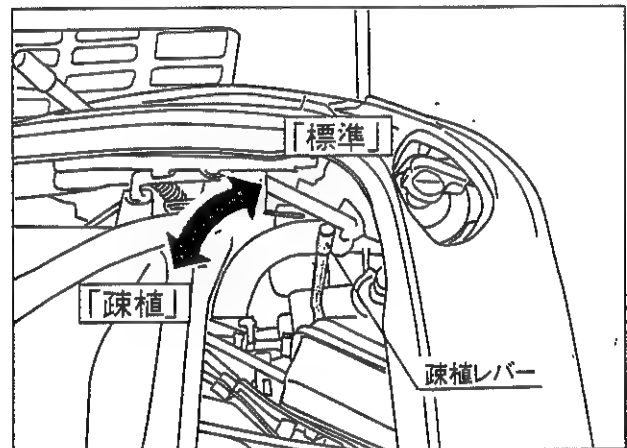
傾斜地では、４輪ブレーキ解除レバーを「入」にしないでください。ブレーキが効かないので、田植機が下に走り出し、非常に危険です。

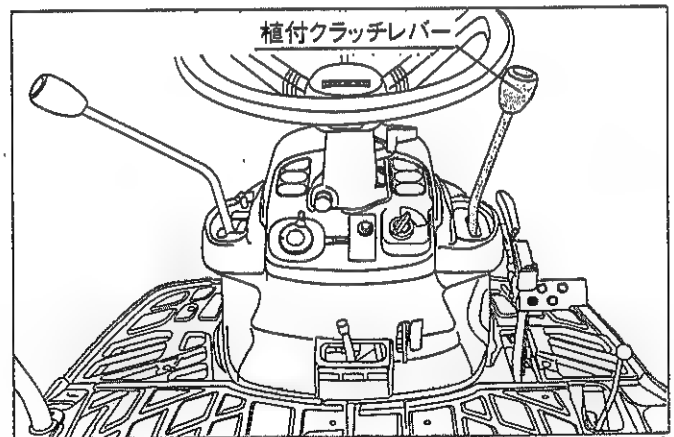
■株数切替レバー

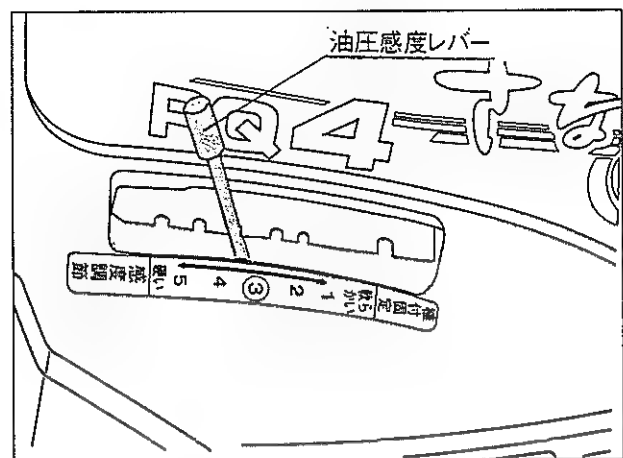
・植付株数の切り替えをするレバーです。
・レバーを回すことにより植付株数が変わります。

■疎植レバー

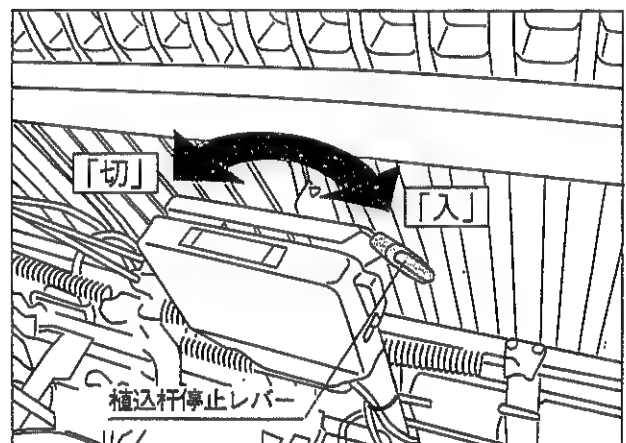
・「疎植」と「標準」の切り替えをするレバーです。
・レバーの回すことにより植付株数が変わります。
※ 疎植レバーはエンジンカバー内にあります。

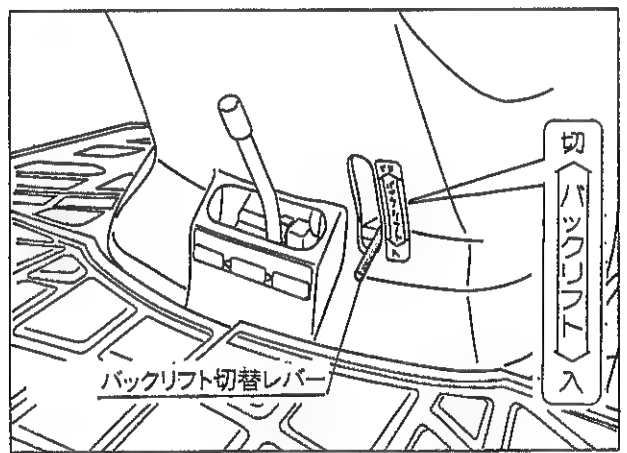
重要

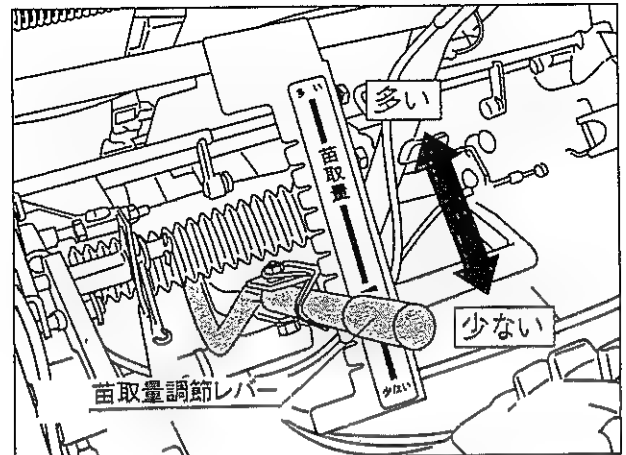
●ご希望の植付株数になるように、株数切替レバー及び疎植レバーを、表示ラベルの株数の位置に合わせてください。

■植付クラッチレバー

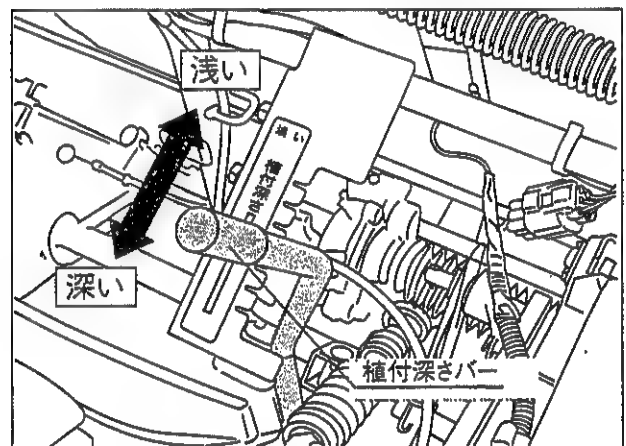
・このレバー1本で、植付部の上昇、下降と植付部への動力の伝達を断続できます。

■油圧感度調節レバー

・ほ場の硬軟に応じて油圧感度を変更することができます。
また、このレバーを「植付固定」位置にすると植付クラッチレバーを油圧「下げる」位置にしても植付部が降りないようにできます。

■植込杆停止レバー

・2条毎(5条植の場合は中央は1条)の植付けを停止させるレバーです。
・植えじまいの植付条数の調整や変形ほ場での植付時に使用します。
・レバーが「切」状態の場合、あぜクラッチ「切」モニターが点灯します。

■バックリフト切替レバー

・「入」にするとバックリフトが作動し、「切」にするとバックリフトは作動しません。

■苗取量調節レバー

・全条の苗取量を一度に調節するレバーです。
・レバーを上の溝にセットすると苗取量は多くなり、下の溝にセットすると苗取量は少なくなります。

■植付深さ調節レバー

・植付深さを調節するレバーです。
・レバーを上の溝にセットすると浅植えとなり、下の溝にセットすると深植えとなります。

■横送り切替レバー

・横送り量の切替えを行なうレバーです。

出荷位置	B型以外	24回送り
	B型	20回送り

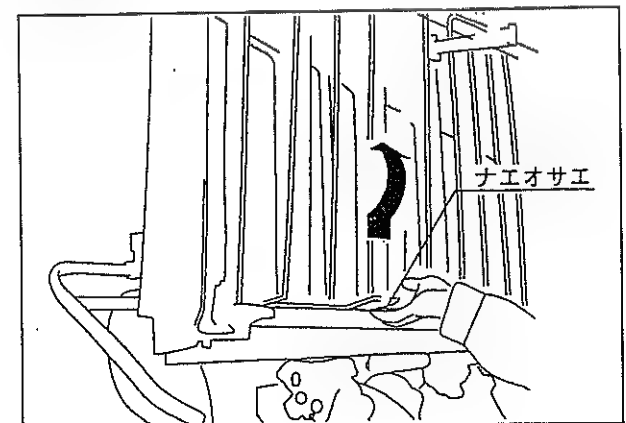
注意

切替えはエンジンを停止して行なってください。これを怠ると作業機を破損したり、思わぬ事故の原因になります。

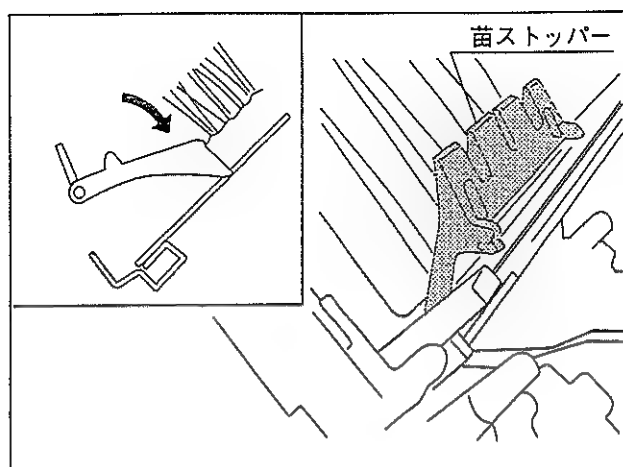
■ナエオサエ

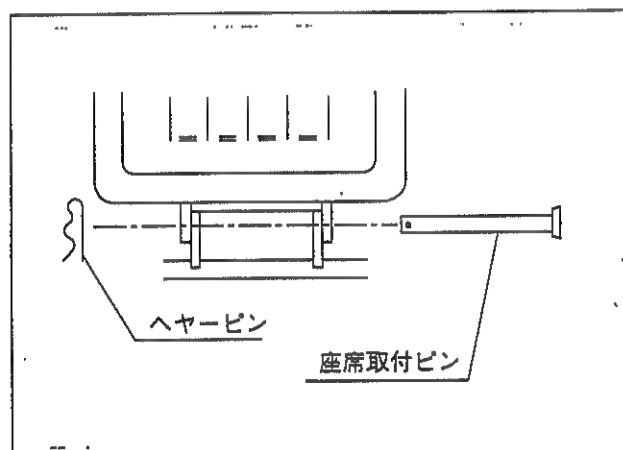
・残り苗を取り出す時に、ナエオサエを上に引き抜き上側に回すと苗が取り出しやすくなります。

注意

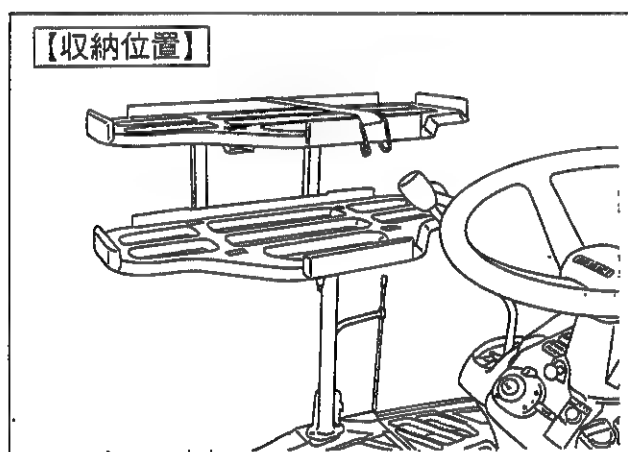
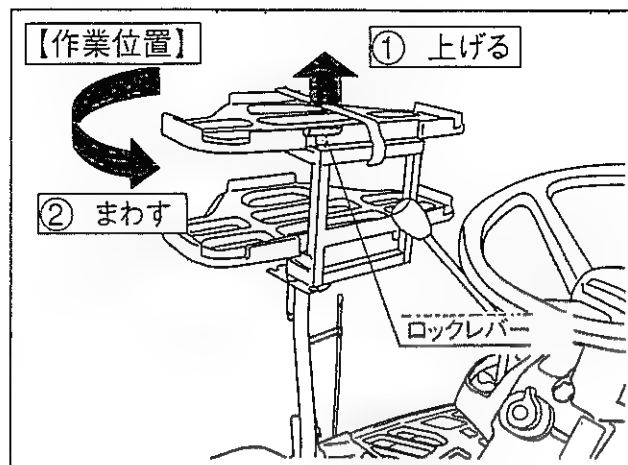
苗の取り出しは、エンジンを停止して行ってください。

苗ストッパー

・1条毎に植付けを停止したい時に使用します。
・植込杆停止レバーと組合わせて使用してください。

> **注意**
> 苗ストッパーの操作はエンジンを停止して行ってください。

■座席の調節

・作業しやすい位置になるように、座席のピン差し込み位置を変更してください。

■回動式補助苗枠（PQ4型）

・補助苗枠を収納位置にするときはロックレバーを上に持ち上げ，補助苗枠を回すと"収納位置"になります。作業状態に応じて"作業位置"または"収納位置"にしてください。位置を変更したときは補助苗枠が完全にロックされているか確認してください。

補助苗枠の位置	作業状態
作業位置	・植付け作業時 ・乗車移動走行時（広い道）
収納位置	・降りて走行するとき ・トラックへの積み・降ろし時 ・トラック輸送時 ・長期格納時 ・乗車移動走行時（狭い道）

作業前の点検

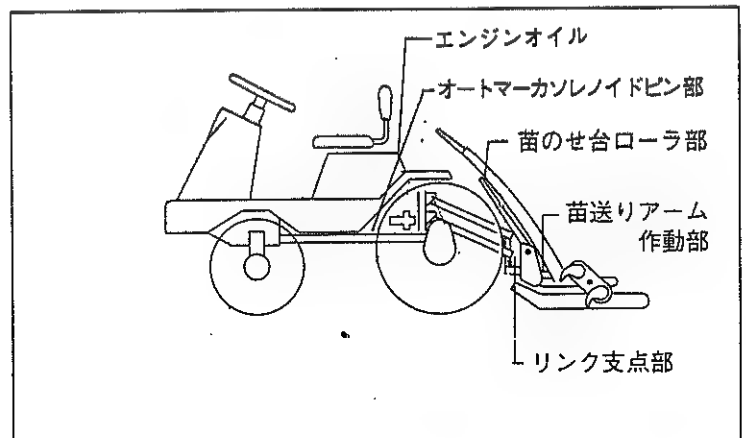
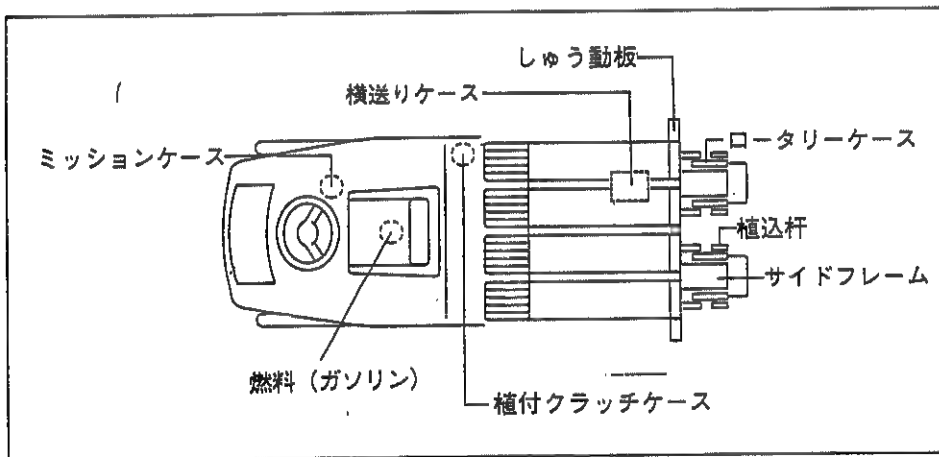
故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行なってください。

警告

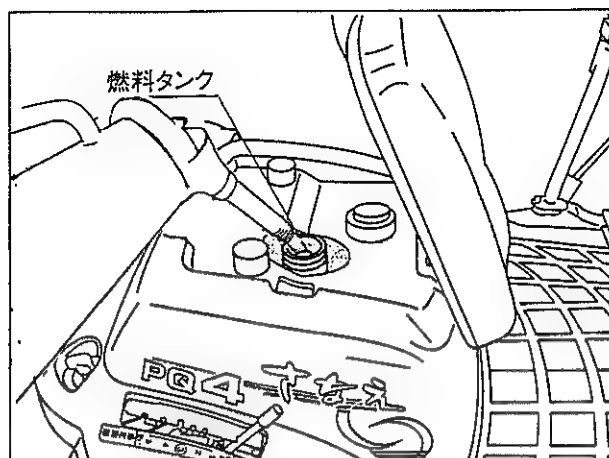
給油・注油及び点検整備するときは、次のことを守ってください。

(1) 田植機を平たんな広い場所に置く。
(2) エンジンを停止する。
(3) 駐車ブレーキをかける。
(4) 植付部を降ろすか、油圧感度調節レバーを「植付固定」位置で植付部を固定する。
(5) エンジンなどの過熱部分を十分冷やす。
(6) くわえタバコなど火気厳禁。

以上の安全を確認して行なってください。
安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

給油、注油箇所の点検と補給

■燃料（無鉛ガソリン）

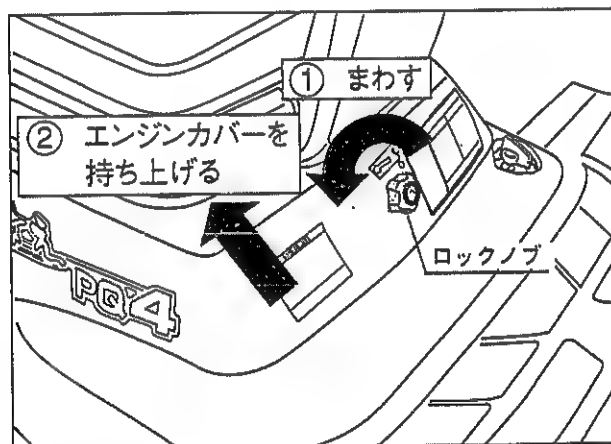
（給油のしかた）

座席を前に倒し、給油口より給油してください。

 危険

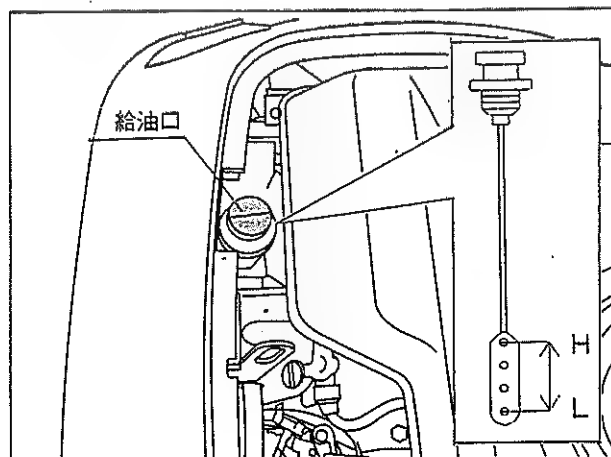
(1) 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になり大変危険です。
(2) 燃料を補給するときは、エンジンを停止し過熱部分が十分冷えてから行なってください。燃料のつぎこぼしなどにより、火災の原因になり大変危険です。
(3) 燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。エンジン始動するとき引火し、火災の原因になり大変危険です。

■エンジンオイル

（点検のしかた）

(1) エンジンオイル点検時には、エンジンカバーをあけてください。（エンジンカバーのあけかたは右図を参照してください。）
(2) オイルレベルゲージの上下刻線の間に油量があるか調べます。
「下限」以下の場合、給油口より補給してください。
（ヰセキ純正オイル10W30＃又は30＃、SE級以上）

搭載エンジン	オイル量
FE250G	1.1ℓ

 注意

エンジンオイルの点検・補給は、必ずメインスイッチを「切」にしてエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。これを怠ると、やけどをする恐れがあります。

■チェンジミッションオイル

(点検のしかた)

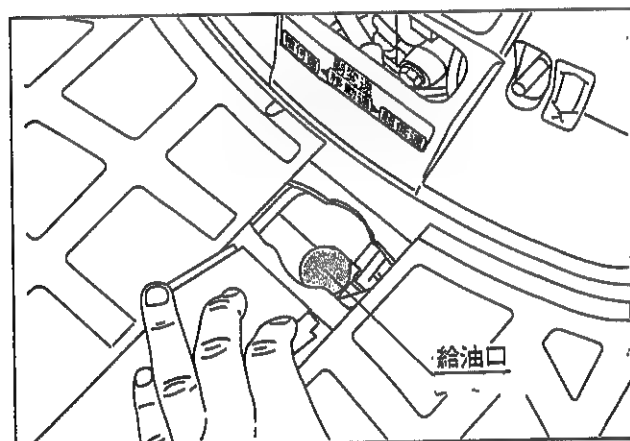
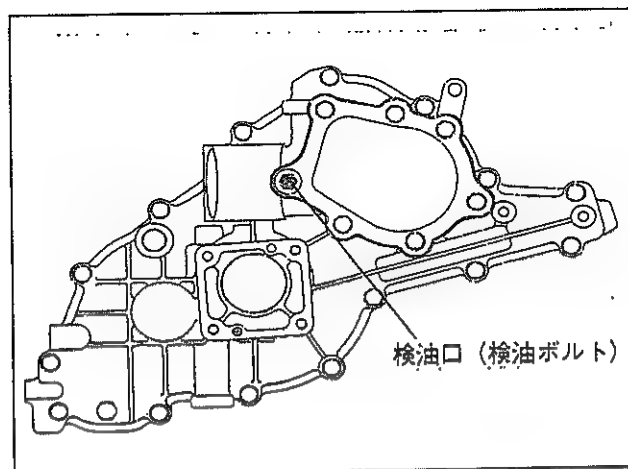
検油ボルトをはずして、検油口からオイルが出るかを確認してください。

(油量が少ない場合)

検油口からオイルが流れ出すまで、給油口から補給してください。

（キセキハイポイドギアーオイル
80＃）

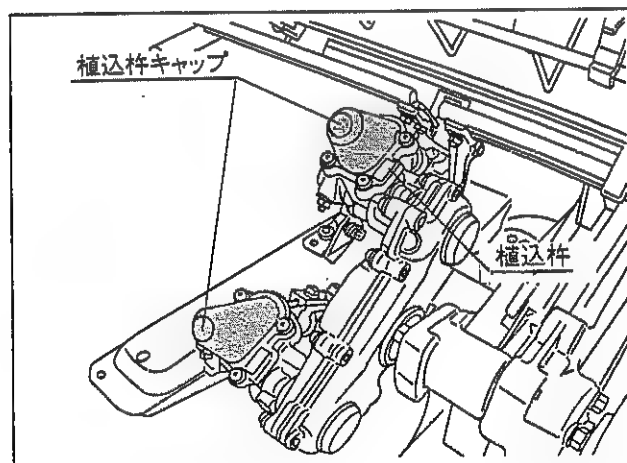
重要

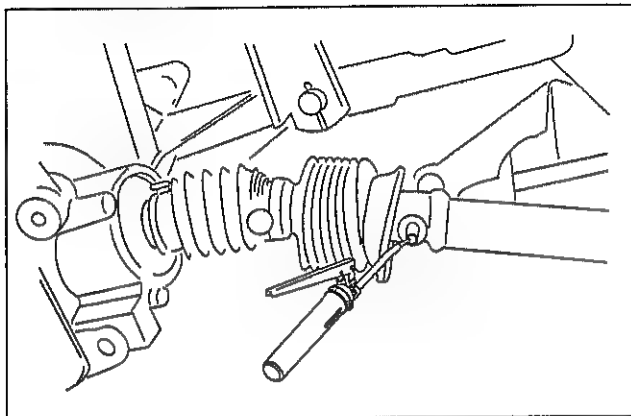
●給油時は植付部を下げてください。

■植込杆

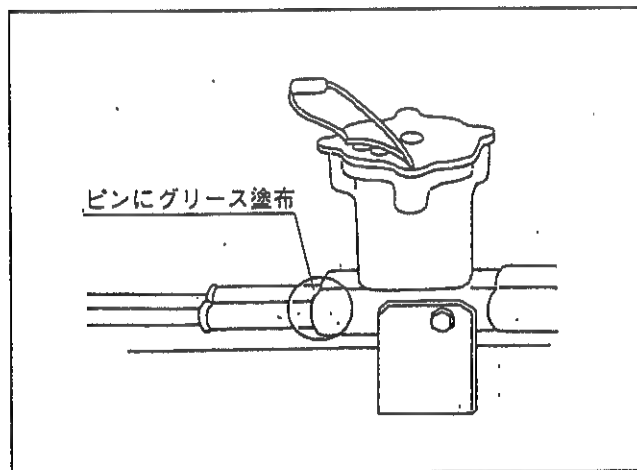
(点検のしかた)

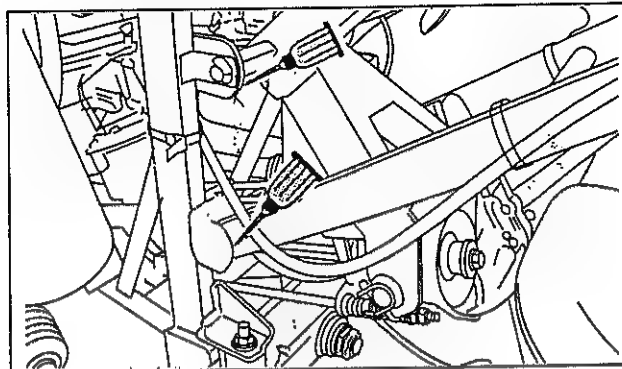
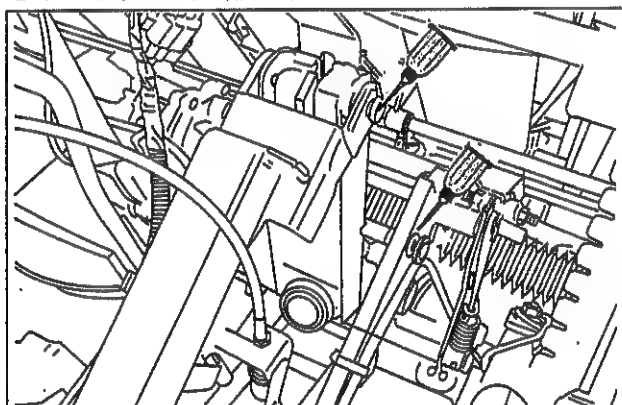
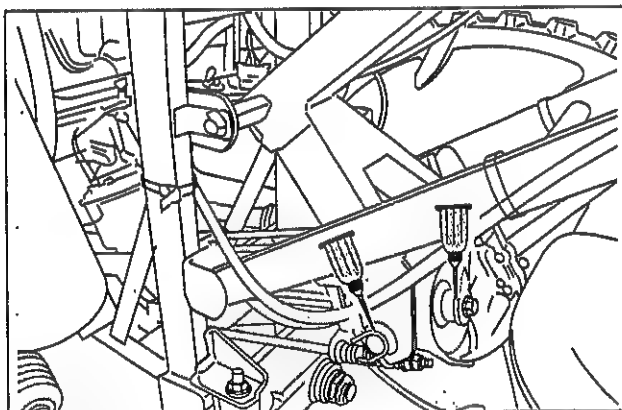
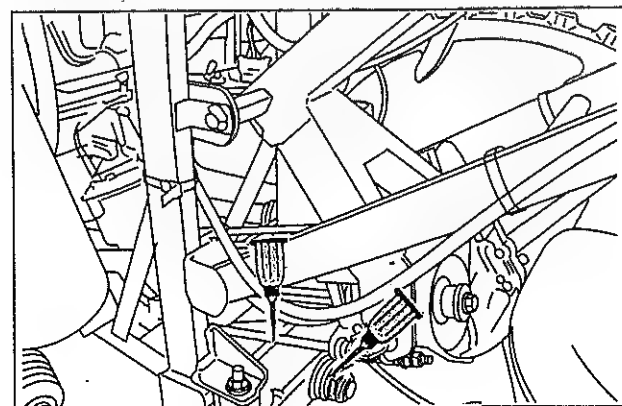
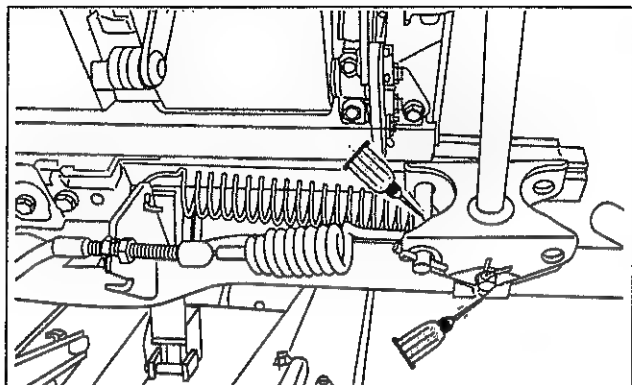
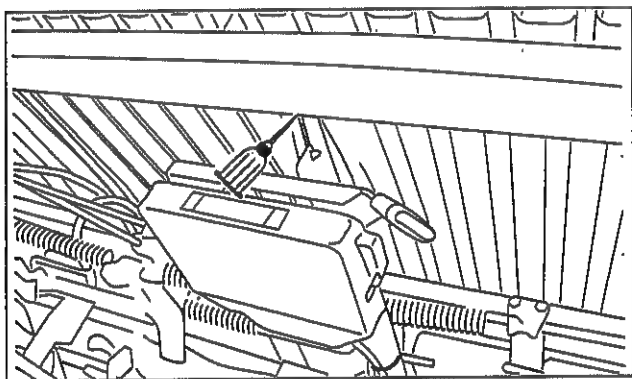
植込杆キャップをはずし、植込杆の中にグリスがあるか確認してください。

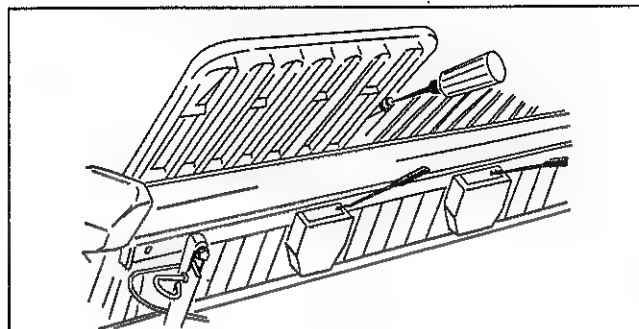
(油量が少ない場合)

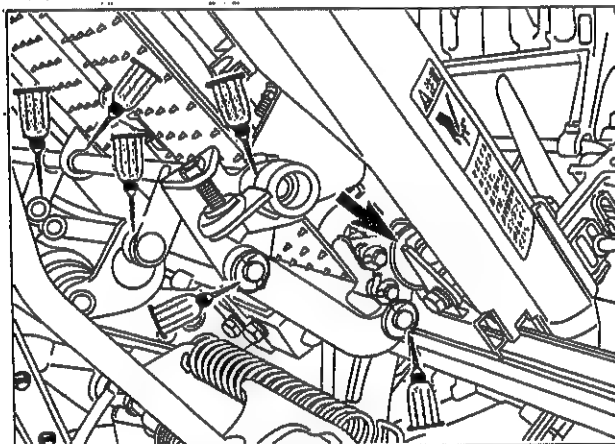
グリスを適量、補給して下さい。（グリスがほとんどない場合は20cc程）

■グリース注入箇所（グリースニップル）

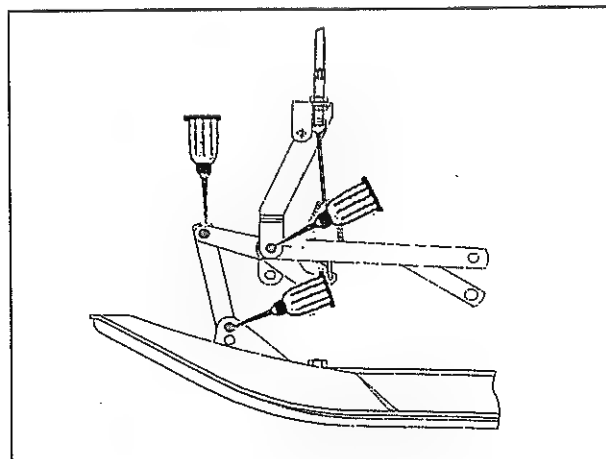
●植付伝導軸六角シャフト部

■グリース塗布箇所

●オートマーカソレノイドピン部

■オイル注油箇所

●リンク支点部（前方）

●リンク支点部（後方）

●スプリングケースピン部
●スプリングケースピストン摺動部

●後輪ローリングフレーム支点部

●線引マーカ作動支点部

●苗のせ台ローラ部

重要 下記箇所は特に毎日注油してください。

●しゅう動板（注油ホース付き）

・黄色キャップを開き油差しでカップ内に1～2杯注油してください。
PQ4－2ヵ所　PQ5－3ヵ所

●苗送りアーム、カム関係

・ラチェットホイール及び回動部に十分注油してください。
・ローラの回動部に十分注油してください。（2ヶ所）

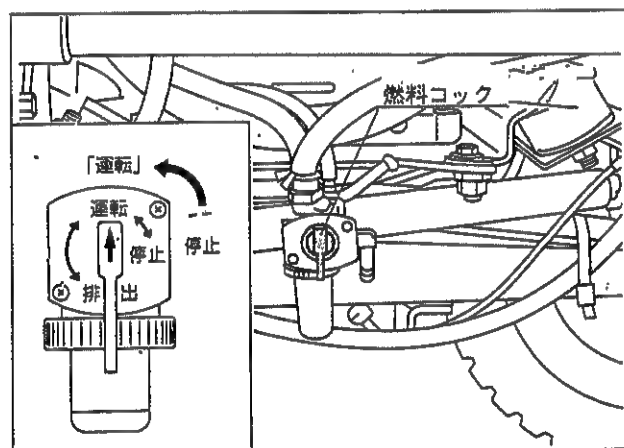
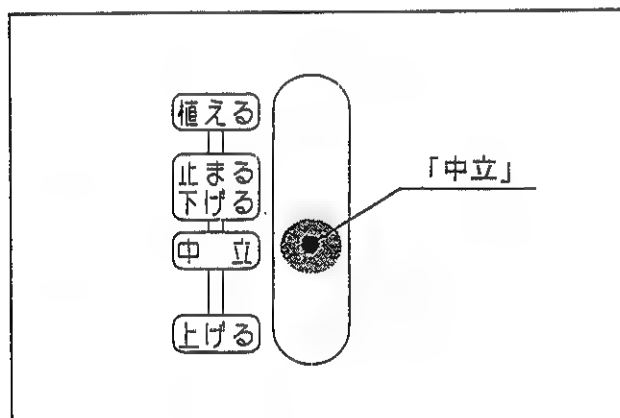
●フロートリンク支点部

運転のしかた

警告

(1) 始動する前に安全カバー類が取付けてあるか確認してください。
(2) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行ってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
(3) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。
(4) エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

(1)・燃料コックを「運転」にします。

(2) 植付クラッチレバーを「中立」位置にします。
(3) アクセルレバーを「中程」にセットします。

(4) ブレーキペダルを踏み込んでロック状態にしてください。

重要

●ブレーキペダルを踏み込みロック状態にしないと、エンジンは始動しません。

(5) チョークノブを操作します。

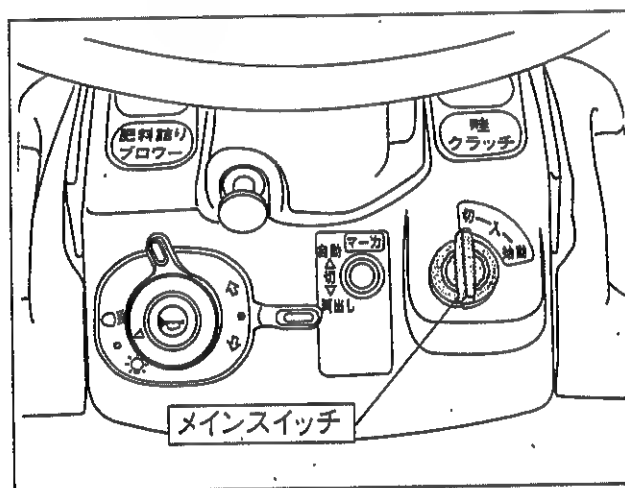
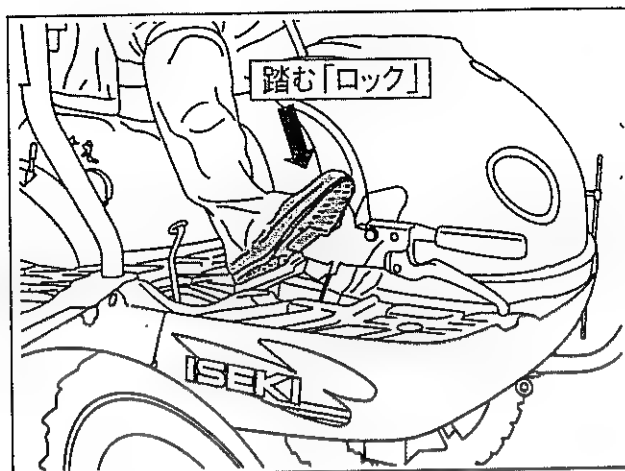
（エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。）

(6) メインスイッチを「始動」の位置に回します。

(7) エンジンが始動したら、ただちにメインスイッチから手を離してください。

重要

●10秒以内で始動しなかった場合は、メインスイッチをいったん「切」の位置に戻して、30秒程度休止してから再び同じ操作を繰り返してください。

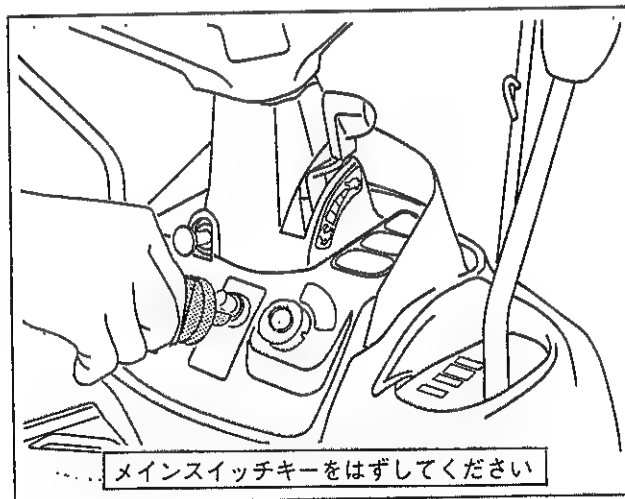
●エンジンが始動しているにもかかわらずメインスイッチを回し続けたり運転中にメインスイッチを回さないようにしてください。

■エンジンの停止

(1) アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。

(2) メインスイッチを「切」の位置にするとエンジンは停止します。

重要

●エンジンを高速回転のまま停止しないでください。

●メインスイッチを「入」の位置のまま放置するとバッテリを放電させてしまいますので、エンジン停止後はメインスイッチをはずす習慣をつけてください。

発進、停止、駐車のしかた

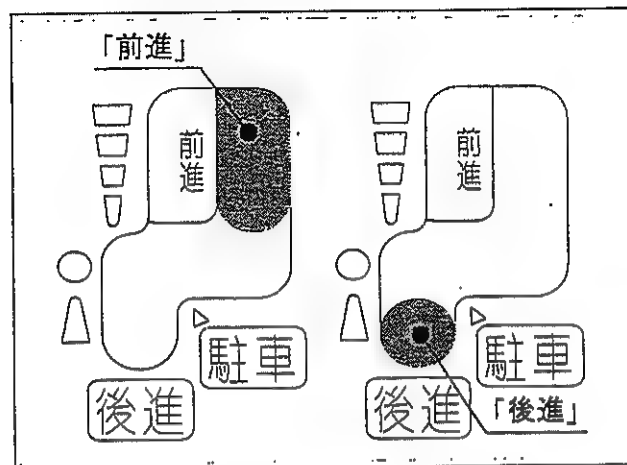
■発進のしかた

(1) ブレーキペダルを踏み込んでクラッチを切りエンジン始動後、副変速レバーを「超低速」「移動速」「植付速」いずれか作業に合った位置にセットしてください。

(2) 主変速レバーを停止位置にし、ブレーキペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、ブレーキを解除してください。

(3) 主変速レバーを停止位置により「前進」の場合は前方へ、「後進」の場合は後方に操作し発進してください。

重要

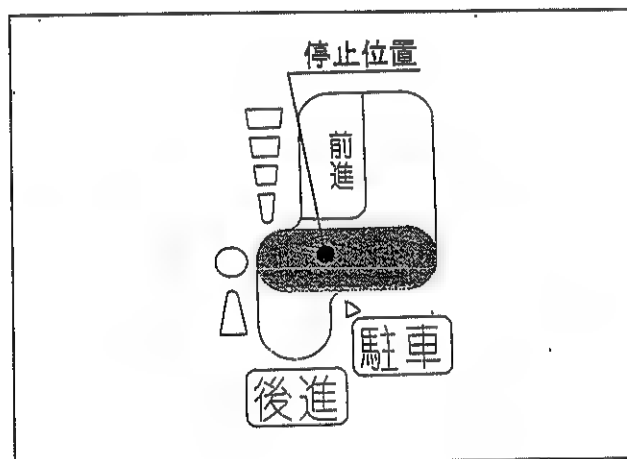
●エンジン始動状態では主変速レバーのみで発進,停止することができます。

■停止のしかた

(1) アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。

(2) 主変速レバーを停止位置にすると停止します。

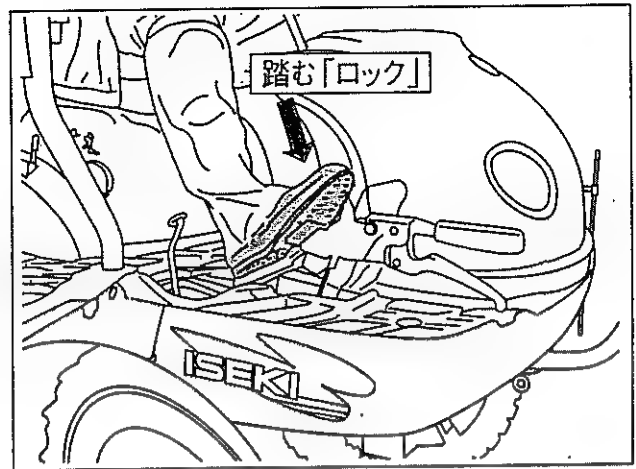
※ 降りて機械を操作する場合はSSレバーで停止してください。(24ページ参照)

重要

● 緊急停止時には、ブレーキペダルを踏み込んで停止してください。その場合、反動で機械から振り落とされる恐れがありますので必ずハンドルを両手でしっかり握ってください。

■駐車のしかた

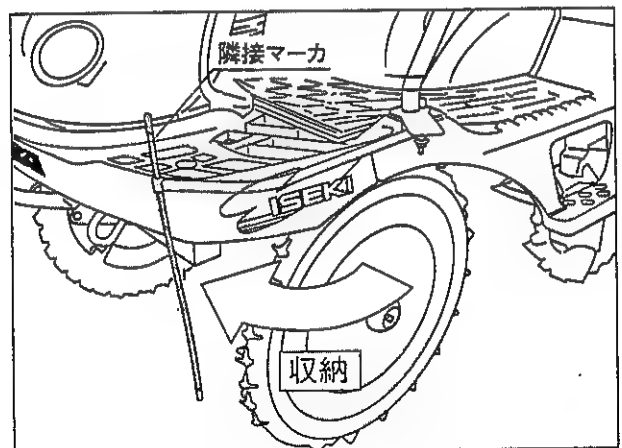
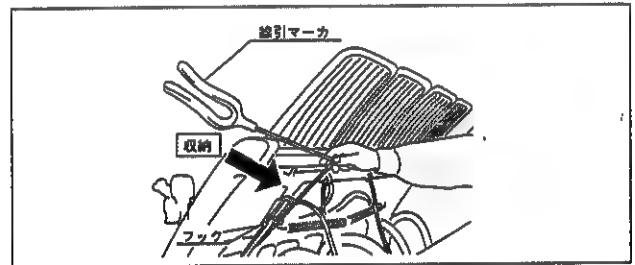
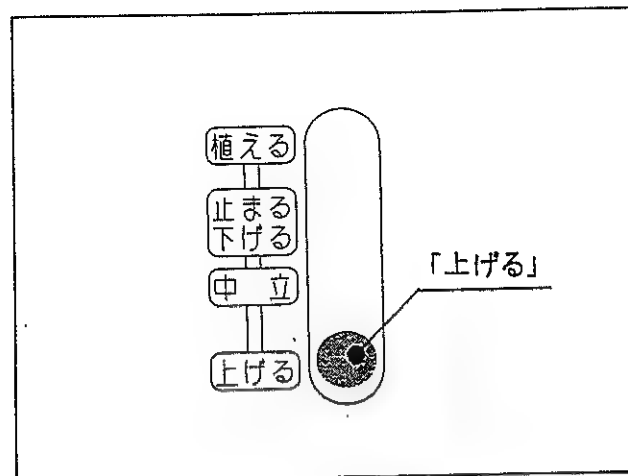
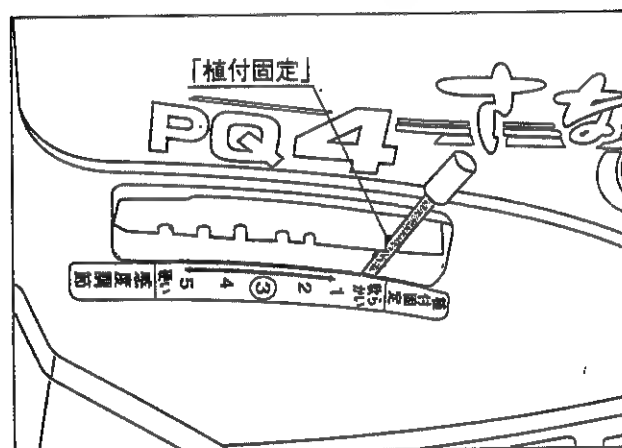
(1) 主変速レバーを「駐車」の位置にしてください。
(2) エンジンを停止してください。
(3) ブレーキペダルを踏み込み、ロックした状態にしてください。

 警告

- 駐車時、植付部は下げておいてください。
- 坂道で駐車する場合は、車輪に必ず車輪止めをしてください。

移動、運搬のしかた

■走行のしかた

(1) 線引きマーカはフックに掛けて収納してください。

(2) 隣接マーカを収納してください。

(3) 植付クラッチレバーを「上げる」の位置にして植付部をいっぱい上げてください。

(6) 油圧感度レバーを「植付固定」の位置にしてください。
(7) 苗のせ台を機体中央に移動してください。
(51ページ参照)
(8) 走行場所に合わせて、主変速レバーと副変速で、走行の速度を調節してください。

注意
凹凸の激しい場所、路面の軟弱な場所、傾斜地では、エンジン回転を落としゆっくりと走行してください。

重要
●走行中はブレーキペダルから足を離してください。

■トラックへの積み・降ろしのしかた

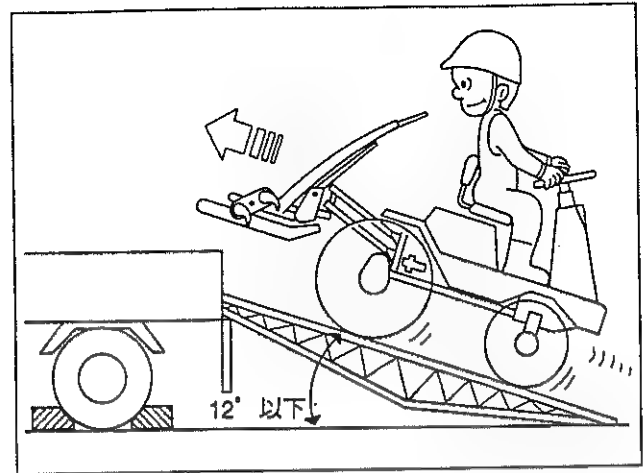
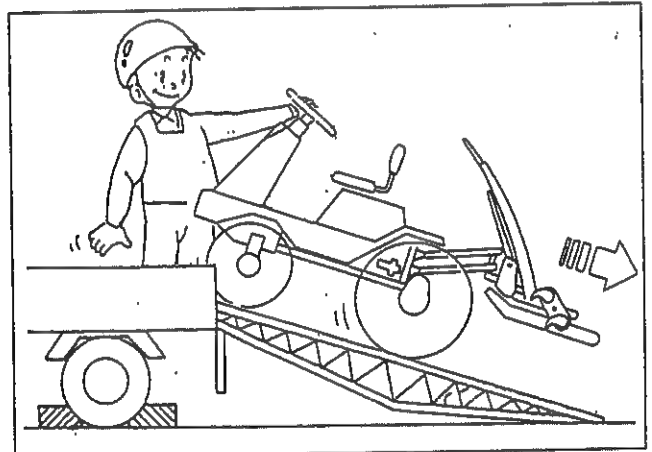
(1) 線引マーカ、隣接マーカ、補助苗枠(PQ4のみ)を収納してください。

(2) 植付部をいっぱい上げ、油圧感度調節レバーを「植付固定」にしてください。

(3) 苗のせ台を機体の中央にしてください。(51ページ参照)

(4) トラックに載せるときは、アクセルレバーを前方にいっぱい押し(エンジン回転を最低速)副変速レバーを「超低速」にし、主変速レバーを「後進」にして行なってください。
また、トラックより降ろすときは、副変速レバーを「超低速」にし、主変速レバーを「前進の1段目」にして行なってください。

〈アユミ板の条件〉
- ●長さ……車の荷台高さの4.8倍以上
- ●幅……30cm 以上
- ●数量……2枚
- ●強度……1枚の強度か500kg以上
- ●すべり止めのあるもの

(5) 降りて機械をうごかすときは、機械が前上がりの状態で右斜め前方から操作してください。

⚠ 警告

(1) 周囲に危険のない平たんで、地面の硬い場所を選んでください。
(2) 積み込むトラックのエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛けてください。
(3) アユミ板のフックは、荷台に段差がなく、ずれないように確実に掛けてください。
(4) 主変速レバーは「前進の1段目」または「後進」にし、副変速レバーを「超低速」にしてください。
(5) 積み降ろしの途中で、ステアリングを大きく操作しないで下さい。機体が横ブレして、転落事故の原因になり大変危険です。
(6) 降りて機械を動かすときは機械の右側に立ち、機械の正面に立って操作しないでください。

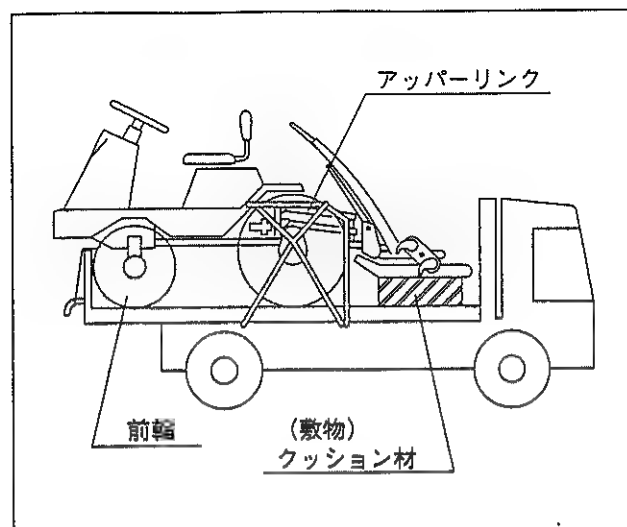
■運搬中の固定方法

(1) 主変速レバーを「駐車」の位置にし、ブレーキペダルをロックし、駐車ブレーキをかけてください。(21ページ参照)

(2) エンジンを停止してください。

(3) 前輪を車の後部に引きつけて、ロープで固定してください。

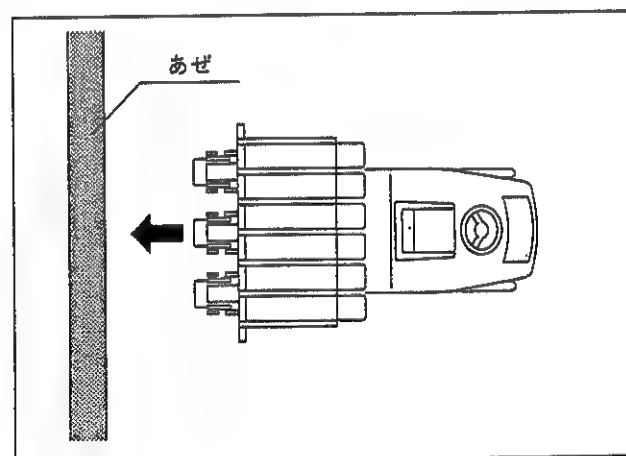
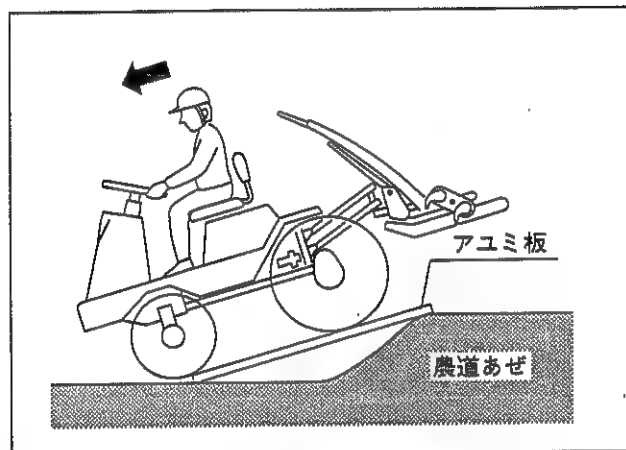
(4) 後輪をロープでたすき掛けにして固定してください。

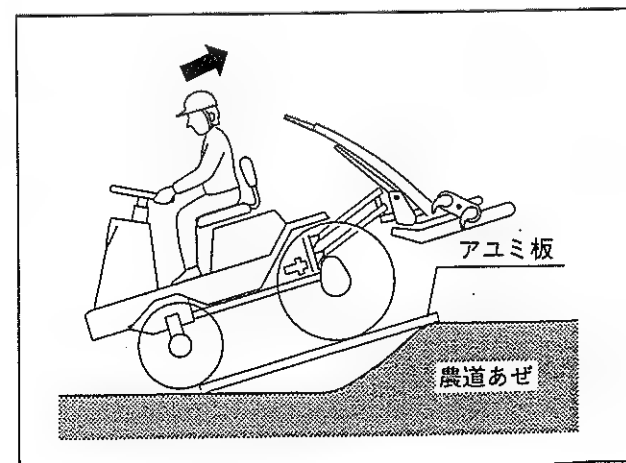
(5) フロートの下に敷物を置いて、植付部を降ろし、アッパーリンクをロープで軽く押えてください。

ほ場への出入のしかた

(1) ほ場との高低差が大きい時は、アユミ板を使用してください。
(2) 補助苗枠および苗乗せ台には、苗を乗せないでください。また,田植機に荷物を積まないでください。

■ほ場への入りかた

(1) 植付部をいっぱい上げてください。
(2) 副変速レバーを「超低速」の位置にし、主変速レバーを「前進の1段目」にして、ゆっくりとほ場に入ってください。

ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、必ずあぜに直角に進んでください。

■ほ場からの出かた

(1) 植付部をいっぱい上げてください。
(2) 副変速レバーを「超低速」の位置にし、主変速レバーを「後進」にして、ゆっくりとほ場から出てください。

植付作業のしかた

ほ場の準備

■ほ場の準備

●代かき

代かきは、ほ場の表面の凸凹をなくすように、ていねいにしてください。

重要

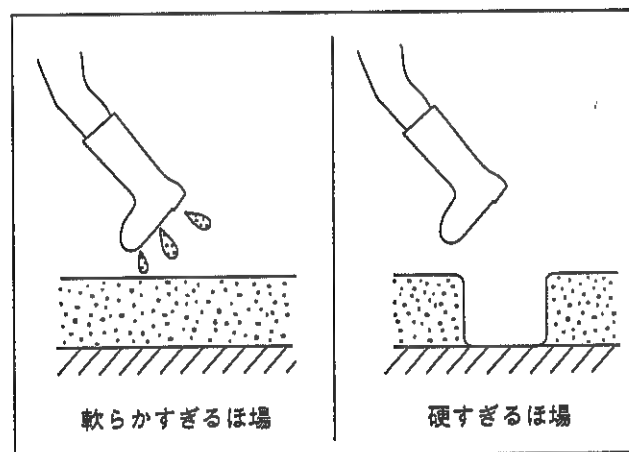
●代かき日は、土質などによっても異なりますので、当地に合った代かき日をきめてください。

●ほ場の硬さは、やや軟らか目の硬さが最適です。歩いても足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場では、きれいな植付ができないことがありますので注意してください。

●水深

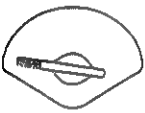
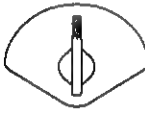
水深は1～2cm程度の全面浅水が最適です。

重要

●水深が2cm以上のほ場や、反対に水気のないほ場では、きれいな植付ができないことがありますので注意してください。

●きょう雑物

刈り株・排ワラ等のきょう雑物はできるだけ取り除いてください。

植付作業前の準備

■植付株数（株間）の決めかた

植付株数は、疎植レバーと株数切替レバーの切替えで変更できます。
当地に合った植付株数にセットしてください。
（切替えのしかたは45ページ参照）

重要

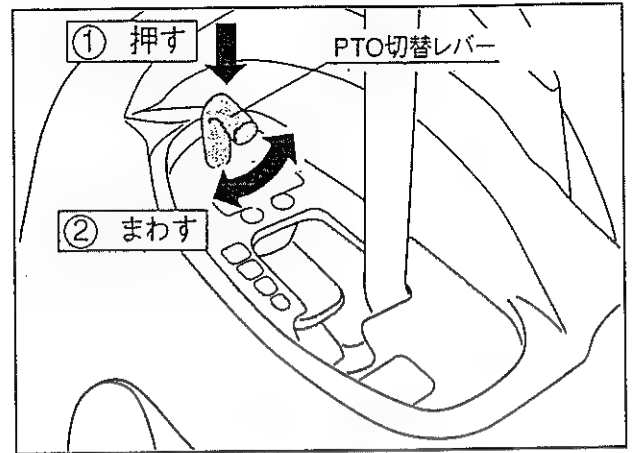
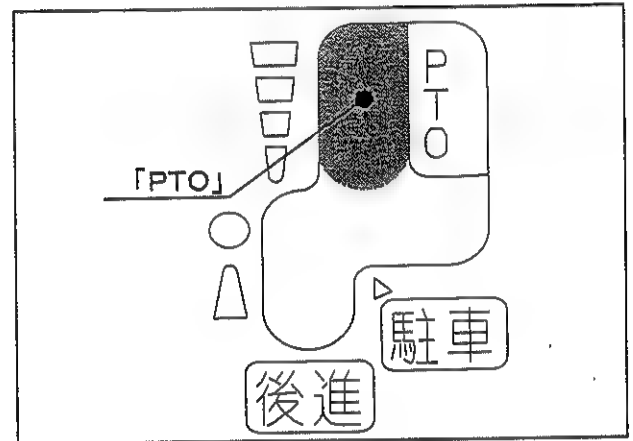
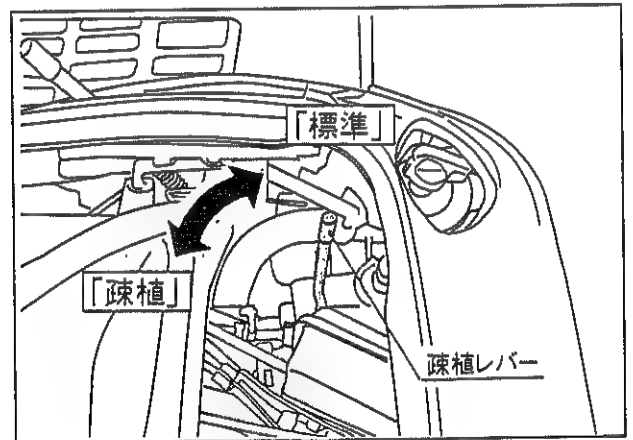
- 出荷時の植付株数は70株です。
（疎植レバーは「標準」位置です。）
- 植付株数により使用箱数が変わります。
植付株数に合った箱数を準備してください。
なお、実際には10a当り2箱程度の予備苗を準備することをおすすめします。
- 植付株数や苗取量を途中で変更すると所要箱数が変わります。

疎植レバー位置 ／ 株数切替レバー位置		①標準	②疎植
	株数	80	47
	株間(cm)	14	23
	株数	60	37
	株間(cm)	18	30
	株数	70	42
	株間(cm)	16	26

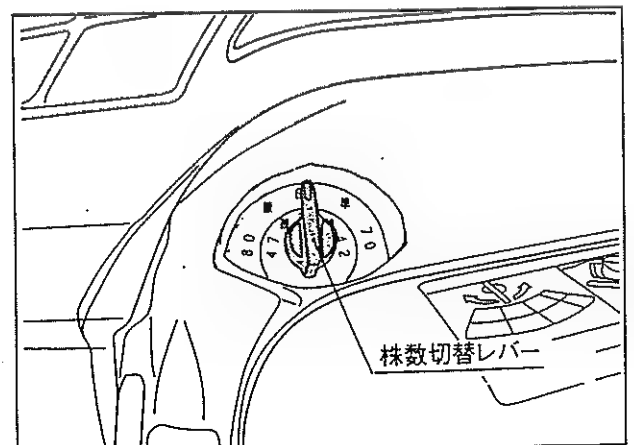
・この株数は車輪スリップ率10%のときのものです。

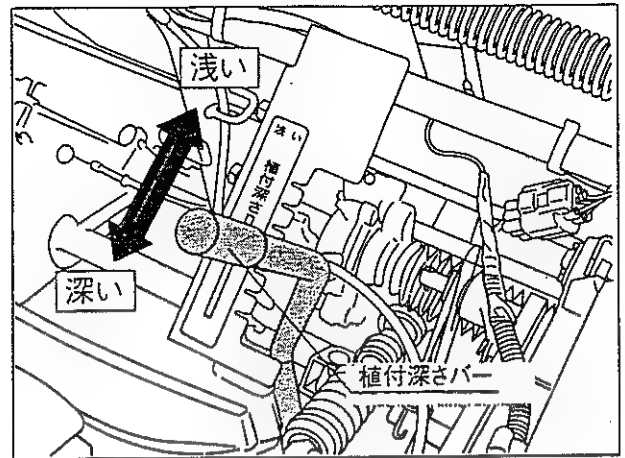
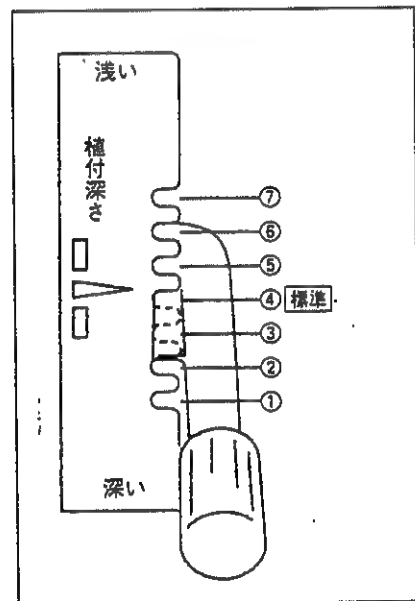
■ 疎植レバーと株数切替レバーの切替えかた

(1) 油圧感度調節レバーを「植付固定」にします。

(2) エンジンを低回転にし、主変速レバーを「駐車」にしてPTO切替レバーを「PTO」にします。
このときブレーキペダルがロックしてある場合は、ロックを解除してください。

(3) 主変速レバーを「駐車」の位置から前方に押し「PTO」に入れます。

(4) 疎植レバーを希望の位置にセットします。

(5) 株数切替レバーを希望の位置にセットします。

重要

- レバーの調整後、植込杆が回っていることを確認してください。
- 株数のセット後は、必ずPTO切替レバーを「前進」にしてください。

■植付深さの調節のしかた

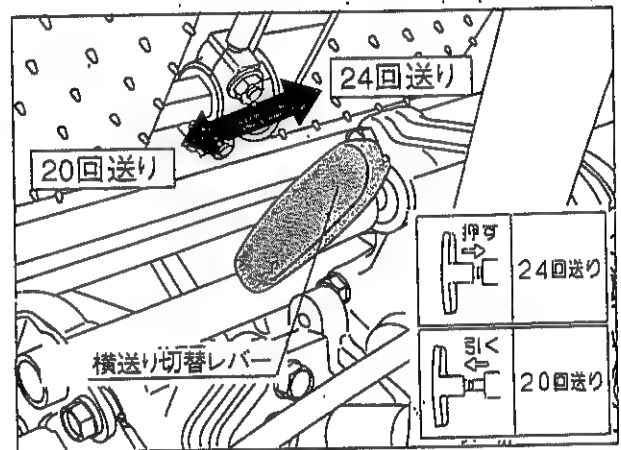
●植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは7段階に選べます。

●植付深さの標準は、ガイド溝④の位置です。植付深さを深くしたい時は①の方向へ、浅くしたい時は⑦の方向へ植付深さ調節レバーを移動させてください。

重要

●植付深さは、必ずほ場で試し植えをして確認してください。

■横送り量の切替えかた

苗の種類によって、横送り量の切替えを行ってください。

横送りの回数	苗の種類
24回	稚苗
20回	中苗

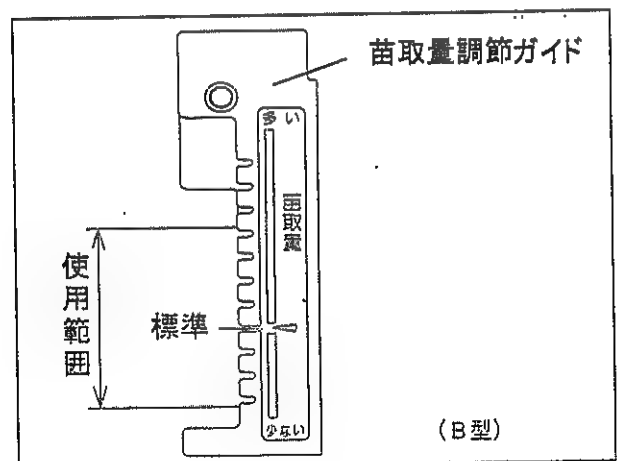
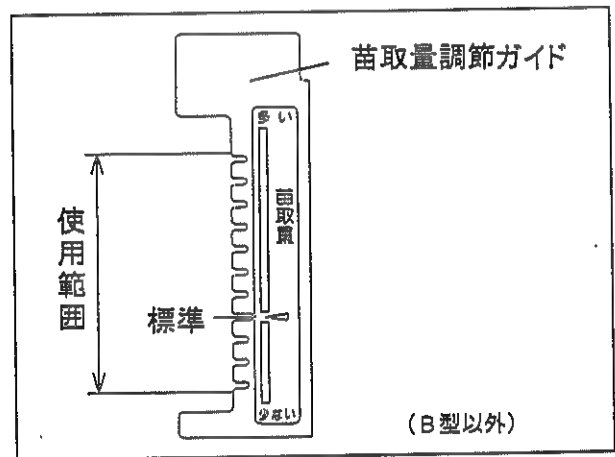
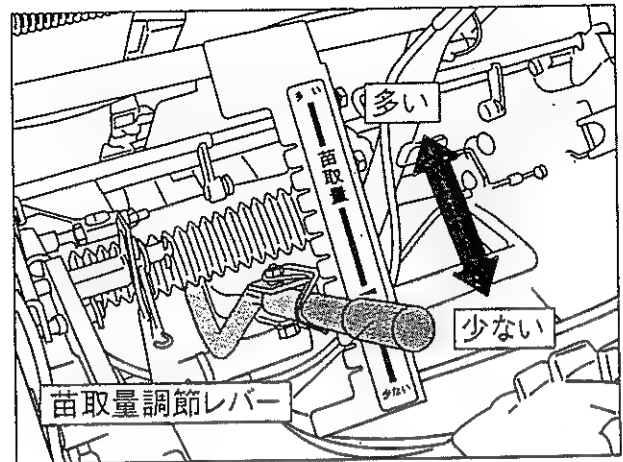
(1) 苗のせ台右横に、横送り回数を明記しています。横送り切替レバーで苗の種類に合った位置に切替えてください。
(2) 横送り回数を変更する時は油圧感度調節レバーを「植付固定」位置にし、エンジンを止めてから希望の横送り回数に変更してください。

注意
切替えはエンジンを停止して行ってください。これを怠ると作業機を破壊したり、思わぬ事故の原因となります。

重要
(1) 切替え後は、必ず希望の位置に入っていることを植込杆を回して確認してください。
(2) 横送り回数を変更したときは、適正な植付爪と取口ガイドに交換してください。
(植付爪と取口ガイドは、お買い上げいただいた先へ注文してください。)

■苗取り量の調節のしかた

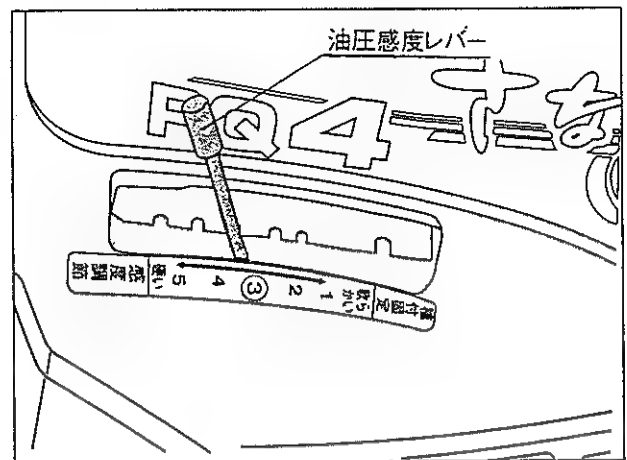
・苗取量調節レバーのセット位置を上下に調節することにより全条の苗取量を一度に変えることができます。
・ガイド溝1段で苗取量は約1mm変わります。■

（B型以外）

（B型）

■油圧感度調節のしかた

●感度は、油圧感度調節レバーを前後にずらすことにより5段階に選べます。

重要

●最初は必ずレバーを「3」位置にして試し植えをしてください。

●フロートで泥を押す場合
レバーを「3」の位置から一段づつ「軟らかい」側（前方）へ移動させてください。

● 植付部がバタツク場合やフロート後部が浮く場合レバーを「3」位置から一段づつ「硬い」側（後方）へ移動させてください。

重要

●油圧感度調節レバーの調節を行なった場合は、植付深さが変わりますので、植付深さの確認と調節を合わせて行なってください。

●水深が深い場合には、水の浮力で、フロートが浮きやすくなりますので、水深の浅い所よりも一段「硬い」側にセットしてください。

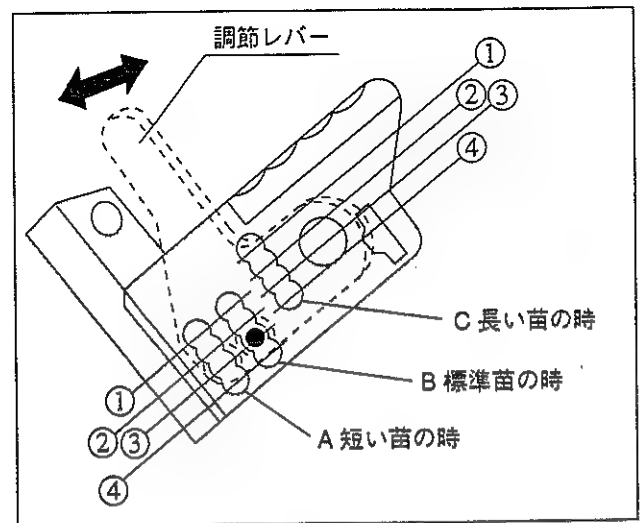
●水深が深い場合や、レバーが「軟らかい」側のときは、植付速度をひかえ目にしてください。

●隣接条を、植付「切」で走行する場合には、最も「軟らかい」側にセットすると泥押しが少なく隣接条を乱しません。

油圧感度調節レバーの移動方向	植付深さ
「軟らかい」 → 「硬い」	深くなる
「硬い」 → 「軟らかい」	浅くなる

■抵抗棒の調節のしかた

● 抵抗棒の位置は、調節レバーで４段階の調節できます。
また、苗の長さにより3段階の調節ができます。
その場合は、ヘアーピンを抜いて抵抗棒を差し替えてください。

● 抵抗棒の標準（出荷）位置は
標準苗位置Ｂでの③の位置

● 標準位置で試し植えをして、不調時は下記要領にて調節してください。

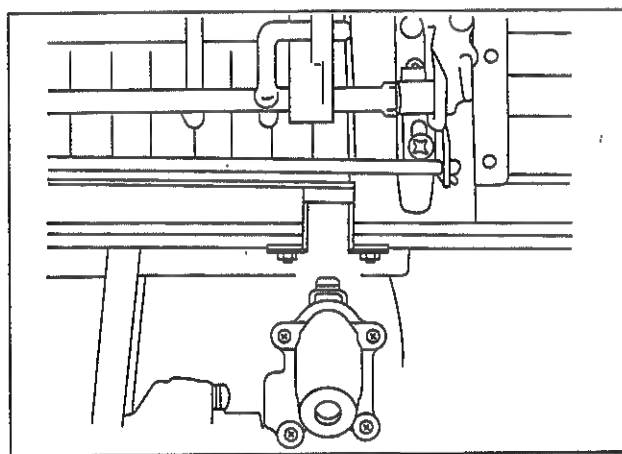
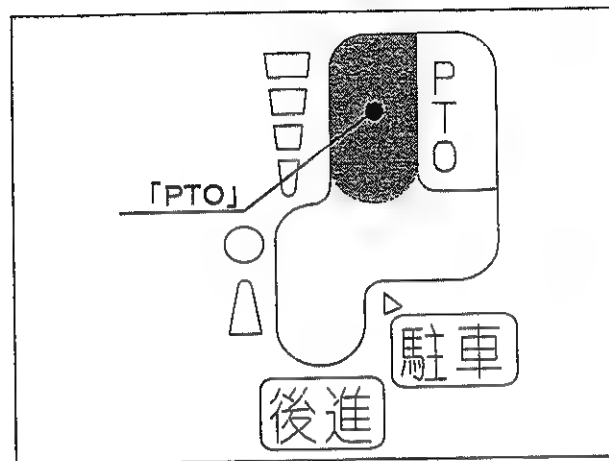
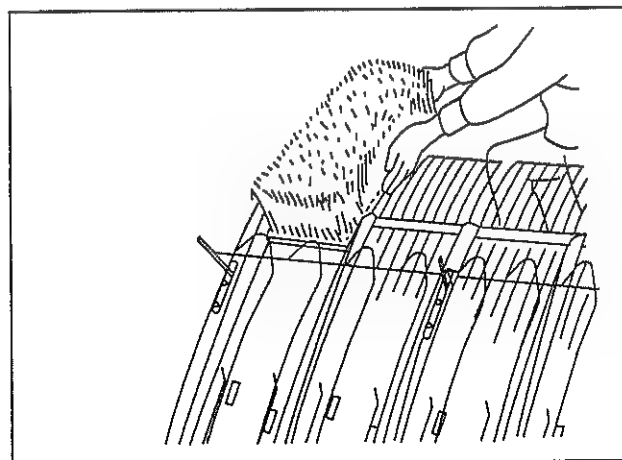
不調な場合の現象	抵抗棒の位置
植付けた苗が前だおれになる。	①,②(Bの位置)又はCの位置①～④
植付けた苗が後だおれになる。	④(Bの位置)又はAの位置①～④
植付けた苗がおおぎ状になる。	④(Bの位置)又はAの位置①～④
苗が植付爪より離れない。	①,②(Bの位置)又はCの位置①～④
苗が一、二本だけ離れ植付けが乱れる。	④(Bの位置)又はAの位置①～④

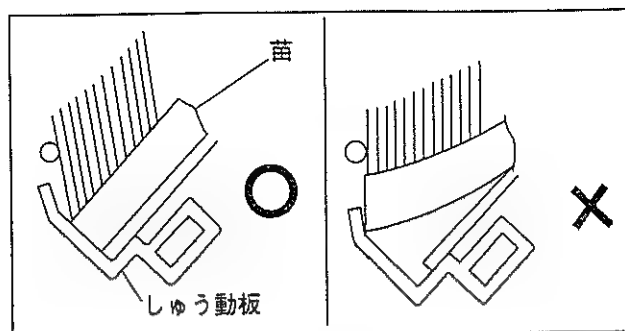
重要

●抵抗棒の位置を変更する場合は、最初に調節レバーで抵抗棒の位置を変えて調節し、それでも直らない場合に抵抗棒の差し替えで抵抗棒の位置を変更してください。
●抵抗棒の位置を変更後は、全条同じ位置に抵抗棒がセットされているか確認してください。

注意
位置の変更はエンジンを停止して行ってください。これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

植付作業の手順

(1) ほ場に入りエンジンを低回転にして主変速レバーを「駐車」の位置にし、ブレーキペダルをロックします。
(2) 植付クラッチレバーを「上げる」の位置にし植付部を上げ、油圧感度調節レバーを「植付固定」の位置にします。
(3) 線引マーカを収納位置から作業位置にします。
(4) 隣接マーカを作業位置にセットします。
(5) ＰＴＯ切替レバーを「ＰＴＯ」にします。
(6) ブレーキペダルのロックを解除し、クラッチをつなぎます。
(7) 主変速レバーを「駐車」の位置から前方に押し「ＰＴＯ」に入れます。(右図参照)
(8) 植付クラッチレバーを「植える」の位置にして苗のせ台を左端または右端に移動させ、苗送りベルトが作動した直後に植付クラッチレバーを「止まる」の位置にしてください。
(9) 主変速レバーを「駐車」の位置に戻しＰＴＯ切替レバーを「前進」にします。
(10) 油圧感度調節レバーを希望の位置にゆっくりとセットします。

(11) 苗取板で取った苗を、苗のせ台にていねいにのせてください。

重要

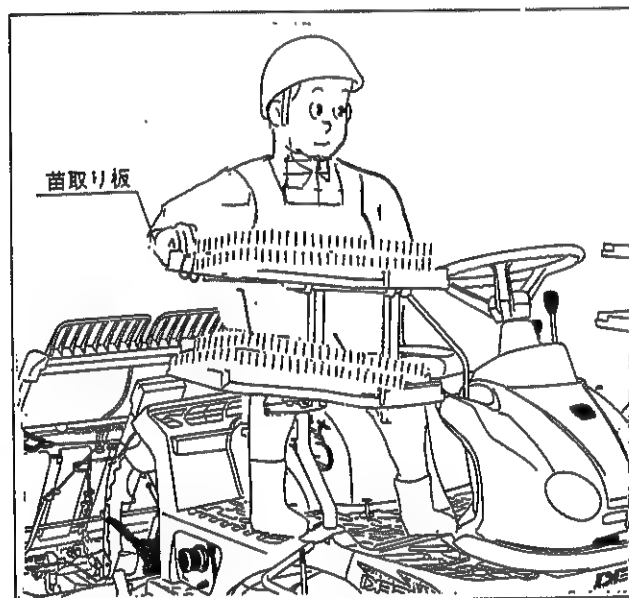
- 苗のせ台には、苗が２枚搭載できます。
- 苗が、しゅう動板の所で浮き上がらないようにのせてください。
- 苗のせ台を左または右端に寄せてください。

重要

- 根張りの悪い苗は振動で形がくずれてしまうため、育苗箱に入ったままの状態で補助苗枠に乗せてください。

(12) 副変速レバーを「植付速」にして、ほ場の端に移動してください。

(13) 線引マーカを次の行程で植える側に出してください。(54ページ参照)

(14) 植付クラッチレバーを「植える」の位置にしてください。

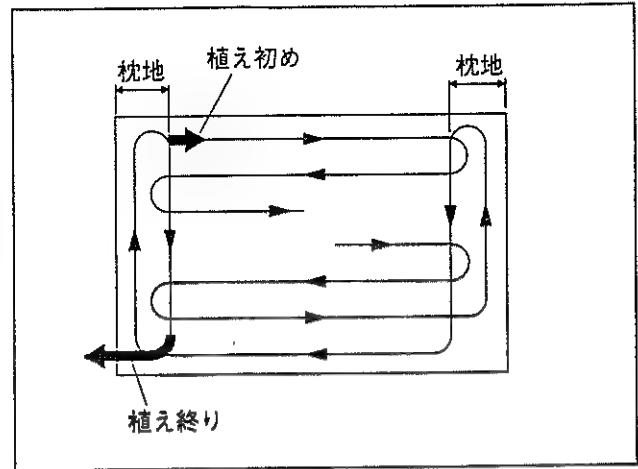
(15) エンジン回転数を中速にして、ゆっくり植付けをはじめてください。

重要

- 植付け作業を開始して、各調節が希望する値になっているか確認してから、連続作業を行なってください。
- ほ場の状態、苗の条件により植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最も良い速度を選んでください。

■枕地のとりかた

●枕地はあらかじめ1往復分残して植付ければ、能率的に枕地植えが行えます。

重要

●ほ場が長方形でない場合は、まっすぐで最も長いあぜに沿って植え始めると、きれいに植付けができます。

■旋回のしかた

(1) あぜに近づいたら、主変速レバーを手前に引いて速度を下げ、あぜから枕地分手前で、植付クラッチレバーを「上げる」の位置にしてください。

(2) ステアリングを回しセンターマスコット、隣接マーカで隣接条との条間を合わせ機体を進行方向にまっすぐ向けてください。

重要

●センターマスコットは、1行程前に線引マーカでつけたマーカ跡に合わすと隣接との条間が合います。

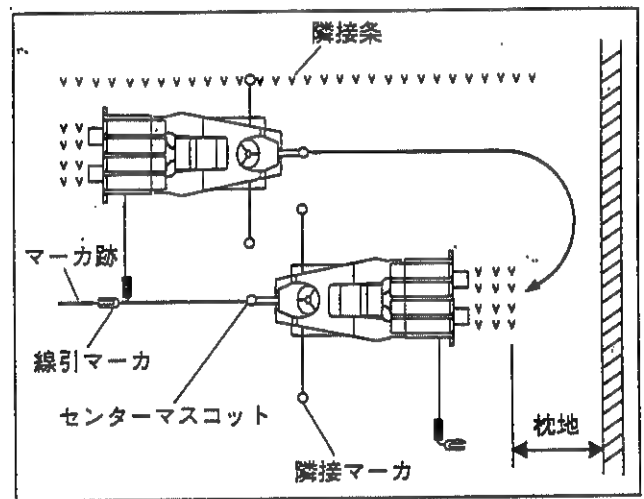
●隣接マーカは、1行程前に植付けられた隣接条に合わせると条間が合います。

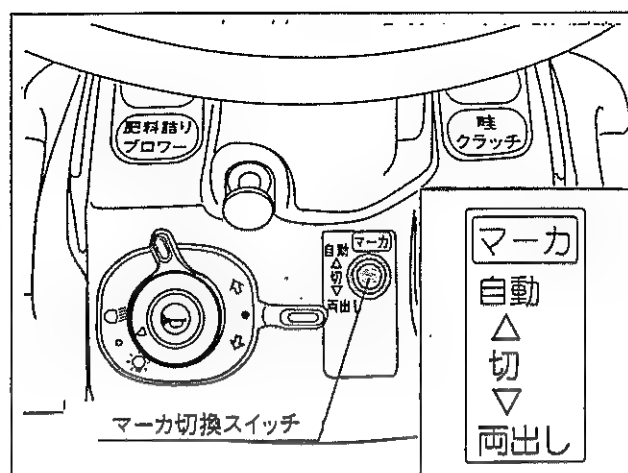
(3) 植付クラッチレバーを「下げる」の位置にし、植付部を下げて、次の植付行程側の線引マーカを出します。

(4) 枕地分をすぎた所で、植付クラッチレバーを「植える」の位置にして、モニターランプの「植える」の点灯を確認して植え進んでください。

・線引マーカは、植付部を上下することにより自動的に左右交互に倒れます。

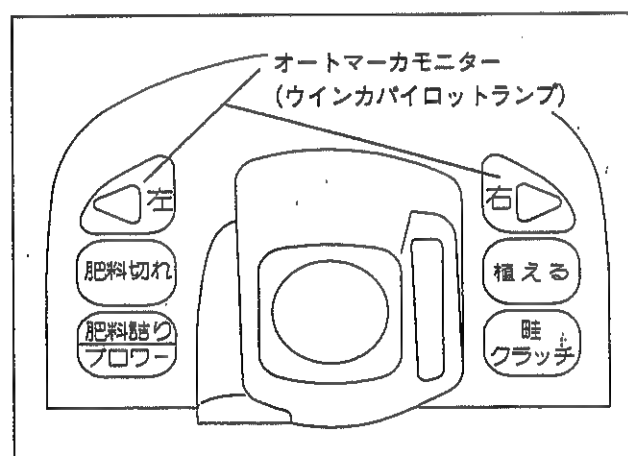
重要

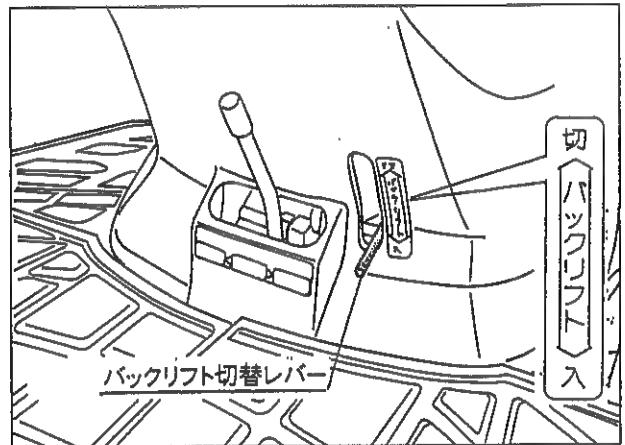
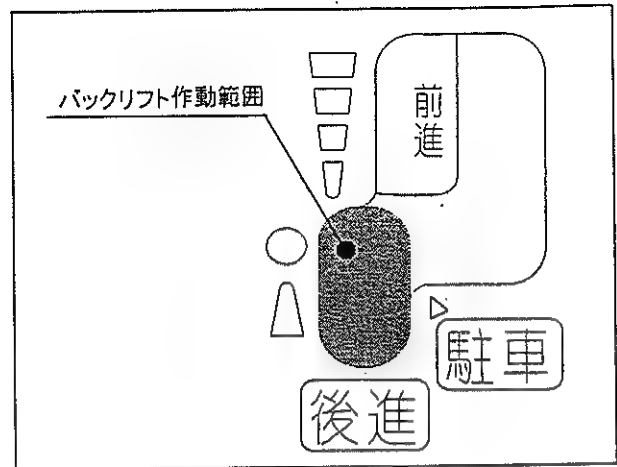
●旋回時、前輪が空転して旋回できないときは、前輪デフロックペダルを踏み込んでください。

■オートマーカの使いかた

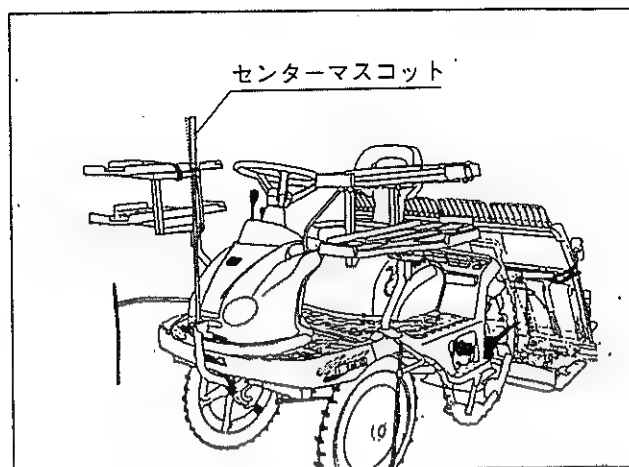
- マーカ切替スイッチを「自動」にすると、線引マーカの出る側のオートマーカモニターランプが点灯します。
- 線引マーカの出る方向を切替えるときには、植付クラッチレバーを「上げる」にし、植付部をいっぱい上げてから、オートマーカモニターランプが切替わったことを確認して、植付部を下げてください。
- 植付部がいっぱいに上がっているとき、植付クラッチレバーを「上げる」にする度に、線引マーカの出る方向が左右交互に切替わります。

■マーカ両出しのしかた

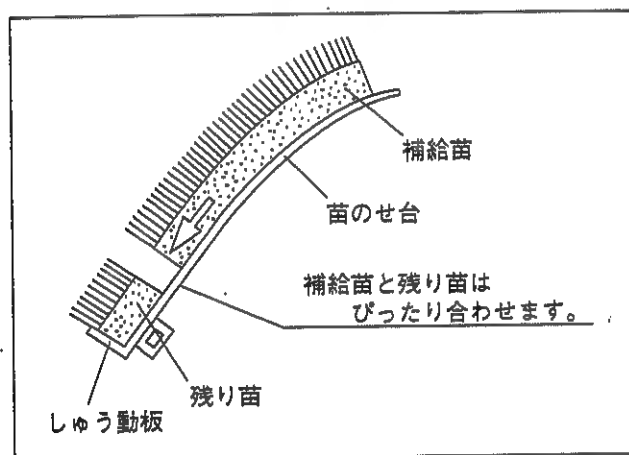
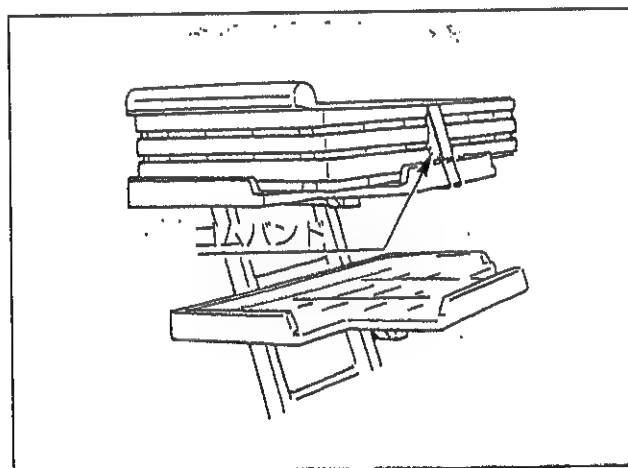
- マーカ切替スイッチを「両出し」にすると、左右の線引きマーカが同時に出るようになります。このとき、オートマーカモニターランプが左右とも点灯します。

重要

●植付部をいっぱい上げて、マーカ切替スイッチを「切」にすると、両側の線引マーカは出ません。

■バックリフトの使いかた

・主変速レバーを「後進」(後進の停止位置含む)位置にすると、植付クラッチレバーが「上げる」に切替わり、植付部が上昇します。
・バックリフト切替レバーを「切」にするとバックリフトは作動しません。
＊ 主変速レバーが「後進」のとき、植付クラッチレバーを「下げる」または「植える」にしても植付部が上がることがありますので、主変速レバーを、バックリフト作動範囲外にしてから植付クラッチレバーを操作してください。

■苗の補給のしかた

(1) 苗が一定量まで減少すると、センターマスコットが点滅します。
(2) 主変速レバーを手前に引いて停止位置にし、ブレーキペダルを踏み込んでロックします。
(3) 補助苗を苗取板で取り、上の方からゆっくりと苗のせ台に滑りこませてください。
(4) 苗補給が終ったら、ブレーキペダルのロックを解除し、主変速レバーを前に押して発進してください。

重要

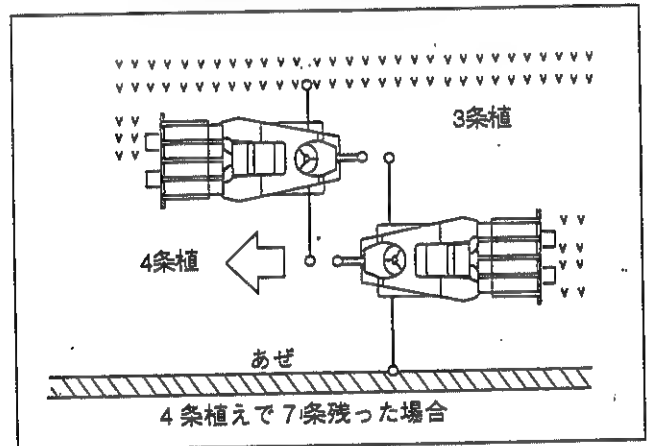
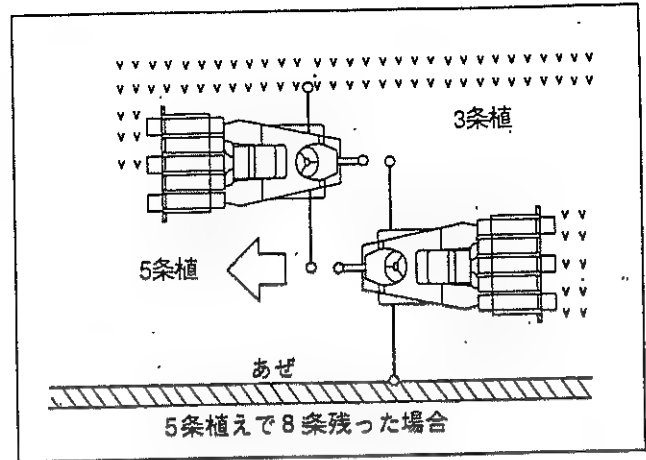
●苗補給するときは、残り苗と補給苗がぴったり合うようにしてください。

●風が強くて、苗補給後の苗箱（空箱）や苗取板が飛ぶような場合は、補助苗枠のゴムバンドで固定してください。

■植えじまいのしかた

植付けの最終行程（あぜぎわでの植付け）を使用機械の条数に合わせるためには、前行程で植付け条数の調整をする必要があります。任意の条数を植えたいときは、植込杆停止レバーと苗ストッパを使って行なってください。

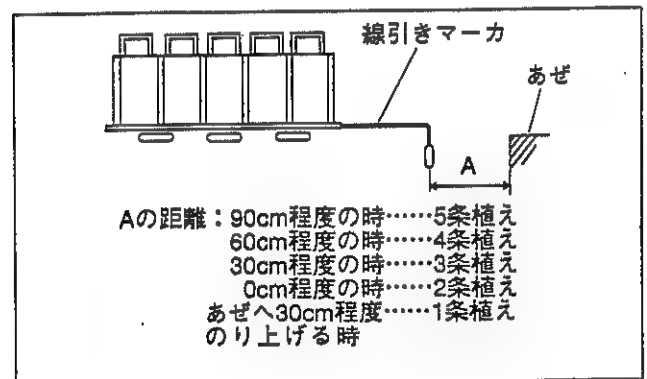
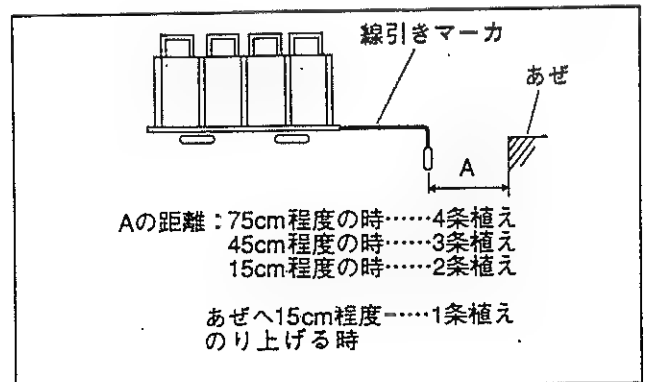
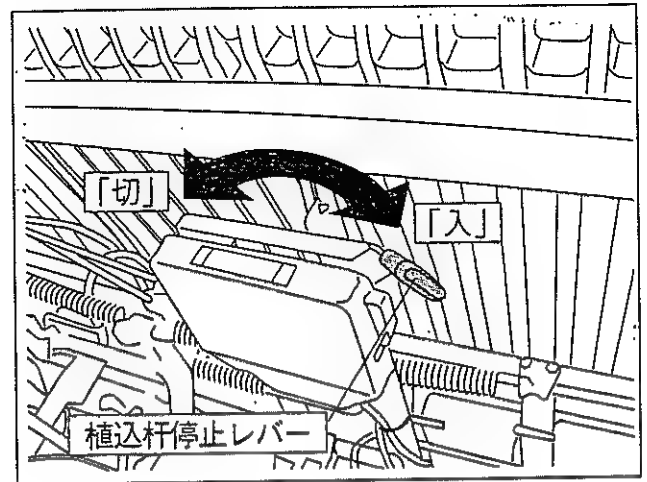
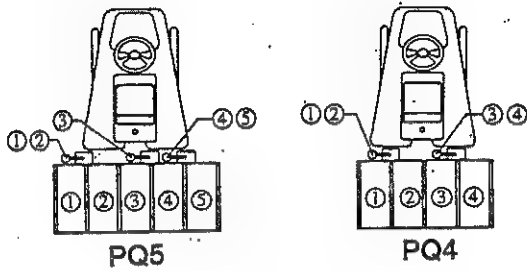
重要

●苗の葉を両手でもつと苗がくずれるような弱い苗で、長い距離を特定条のみ植付停止する場合は、苗ストッパを使用してください。（植込杆停止レバーを使用すると、停止条の苗がくずれ植付再開時、欠株を生じる場合があります。

5条植えで8条残った場合

4条植えで7条残った場合

●最終行程での植付条数のきめかた

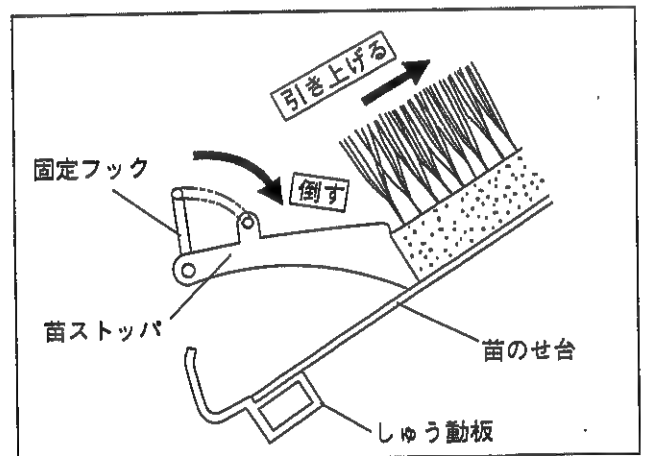
センターマスコットと隣接マーカで条合わせした後、線引マーカを出し植付条数を決めてください。

①PQ5

②PQ4

●植込杆停止レバーを「切」位置にすることにより、下図に示す条の植付けを停止することができます。

重要

●植込杆停止レバーを「切」位置で使用した後は、必ず「入」の位置に戻してください。

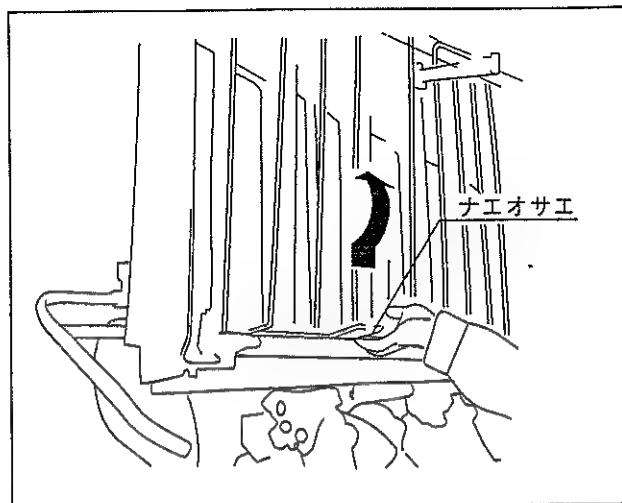
●1条単位で植付けを停止したい時には、植付けを止めたい条の苗を上に引き上げ、苗ストッパを固定フックよりはずし、苗のせ台側に倒してください。

重要

●苗ストッパを使用した後は、必ず苗ストッパを固定フックに確実に入れてください。

■残り苗の取り出し

●植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合には、ナエオサエを上に引き抜き、ガイド穴からはずし、上側に回してください。

重要

●苗の取り出しが終ったら、ナエオサエは、必ず作業位置（ガイド穴）に戻してください。

■安全クラッチが作動したとき

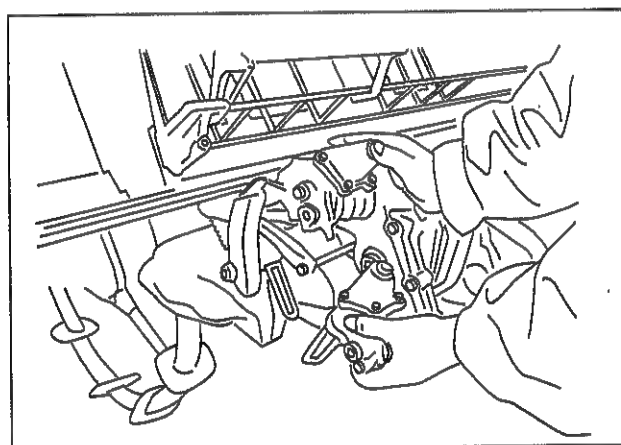
●植付け作業中、植込杆が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチが働いていますので次の処置をしてください。

(1) ただちにブレーキペダルを踏み込み、ブレーキペダルをロックさせます。

(2) 植付クラッチレバーを「止まる」にし、エンジンを停止します。

(3) 苗取口と植付爪の間、植込杆とフロートの間などに石等をかんでいないか確認し、取除いてください。

(4) 植込杆が軽く回動するか、しゅう動板との干渉はないか、植付爪は変形していないかを確認してから植付けを再開してください。

(5) 植付爪が変形している場合には、交換してください。

手で軽く回るか確認してください。

重要

●植付爪が曲がったり破損した時は、お買い上げいただいた先にご連絡ください。

⚠ 注意

安全クラッチの確認時には、必ずエンジンを停止して行ってください。これを怠ると大変危険です。

点検整備

定期的な点検整備

警告

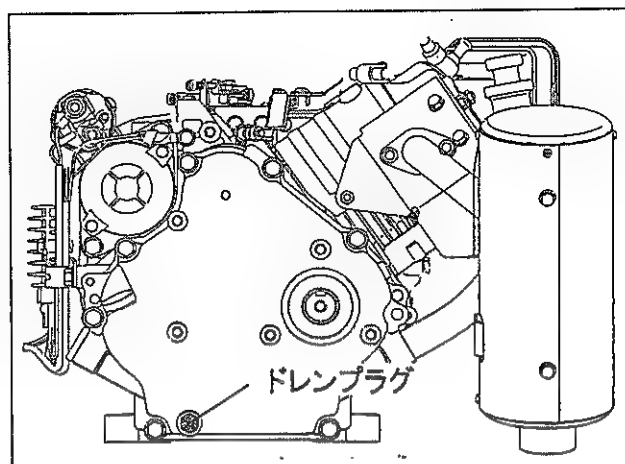
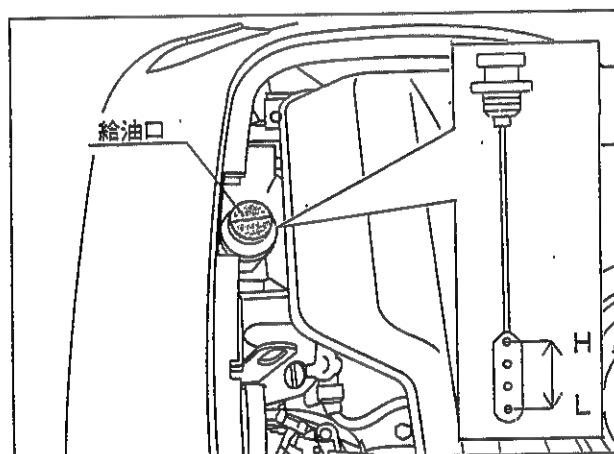
(1) 給油、排油、点検整備は必ずエンジンを停止して行なってください。
(2) 機械は平たんな場所におき、油圧感度調節レバーを「植付固定」にし、安全を確認してください。
(3) 作業中は火気厳禁。

■点検・給油・調整一覧表　　○:点検　△:給油　×:交換

点検・給油・調整項目		点検時期			備考	参照ページ
		毎日	毎シーズン前	不調時のみ		
エンジン部	エンジンオイル	○	×	×	キセキ純正オイル 10W30#又は30# (SE級以上) 初回のみ10時間で交換 1.1ℓ	62
	エアークリーナエレメント洗浄		○	○		63
	燃料フィルター清掃		○	○		64
	点火プラグの清掃		○	×		63
走行部	チェンジミッションオイル (油圧オイル兼用)			×	キセキハイポイドギヤーオイル 80# 検油口まで約4.7 ℓ	32
	リヤミッションオイル	分解時補給			キセキハイポイドギヤーオイル 80#　各0.8 ℓ (2ケ所)	65
	油圧サクションフィルタ掃除			○	チェンジミッションオイル 交換時掃除	64
	植付クラッチケースオイル	分解時補給			キセキハイポイドギヤーオイル 80#　0.5 ℓ	65

点検・給油・調整項目		点検時期			備考	参照ページ
		毎日	毎シーズン前	不調時		
走行部	ブレーキペダルの点検	○				66
	主変速レバー	○				66
	注油指定箇所	△			注油	33
	バッテリーの点検		○	×		67
植付部	横送りケース	分解時補給			ヰセキハイポイドギヤーオイル 80# 0.2 ℓ	30
	サイドフレーム	分解時補給			ヰセキハイポイドギヤーオイル 80# 各0.4 ℓ	30
	植込杆		○	△	ウエコミカングリス適量（ワンルーバ MP1#）	32
	フィンガー（植付爪）交換調整		○	×	摩耗、変形時 毎シーズン始め点検	70
	注油指定箇所	△			注油	34
その他	電気配線の接続部（カプラ）のゆるみ、損傷、ヒューズ等の点検		○	×	毎シーズン終了後	−
	各ワイヤの点検調整		○	×	毎シーズン始め	−

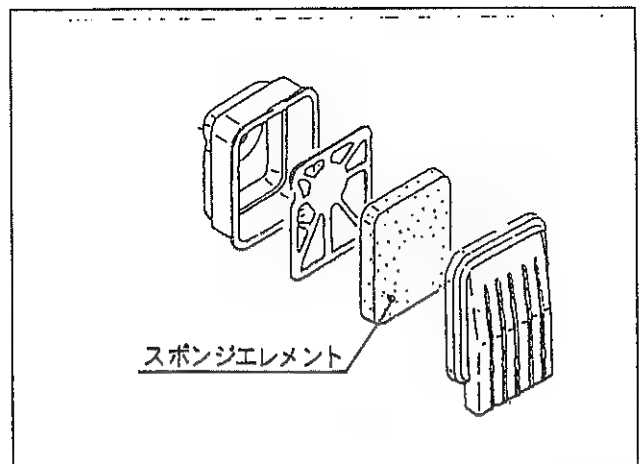
■エンジンオイルの交換

(1) エンジンを暖機運転後、ドレンプラグを外しオイルを抜いてください。
(2) ドレンプラグを締付後、給油口からエンジンオイルを給油してください。
(3) オイルレベルゲージの上下穴の間に油量があるか調べます。
適量入っていれば給油栓を確実に締めてください。

搭載エンジン	オイル量
FE250G	1.1 ℓ

注意

(1) オイル交換時は、エンジンを停止して行ってください。
(2) 作業中は火気厳禁。
(3) オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。お買い上げいただいた先にご相談ください。

■エアクリーナエレメント洗浄

●スポンジエレメント

- 25時間毎に清掃してください。
- 石けん液で洗浄した後水洗いし、よく乾燥させ、エンジンオイルに浸して固く絞ってから取付けてください。

洗浄時は、エンジンを停止して行ってください。

■点火プラグの清掃

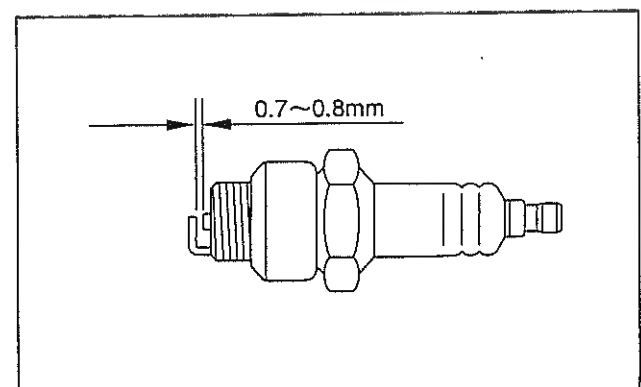
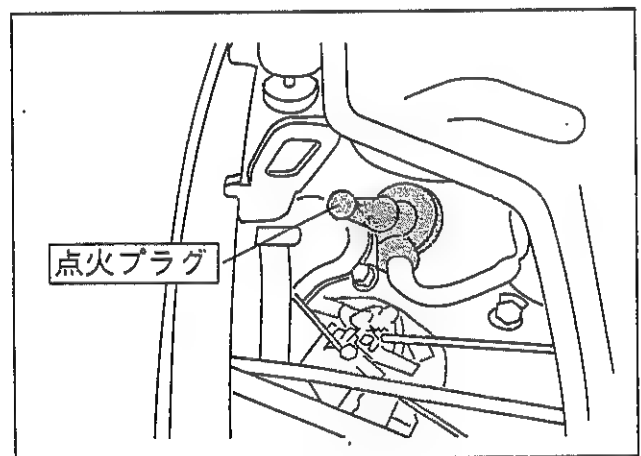
(1) 付属のボックスレンチで点火プラグを取り外してください。

(2)点火プラグに付着しているカーボンを取り除き、電極間を0.7～0.8mmに調整してください。

重要

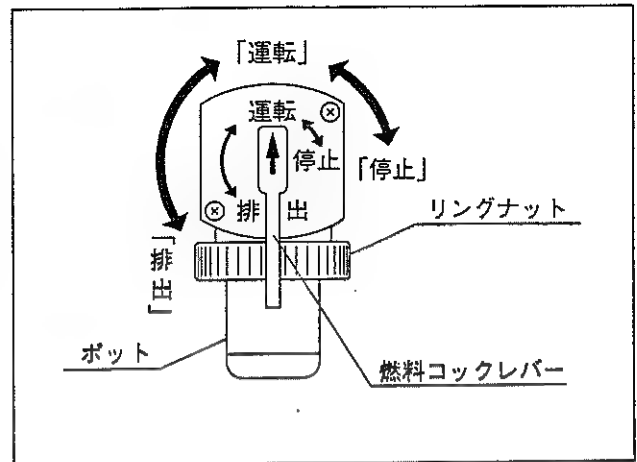
●使用点火プラグ

NGK BP5ES

点火プラグの点検を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

■燃料フィルタの清掃

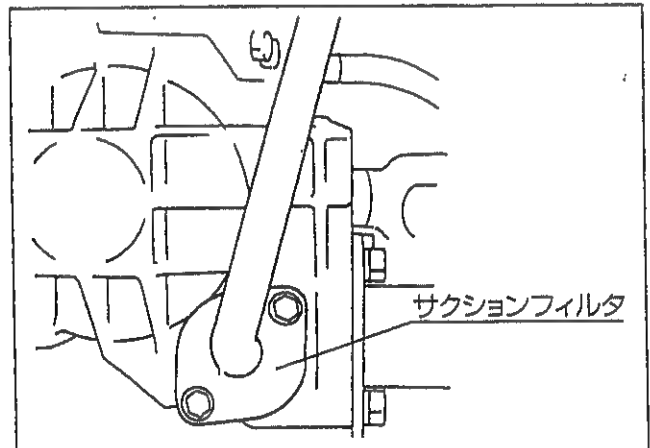
(1) 燃料コックレバーを「停止」位置にしてください。
(2) リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油・ガソリン等で洗浄し、元通り組付けてください。

 危険

(1) 清掃時は、エンジンを停止して行ってください。
(2) 作業中は火気厳禁。

■油圧サクションフィルタの清掃

オイル交換時に、2本のボルトをはずして引き抜き、点検・清掃してください。

 注意

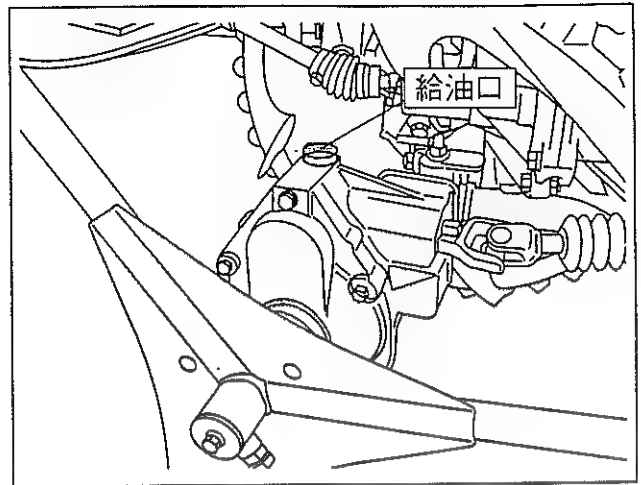
オイル交換時は、エンジンを停止してください。

■リヤミッションオイルの給油

リヤミッション分解時には、キャップを外してオイルを給油してください。

ヰセキハイポイドギヤーオイル 80＃

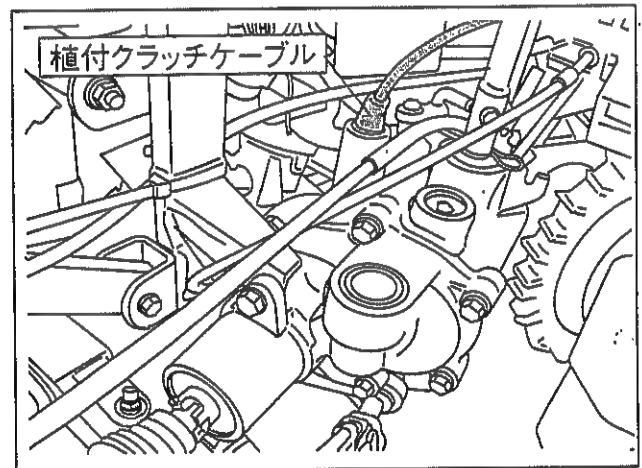
左右各 0.8ℓ

 注意

オイル給油時は、エンジンを停止してください。

■植付クラッチケースの給油

植付クラッチケース分解時には、植付クラッチケーブルを組み付ける穴よりオイルを給油してください。
（ヰセキハイポイドギヤーオイル 80＃ 0.5ℓ）

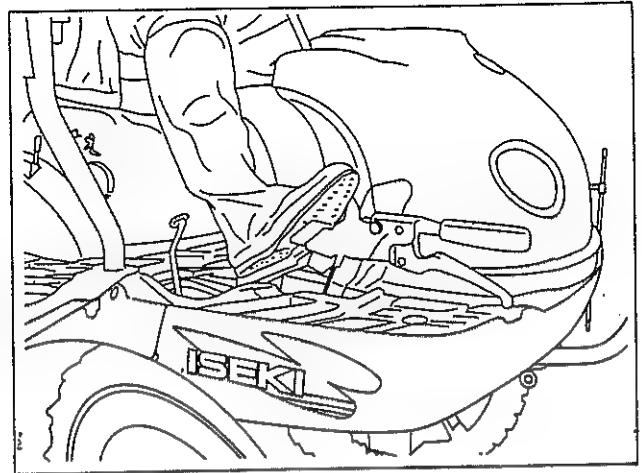
 注意

オイル給油時は、エンジンを停止してください。

■ブレーキペダルの点検と整備

(点検のしかた)

広い安全な場所で、ゆっくり走りブレーキペダルを踏み込んで、すぐに停止できるか確認してください。

重要

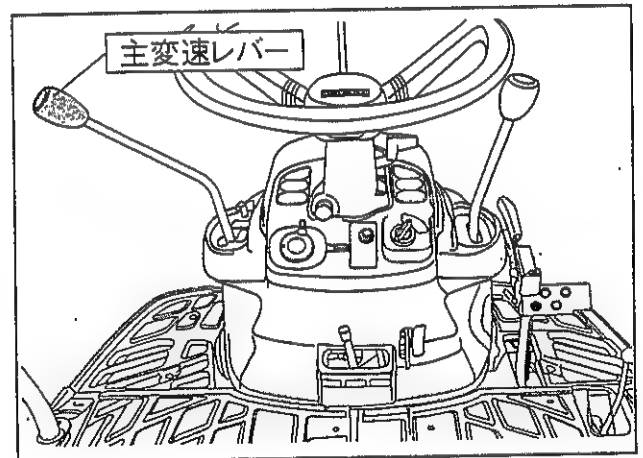
● 4輪ブレーキの調整はクラッチと連動しており複雑になるため必ずお買い上げいただいた先にて行なってください。

> ⚠ **警告**
>
> 調整が合ってないと、クラッチが切れなかったり、4輪ブレーキの効きが悪くなり傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■主変速レバーの点検

(点検のしかた)

広い安全な場所で、ゆっくり走り「前進」から停止位置にして、すぐに停止できるか確認してください。「後進」からも同様にして確認してください。

重要

●主変速レバーは変速装置、クラッチ、4輪ブレーキと連動しており、調整が複雑になるため必ずお買い上げいただいた先にて行なってください。

> ⚠ **警告**
>
> 調整が合ってないと、クラッチが切れなかったり、4輪ブレーキの効きが悪くなり傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■バッテリの点検と取扱い

●バッテリ液の点検

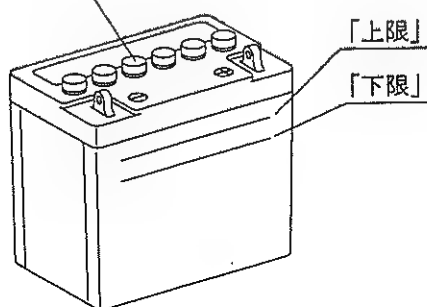
⚠危険

(1) ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また充電は、通気のよいところで行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

(2) バッテリ液(電解液)は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。
失明ややけどをすることがあり大変です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。
(11ページを参照してください。)

(4) バッテリ液は使っているうちに蒸発して減少します。バッテリ液量の点検は作業前に必ず実施し表示されている2本の線(レベル)の間に液面があるよう少ないときは、蒸留水を補給してください。バッテリの液量が下限以下になったまま、使用または充電すると、バッテリの破裂(爆発)の原因となり大変危険です。
(11ページを参照してください。)

重要

●バッテリ液が不足すると、バッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体を腐蝕させます。

●バッテリの取扱い

(1) 気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬期は特にバッテリの管理に注意してください。

(2) バッテリは使用しなくても自己放電しますから補充電を行なってください。
夏期 …………………… 2ヶ月毎
冬期 …………………… 3ヶ月以内

(3) 田植機を長期格納する場合は、バッテリを外し、日光の当たらない乾燥した場所で保管してください。どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側(⊖側)を外してください。

(4) 新品のバッテリと交換する場合は必ず指定した型式(32A19L)のバッテリを使用してください。

重要

●バッテリは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを痛めることがあります。

●バッテリの急速充電はバッテリの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。

●充電は、バッテリの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行なってください。

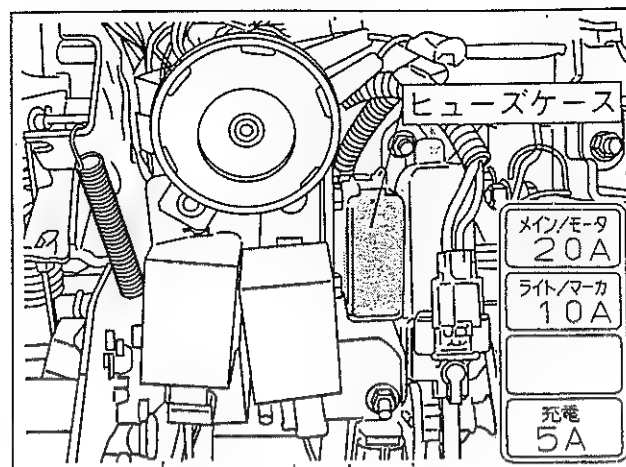
●バッテリを外し、再度取付けるときにはバッテリの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように取付けてください。

●バッテリコード(端子)を取外すときは⊖コードを先に外します。バッテリコードを取り付けるときは⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりします。

■ヒューズの交換

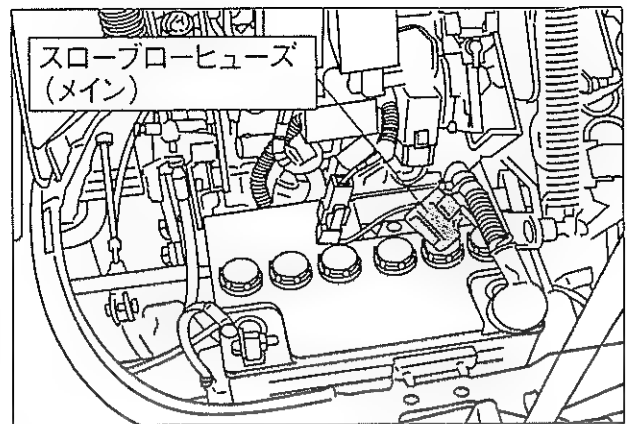
(1) ボンネットを外し、ヒューズケースを開いてください。
(2) 中にヒューズが入っています。
切れたヒューズを外します。
(5A、10A、20A)
(3) 同容量のヒューズと交換してください。

重要

●ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合は、お買い上げいただいた先へご相談ください。

> **⚠ 注意**
> 部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

■スローブローヒューズの交換

(1) ボンネットを外してください。
(2) バッテリ⊕端子部にスローブローヒューズがあります。
焼損したスローブローヒューズを抜き、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

部品コード	品　　名	容量
1627-622-504-0	ヒューズ（ブレード／32V30A）	30A

●スローブローヒューズが焼損した場合は、お買い上げいただいた先へご相談ください。

⚠ 注意
部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

■ランプの交換

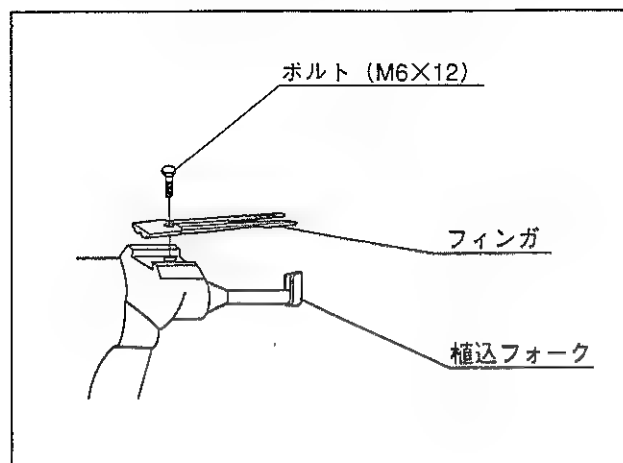
●ランプを外し、同型のランプと交換してください。

●ランプが切れた場合は、お買い上げいただいた先にご注文ください。

⚠ 注意
部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

部品コード	品　　名	使用場所
2161-532-202-00	バルブ（12V 18W）	ヘッドランプ
2132-524-204-10	バルブ（ランプ/12V 8W）	センターマスコットランプ
1403-621-031-00	バルブ（ランプ/12V3.4W）	モニターランプ

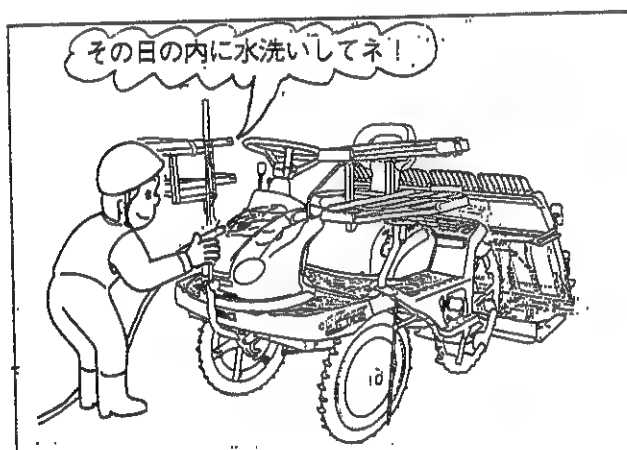
■フィンガ（13/G）（14/G）の点検交換

・フィンガが摩耗又は変形すると植付姿勢が悪くなります。この様な時はフィンガを交換してください。

作業後の手入

注意

(1) 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止して行ってください。
(2) 燃料抜取時は火気厳禁。
(3) 燃料がこぼれた場合はきれいにふき取ってください。
火災の原因になり大変危険です。

■作業後の手入

(1) 作業後、その日の内に水洗いし、回転部などに巻き付いたゴミなどをきれいに取り除いてください。
(2) 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。
(3) 回転部、摺動部にたっぷり油をさし、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。
注油カ所の点検と補給は32～34ページを参照してください。

■長期格納

(1) 格納場所は直射日光の当らない風通しの良い場所を選定し、シートを掛けるようにしましょう。

警告

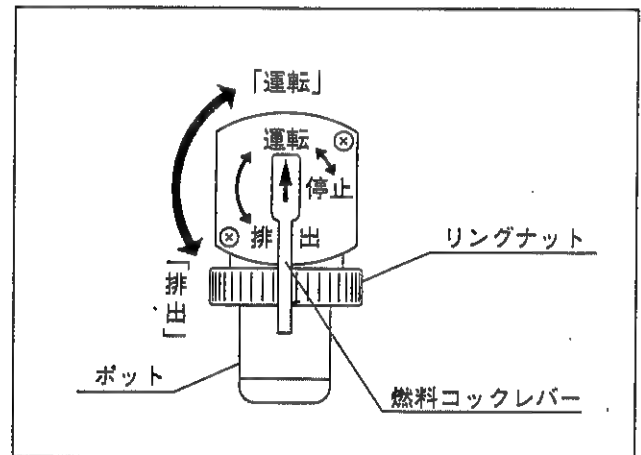
作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、加熱部分が完全に冷えてから行なってください。
熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

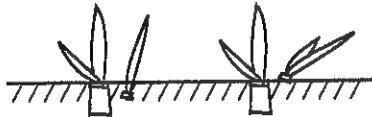
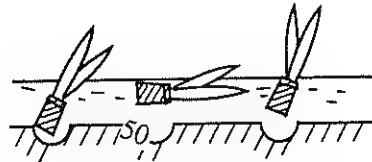
(2) 燃料は必ず抜き取ってください。

①燃料タンク、気化器

燃料コックレバーを「排出」位置にして抜き取り、抜き取り後「運転」の位置にしてください。

②ポット

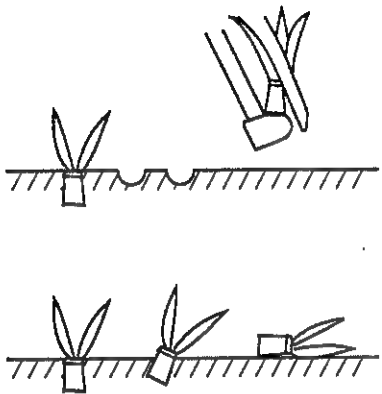
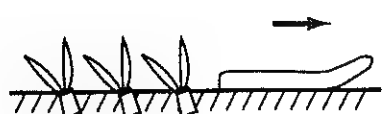
リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油、ガソリン等で洗浄し、元通り組付けてください。

危険

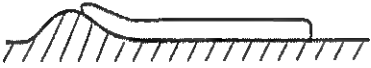
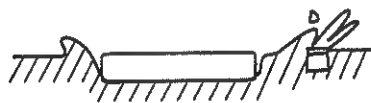
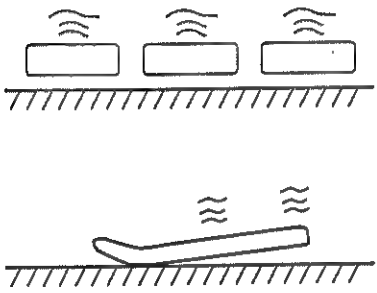
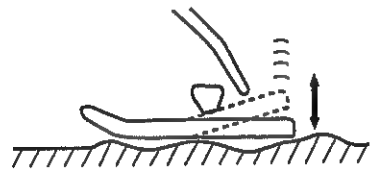
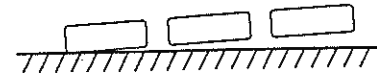
放置すると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となる恐れがあり、大変危険です。

(3) 植付部は降してください。

(4) ブレーキペダルは踏み込みロックしてください。

(5) バッテリーは取りはずし補充電を行ない日光の当らない乾燥した場所に保管してください。

重要

●夏期には2ヶ月、冬期には3か月以内に補充電をするとバッテリーが長く使用できます。

不調時の処置

■不調時の処置

No.	不調の内容	原因	処置方法
1	苗がバラけて植わる。	●苗の根張りが悪い。 ●苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。	●苗に水をかける。 ●植付速度を遅くする。
		●苗の床土が乾いている。	●苗に水をかける。
		●植付速度が速すぎる。	●植付速度を遅くする。
2	苗が一本、二本だけ離れ植付がみだれる。	●苗の根張りが悪い。 ●苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。	●抵抗棒のセット位置をかえる。（50ページ参照） ●苗に水をかける。
		●抵抗棒のセット位置が悪い。	●抵抗棒のセット位置をかえる。(50ページ参照)
		●苗の床土が乾いている。	●苗に水をかける。
3	爪であけた穴がふさがらず、水を入れると浮き苗となる。	●ほ場が硬い。 ●砂質系のほ場。	●水を1～2cm入れほ場の表土を軟らかくして植える。 ●代かき直後に植える。

No.	不調の内容	原因	処置方法
4	苗が植付爪より離れず欠株又は苗がコロブ。	●苗床が粘土質で粘りが強い。 ●粘土質のほ場で水が少ない。 ●抵抗棒のセット位置が悪い。(抵抗のかけすぎ) ●植込フォークの押し出しが遅い。	●苗床に十分水が含む様、水をかける。 ●ほ場に1～2cm程水を入れる。 ●抵抗棒のセット位置をかえる。(50ページ参照)
5	前進方向に傾き植わる。	●抵抗棒のセット位置が悪い。(抵抗のかけすぎ)	●抵抗棒のセット位置をかえる。(50ページ参照)
6	前進方向と反対側に傾き植わる。	●抵抗棒のセット位置が悪い。(抵抗が弱い)	●抵抗棒のセット位置をかえる。(50ページ参照)

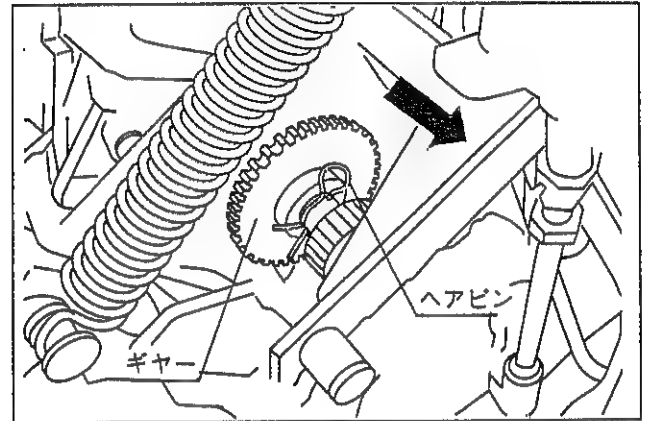
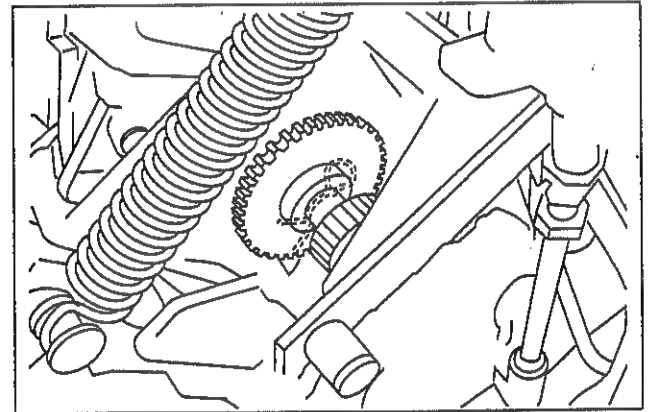
No.	不調の内容	原因	処置方法
7	フロートで泥を押す。	●油圧感度調節が田んぼの硬さにあっていない。	●油圧感度調節レバーを「軟らかい」方向に泥を押さなくなるまで調節する。
		●田んぼの表土がやわらかい。	
	フロートが沈み跡が深く付く、又は苗が内側に倒れ込む。	●植付速度が速すぎる。	●植付速度を遅くする。
		●田んぼの表土がトロトロでやわらかい。	●水を落し表土を硬くする。又は硬くなるまで植付を延期する。
	サイドフロートで泥を押し隣接苗を倒す。	●苗を多く乗せすぎている。	●苗のせ台に苗を多く(2枚)のせない。

No.	不調の内容	原因	処置方法
8	フロートが浮き上がる。	●油圧感度調節が田んぼの硬さにあっていない。	●油圧感度調節レバーを「硬い」方向にフロートが浮き上がらなくなるように調節する。
		●油圧感度調節レバーが、「植付固定」の位置になっている。	●油圧感度調節レバーを植付できる適正な位置に調節する。
9	植付部全体がバタバタする。	●油圧感度調節が「軟らかい」側によりすぎている。	●油圧感度調節レバーを「硬い」方向にバタつきがなくなるように調節する。
		●エンジン回転数が高すぎる。	●エンジン回転数をさげる。
		●田んぼの耕盤が凸凹している。	●植付速度を遅くする。
		●土のかたまりの上にセンサーフロートが乗っている。	●そのまま前進する。 ●植付クラッチレバーを「中立」位置にする。
10	サイドフロートの片方だけが浮き上がる。	●植付部の左右のバランスがとれていない。	●バランススプリングの張りをかえ左右のバランスを取る。 (お買い上げいただいた先に御相談ください。)

■電動ベルコンの応急処置

● もし、主変速レバーが正常に作動しなくなった場合は、下記の要領で手動に切替えて、応急的に作業ができます。

①ボンネットを取外します。

②ヘアピンを抜き、ギアーを図の矢印の方向に止まるまで移動します。

③②で抜いたヘアピンを図の位置（ギヤーの奥側）に挿入します。

重要

●センサー、スイッチの点検または、配線の修復を必要とする故障と考えられますので、買い上げいただいた先へご連絡ください。

警告

応急処置をすると主変速レバーにて停止することはできません。停止するときは必ずブレーキペタルを踏み込んで停止してください。

注意

応急処置の作業をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
これを怠ると思わぬ事故の原因となります。

農作業を安全に行なうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。

取扱説明書の内容と併せて熟読の上、事故のない楽しい農作業のためお役立てください。

第1　一般共通事項

1. 適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

2. 就業の条件

(1) 安全作業の心得

農業機械を使用して行う作業（以下「機械作業」という。）に従事するものは、機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図るとともに、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

(2) 就業者の条件

ア、次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

(ア)精神病者

(イ)酒気をおびた者

(ウ)若年者

(エ)未熟練者

(オ)過労、病気、薬物の影響その他の理由により、正常な運転操作ができない者

イ、はげしい作業が続く場合には特に健康に留意し、適当な休けいと睡眠をとること。また妊娠中の者は振動を伴う機械作業に従事しないこと。

(3) 特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分に検討すること。

3. 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。

また、機械には、子供を近寄らせないよう注意すること。

4. 安全のための機械管理

(1) 日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、つねに機械を安全な状態に保つこと。

(2) 防護装置の点検

ア、機械作業に従事する事は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

イ、機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備又は修理等のために取りはずした場合は、必ず復元しておくこと。

(3) 揚げ装置の落下の防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

(4) 整備工具の管理

点検整備に必要な工具を適正に管理し、正しく利用すること。

5. 火災、爆発の防止

(1) 引火、爆発物の取り扱い

引火又は爆発のおそれのある物質の貯蔵、補給等にあたっては、その取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

(2) 火災予防の措置

火災のおそれがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等、火災防止の措置を講じること。

6. 服装及び防護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装及び防護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

(1) 頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び落下物のおそれの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

(注)田植機に乗ったままで道路を走行する事はできません。

(2) 巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機又は駆動する作業機を使用する場合には、衣

服の一部、頭髪、手拭等が巻き込まれないように適正な帽子及び作業衣等を使用すること。

(3) 足の傷害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等のおそれのある場合は、これらの事故を防止するために適正なはきものを用いること。

(4) 粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあたっては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

(5) 農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具(保護衣を含む。)を使用すること。

(6) はげしい騒音に対する措置

はげしい騒音の伴う作業にあたっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

(7) 保護具の取り扱い

安全保護具を、常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

第2　移動機械共通事項

1. 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業する機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

2. 作業前の注意事項

(1) 機械の点検整備

ア、機械の点検整備を十分に行い、その使用にあたっては常に安全を確認すること。

イ、機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。

特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

ウ、装着する作業機の種類により前後左右のバランスが大きく変るおそれがある場合には、バランス・ウエイト等により適正なバランスを保つこと。

(2) 防護装置の保全

ア、機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。

イ、機械の点検整備等のために防護装置を取りはずした場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

(3) 悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注意すること。

3. 作業中の注意事項

(1) 乗車等の禁止

ア、機械作業に際して機械には、指定の箇所以外に他人を乗せないこと。また、指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。

イ、非常の場合を除いて、運行又は作業中の機械に飛び乗り、又はこれから飛び降りないこと。

ウ、機械作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

(2) 前方及び後方の安全確認

運行中又は作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

(3) 転倒落下の防止

ア、傾斜地における機械作業においては機械の転倒を防ぐために速度、旋回、作業方法等に注意して運転操作を行うこと。

イ、ほ場への出入り、溝又は畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転倒を防ぐために、特に注意すること。

ウ、機械の積み降しに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

(4) 傷害の防止

ア、動力伝導装置、回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

イ、刃又は鋭利な突起を有する機械で作業を行う場合は、傷害防止のために特に注意すること。

ウ、作業中に土塊・石等が飛散する作業においては、飛散物によって傷害が起らないように注意すること。

(5)夜間における安全

夜間作業においては、特に安全に注意し、的確な照明を行うこと。

夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

(6) 作業中の点検調整等における安全

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。

休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、更に車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

4. 終業後の点検整備

(1) 終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

(2) 作業機のとりはずし

作業機のとりはずしは、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。特に夜間の作業機のとりはずしは、安全で適切な照明を用い、安全に留意して行うこと。

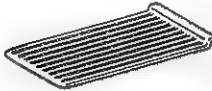
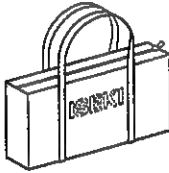
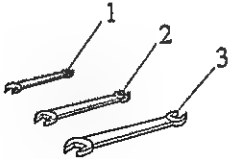
(3) 機械の安全管理

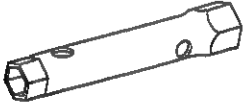
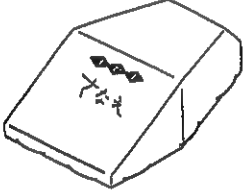
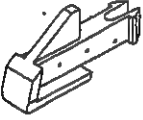
作業終了後は、作業機ははずし、又はおろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。

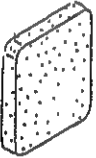
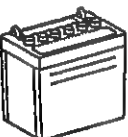
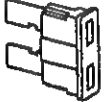
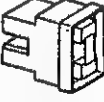
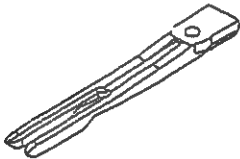
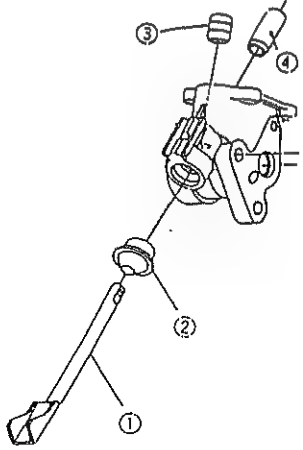
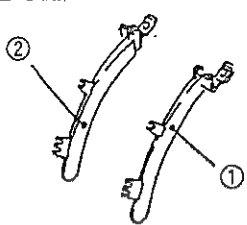
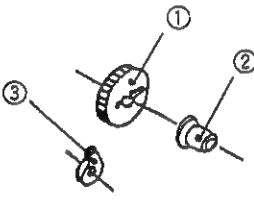
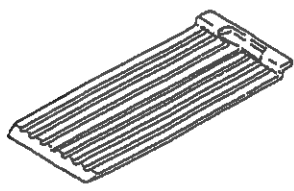
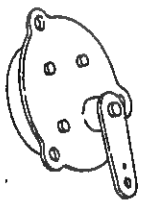
また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態に置くこと。

サービス資料

■ 推奨潤滑油一覧表

区分		メーカ名	商品名
エンジンオイル		井関農機	ヰセキ純正オイル 10W30# (20リットル缶：7019-009-300-00 4リットル缶：7019-009-400-00)
ギヤーオイル	チェンジミッションオイル	井関農機	ヰセキハイポイドギヤーオイル 80# (20リットル缶：7019-001-300-00 4リットル缶：7019-001-400-00)
	リヤミッションオイル		
	植付クラッチケースオイル		
	横送りケース		
	サイドフレーム	他有名メーカのグレードGL-4以上使用	
グリース	一般グリース		エトライト No.2
	ロータリーケース		ユニルーブ 00#
	植込杆	井関農機	ウエコミカングリス(ワンルーバーMP1#)
燃料		有名メーカ品	自動車用無鉛ガソリン

■主要諸元

名称				PQ5	PQ4	
型式名				キセキPO305	キセキPO294	
区分				DU	D	DU
駆動方式				4輪駆動		
機体寸法	全長 (mm)			2,600	2,520	
	全幅 (mm)			1,870	1,570	
	全高 (mm)			1,530	1,440	
	最低地上高 (mm)			385	360	
重量 (kg)				370	320	325
エンジン	型式名			FE250G		
	種類			空冷4サイクル1気筒OHVガソリンエンジン		
	総排気量 (ℓ)			0.249		
	出力/回転速度 (PS/rpm)			6.0/1800(最大8.8/2000)		
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン		
	タンク容量 (ℓ)			6.1		
	始動方式			セルモータ		
走行部	かじ取り方式			センターヨーク式		
	車輪	種類個数	前輪	ノーパンクタイヤ×2		
			後輪	ゴムラグ車輪×2		
		外径 (mm)	前輪	600		
			後輪	800	750	
	変速段数 (段)			前進12、後進3		
植付部	植付部の位置			後部		
	植付部の昇降方式			油圧式		
	植付部の装着方式			4点リンク		
	植付方式			ロータリー		
	植付条数 (条)			5	4	
	植付条間 (cm)			30		
植付株数 (株/3.3m²)				37・42・47・60・70・80		
植付深さ (cm)				1.2～4.8(7段)		
一株本数調節方法				横送り12・14mm/株、縦かき取り8～18mm/株		
植付速度 (m/秒)				1.2	1.1	
作業能率 (分/10a)				14	19	
苗の種類				マット苗		
草丈 (cm)				10～25		
葉令 (葉)				2～4		
予備苗とう載数 (箱)				6	4	
安全鑑定適合番号				申請中		

■機能装備一覧表

		PQ4				PQ5	
		D	DU	DB	DUB	DU	DUB
エンジン	8.8ｐｓ	○	○	○	○	○	○
変速	ベルコン	○	○	○	○	○	○
パワーステアリング			○		○	○	○
前輪ノーパンク（ϕ600）		○	○	○	○	○	○
後輪	ゴムラグ車輪（ϕ750）	○	○	○	○		
	ゴムラグ車輪（ϕ800）					○	○
バックリフト（切替え付）		○	○	○	○	○	○
超低速		○	○	○	○	○	○
フロントホイルキャップ		○	○	○	○	○	○
前輪デフロック		○	○	○	○	○	○
後輪ローリング		○	○	○	○	○	○
ワンタッチ横送り2段		○	○	○	○	○	○
ロング苗タンク		○	○	○	○	○	○
あぜクラッチ		○	○	○	○	○	○
両側線引可能マーカ		○	○	○	○	○	○
補助苗搭載量（箱）		4	4	4	4	6	6
ホイールベース（㎜）		950	950	950	950	1000	1000

■標準付属品

形　状	型　式	品　名	部品コード	個数
	全型式	マニュアル (オペレーション)	2194-970-001-00	1
	全型式	ナエトリイタ	2161-971-004-00	1
	全型式	ナエトリクチゲージ	2144-930-002-10	1
	全型式	コウグブクロ	3560-702-001-10	1
	全型式	アブラサシ	3502-602-004-00	1
	全型式	プライヤG150	V936-150-015-00	1
1 2 3	全型式	①リョウグチスパナ（ヤリ）(12-14) ②リョウグチスパナ（ヤリ）(10-13) ③リョウグチスパナ（ヤリ）(17-19)	V922-551-201-4 V922-551-001-3 V922-551-701-9	1 1 1
	全型式	ヒューズ（スペア）SET	2186-971-200-00	1

形　　状	型　式	品　　　名	部品コード	個数
	全型式	ジョウゴASSY	2188-973-200-00	1
	全型式	サシカエドライバASSY	2130-931-210-00	1
	全型式	ツール（レンチ）19×21	92110-2051	1
	PQ5型	カバー（タウエキ／5）	2171-970-003-00	1
	PQ4型	カバー（タウエキ／4）	2171-970-004-00	1
	全型式	フォークピース（PG）	2186-751-001-00	1台分

■主な消耗部品一覧表

形状	型式 PQ5	型式 PQ4	品名	部品コード	備考
	○	○	プラグ（NGK BP5ES）	5920-701-167-××	
	○	○	エレメント（エアフィルタ）	5110-132-157-××	
	○	○	バッテリー（32A19L／CA）	2186-541-200-00	
エンジンベルト	○	○	ベルト（ニュウリョク／PQ）	2194-131-003-00	亀裂・摩耗時交換
ベルコンベルト	○	○	ベルト（ベルコン／PQ）	2194-131-201-00	
	○	○	ヒューズ（ブレード／32V05A）	1650-664-264-00	ヒューズ切れ時交換
			ヒューズ（ブレード／32V10A）	1575-623-010-00	
			ヒューズ（ブレード／32V20A）	1593-623-203-00	
	○	○	ヒューズ（ブレード／32V30A）	1627-622-504-00	
〈ヘッドランプ用〉	○	○	バルブ（12V18W）	2161-532-202-00	ランプ切れ時交換
〈センターマスコット用〉	○	○	バルブ（12V18W）	2132-524-204-10	

形　　状	型式 PG8	型式 PQ4	品　　名	部品コード	備　　考
〈モニターランプ用〉	○	○	バルブ （ランプ，12V3, 4W）	1403-621-031-00	ランプ 切れ時交換
〈しゅう動板スライダー〉	○	○	スライダー	2161-831-0002-00	摩耗時交換
	○		マエイタ（PQ5）	2194-803-031-00	
		○	マエイタ（PQ4）	2194-803-001-00	
	○	○	ナエタンクローラ	2130-802-011-10	
	○	○	各ケーブル		作動が重く なったら 交換
	B型以外		フィンガ（13／G）	2186-738-033-00	摩耗時又は 変形時 交換
	B型		フィンガ（14／G）	2186-740-033-00	
	○	○	①フォーク （ウエコミ）COMP	2186-738-200-00	摩耗時交換
	○	○	②フォークシール （ウエコミフォーク）	2186-738-046-00	
	○	○	③クッション	2186-738-029-20	
	○	○	④ブッシュ （08×12×29）	2186-738-024-00	

形　　状	型式		品　　名	部品コード	備　考
	PQ5	PQ4			
	○	○	①ガイド (ナエアンナイLH)	2186-803-002-00	摩耗時交換
	○	○	②ガイド (ナエアンナイRH)	2186-803-003-00	
	○	○	①ラチェットホイル (35) ②ブッシュ (ナエオクリアーム) ③ラチェットツメ	2161-835-002-00 2161-835-003-00 2161-835-006-00	
	○	○	ナエトリイタ	2161-971-004-00	
	○	○	ブレーキ（4リン） ASSY	2171-234-300-00	ブレーキの 調整ができな くなったら

■注文部品一覧表

No	SET品名	部品コード	対象型式	参考情報資料
1	ステアリング（グリップ）ASSY	2175-301-400-0	全	
2	ウエコミカングリス（300G）ASSY	8849-001-200-0	（約8条分）	
3	ウエコミカングリス.（150G）ASSY	8849-001-300-0	（約4条分）	
4	ブンリバリSET	2186-738-800-0	全	
5	ヒロハブンリバリSET	2186-738-810-0	全	
6	フォーククリーナー	2186-738-055-0	分離針，広幅分離針	
7	フロントアームSET	2194-526-300-0	全	
8	ウエイト（7KG）	2194-137-001-0	全	

索　引

	項目	ページ
あ	アクセルペダル	20
	アクセルレバー	20
	アユミ板	6
	安全クラッチ	59
	安全のポイント	1
	安全表示ラベル	12
	あぜクラッチ「切」モニター	19
い		
う	ウインカスイッチ	18
	植込杆	15
	植込杆停止レバー	26
	植えじまいのしかた	57
	植付株数(株間)の決めかた	45
	植付クラッチケースの給油	65
	植付クラッチモニター	19
	植付クラッチレバー	25
	植付深さ調節レバー	27
	植付深さの調節のしかた	46
	運搬中の固定方法	41
え	エアクリーナエレメント洗浄	63
	SSレバー	24
	エンジンオイル	31
	エンジンオイルの交換	62
	エンジン型式名	35
	エンジンの始動	36
	エンジンの停止	14
	エンジン番号	14
お	応急処置	77
	オイルの注油箇所	33
	オートマーカの使いかた	54
	オートマーカモニター	19
か	株数切替レバー	25
	回動式補助苗枠	29
き	機能装備一覧表	83
	きょう雑物	43
く	グリースの注入箇所	33
	グリースの塗布箇所	33
け		
こ		

	項目	ページ
さ	サイドフロート	15
	作業後の手入れ	15
	座席	28
	座席の調節	71
し	しゅう動板ガード	15
	しゅう動板（マエイタ PQ5)	87
	しゅう動板（マエイタ PQ4)	87
	主変速レバー	22
	主変速レバーの点検と調節	66
	消耗部品一覧表	86
	主要諸元	82
	代かき	43
す	スポンジエレメント	63
	スローブローヒューズの交換	69
せ	製造番号	14
	旋回のしかた	53
	センターフロート	15
	センターマスコット	18
	センターマスコットランプ	86
	線引きマーカ	15
	前輪デフロックペダル	23
そ	走行のしかた	38
	疎植レバー	25
	疎植レバーと株数切替レバーの切替えかた	45
た		
ち	チェンジミッションオイル	32
	注文部品一覧表	89
	チョークノブ	20
	長期格納	72
	駐車のしかた	38
つ		
て	抵抗棒の調節のしかた	50
	停止のしかた	37
	点検、給油、調整一覧表	60
	点火プラグの清掃	63
と	トラックへの積み・降ろしのしかた	40

索　引

	項　目	ページ
な	ナエオサエ	27
	苗ストッパー	28
	苗取量調節レバー	27
	苗取量調節のしかた	48
	苗のせ台	15
	苗の補給のしかた	56
に		
ぬ		
ね	燃料計	19
	燃料コックレバー	9
	燃料タンク	31
	燃料フィルタの清掃	64
の		
は	発進のしかた	37
	バックリフト切替レバー	26
	バックリフトの使いかた	55
	バッテリの点検と取扱い	67
	販売型式名	14
ひ	PTO切替レバー	22
	ヒューズの交換	68
	標準付属品	84
ふ	フィンガ（13K/H）、（14/H）の点検交換	70
	副変速レバー	23
	不調時の処置	73
	ブレーキペダル	21
	ブレーキペダルの点検と調節	66
へ	ヘッドランプ	69
	ベルト	86
ほ	ホーンスイッチ	17
	ほ場からの出かた	42
	ほ場の準備	43
	ほ場への入りかた	42
	補助苗枠	15
	ボンネット	15

	項　目	ページ
ま	枕地のとりかた	53
	マーカ切替スイッチ	18
	マーカ両出しのしかた	54
み		
む		
め	メインスイッチ	17
も	モニターランプ	69
や		
ゆ	油圧感度調節レバー	26
	油圧感度調節のしかた	49
	油圧サクションフィルタの清掃	64
よ	横送り切替レバー	27
	横送り量の調整のしかた	47
	4輪ブレーキ	24
	4輪ブレーキ解除レバー	24
ら	ライトスイッチ	17
	ランプの交換	69
り	リヤミッションオイル	65
	隣接マーカ	15
る		
れ		
ろ	ロック解除ペダル	21
わ		
ん		

井関農機株式会社

本　　　社	〒799-2692	松山市馬木町700	☎089-978-1211
本社事務所営業本部	〒116-8541	東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号（ＦＳビル）	☎03-5604-7625
北海道支店	〒006-0805	札幌市手稲区新発寒5条1丁目5番1号	☎011-667-6277
〃	〒068-0005	岩見沢市5条東12丁目5番地	☎0126-22-2666
東北支店	〒989-2421	宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2	☎0223-24-1111
関東支店	〒300-2346	茨城県筑波郡伊奈町青木560	☎0297-58-5131
関西支店	〒523-0016	滋賀県近江八幡市千僧供町大橋602	☎0748-37-3831
中四国支店	〒799-2692	松山市馬木町700	☎089-979-4111
九州支店	〒861-2297	熊本県上益城郡益城町大字安永1400	☎096-286-4020

2191-910-001-1B